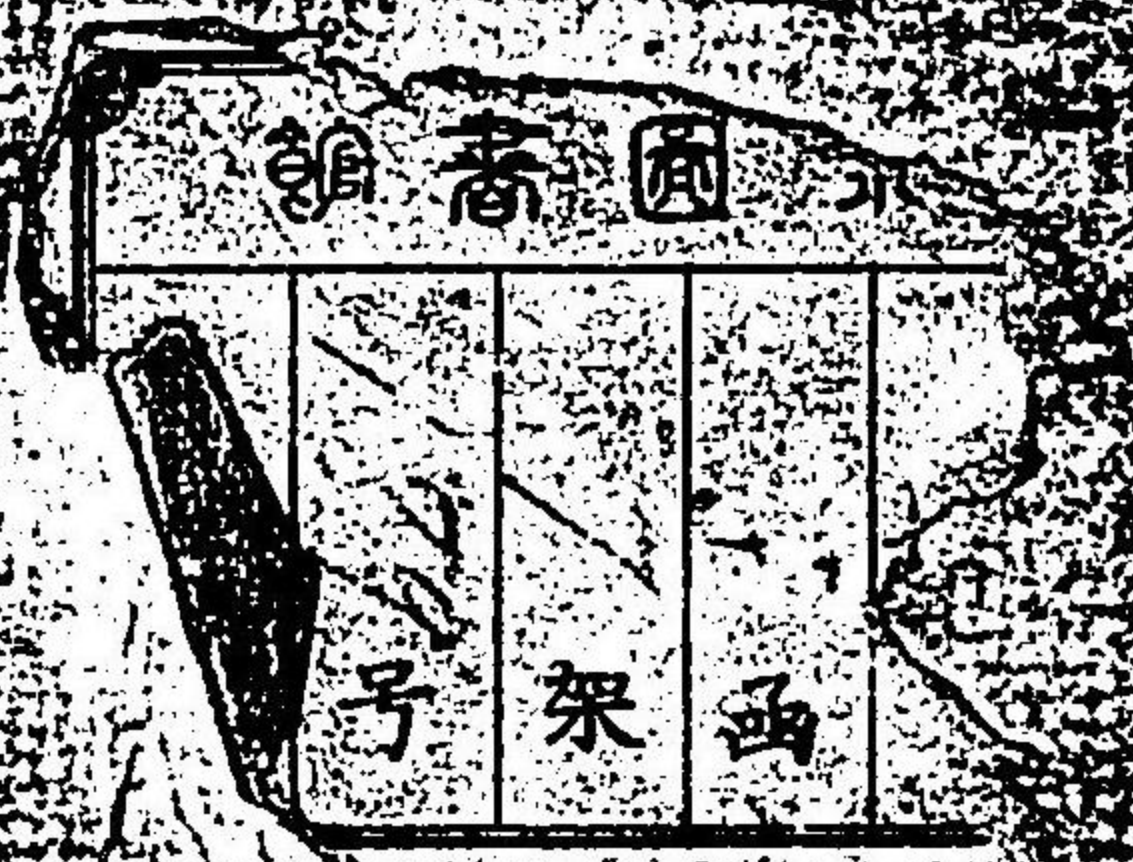


陸軍士官学校編纂
兵要地誌

大日本之部
和山城大津河内
自卷之七



3
14
18

023107-001-2

3-189

兵要地誌 大日本之部

陸軍士官学校/編

M21

ADB-1115



陸軍士官學校編纂

兵要地誌

大日本之部

內外兵事新聞局藏

1100-05

兵要地誌 大日本之部卷之三 目錄

畿内

山城國誌

總論

山論

周脈及諸山

東北脈

東南脈

西北脈

西脈

西南脈

一丁

二丁

二丁

七丁

八丁

十丁

十三丁

兵要地誌 山城國誌

No 9007

東國通志

東國通志

東國通志

東國通志 大日本之部卷之三 目錄

東南脈
西北脈
西南脈

目錄

一 丁
二 丁
二 丁
七 丁
八 丁
十 丁
十三 丁

水論

淀河ノ灌域

十六丁

淀河ノ水路及其朝流

淀河ノ水路

十七丁

右朝流

二十一丁

左朝流

三十四丁

交通路

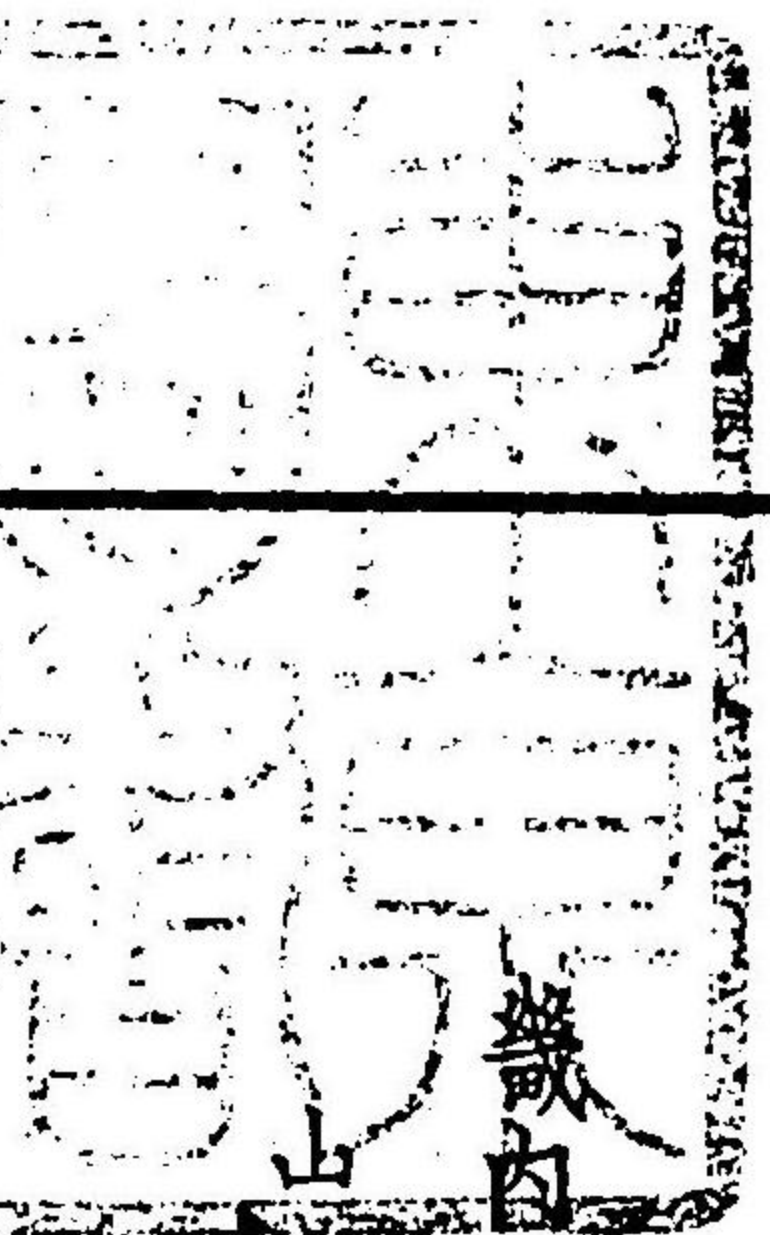
三十九丁

沿革史略

四十二丁

兵要地誌 大日本之部卷之三

陸軍助教田付直男 纂述



山城國誌 畿内



山城國ハ東山、山陰二道ノ兩端ニ夾マリ畿内ノ北方ニ位
シ、北緯三十四度四十三分ヨリ三十五度十七分西經三度
四十五分ヨリ四度十二分ノ間ニ亘リ、其疆界南方ハ大和
ニ接シ、東南ハ伊賀ニ界シ、西南ハ河内攝津ニ交ハリ、西ヨ
リ北ニ至リテ丹波ニ隣リ、東方一帯總テ近江ノ彎形ヲ受
ク、廣袤東西凡六里、南北凡十五里、之ヲ劃シテ八郡トス、愛

岩葛野二郡ハ北方ニ相並ヒ、俱ニ其一邊ヲ近江或ハ丹波
 ニ接ス、其南ニ乙訓宇治ノ二郡アリ、東西ニ隔居シ、其東南
 綴喜郡ト紀伊久世二郡ヲ中央ニ抱擁シ、亦皆其一邊ヲ近
 江丹波攝津ニ接シ、相樂郡ハ東南隅ニ偏倚シテ、綴喜郡ノ
 南ニ位シ、正南一帯大和ト接壤ス、人口總テ四十六万三千
 百七十三十四年ノ調查ニ據ル
 本州ハ四境山脉ヲ繞ラシ、東北ハ高シテ最險、西南ハ低シ
 テ稍坦、河水衆多、略、西南ニ相會シテ西ニ注キ、甲土肥沃、景
 致秀麗、名祠、木利勝境、古蹟頗多シ、内地ノ形中央ニ凹ス、古
 來四戰ノ地ト稱ス、氣候令暖、時ニ變シ、陰晴常ナラス、冬時
 最峭寒ヲ覺フ、極暑九十五度、極寒三十一度

物産ノ主要ナル者 礦物ハ砥石、燧石、白川石、石灰、茶、白石
 植物ハ五穀、菜種、馬鈴薯、甘薯、蕎麥、實綿、茶、藍、麻、胡麻、碗豆、蠶
 豆、葉烟草、筍、薑、牛蒡、蘿蔔、芋、南瓜、茄子、胡瓜、越瓜、乾瓜、絲瓜、甜
 瓜、蕪菜、松茸、蓴菜、慈姑、芍藥、薄荷、天門冬、桃、梅、梨、栗、轉柿、山椒、
 柚、椎杉、竹、動物ハ鯉、鯽、鱈、川鱸、鱒、鮎、蠶、種、製造食物ハ味噌
 豆腐、晒寒天、羊羹、製作物ハ織物、漆物、糸條、裁縫物、刺縫物、金
 屬、箔粉、金銀器、銅器、胴胎七寶器、真鍮器、鍍金器、錫器、鐵器、及
 物、鐵葉細工、漆器、竹細工、藤細工、萱細工、椶櫚細工、象牙細工、
 玻璃細工、革皮製品、陶磁器、瓦、煉化石、油蠟燭、香具、繪具、染料、
 一開張、紙筆、墨、刷毛類、眼鏡、扇子、團扇、傘、筭盤、草履、針等トス

山論

周脉及諸山

本州ノ地、東ニ遼ノ、西ニ張ル、略梯ノ形ノ如ニシテ、南北ニ長ク、東西ニ短シ、故ニ周圍ノ山脉、東西ハ伸長シ、南北ハ短縮ス、河流四條、此周脉ヲ五節ニ流斷シ、長短各一ナラス、曰ク東北脉曰ク東南脉、曰ク西北脉、曰ク西脉、曰ク西南脉、即是ナリ、今逐次之ニ屬スル諸山徑及枝脉ヲ左ニ掲ク

東北脉

東北脉ハ朽木川上谷以南、宇治川ノ右岸ニ至ル迄ヲ云ス、此山脉、中央以北ハ略直ク、以南ハ稍屈曲シテ、東南ニ向ヒ、大小ノ峰巒高低相連續シテ、本州ノ東北ニ亘リ、其山脊稜聳トシテ、近江國トノ境ヲ劃ス、比叡山、如意嶽、笠取山等ノ數

山、本脉内ニ列シテ最著大ナリ、今北ヨリ次ヲ逐フテ、左ニ説叙ス、

比叡山ハ愛宕郡ノ東南ニアリ、山身廣大、近江ニ跨リ、樹林少ナシ、其頂春ニ及テ尚殘雪アリ、古來都富士ト稱ス、故ニ此山ヲ以テ山城ノ有ニ屬ス、登路數條アリ、西坂本、雲母坂、不動坂、大原道其最タリ、雲母坂ハ西ニアリ、其中途ヲ水呑ト云フ、延元元年六月、帝本山ニ幸ス、賊將高師重大兵歩騎二十万ヲ率テ來リ侵ス、新田義貞等此處ニ邀ヘ撃テ、大ニ賊兵ヲ破リ、師重ヲ擄ニス、一乘寺村ハ西南麓ニアリ、地勢東ニ高シ、寨址ヲ存ス、天正元年六月、渡邊宮内磯貝某等足利義昭ノ徒士之ニ據ル、義昭破ル、ヲ聞キ乃降ル、其西南ニ隣スル一村

白川山

白川城址

勝軍山

ヲ白川村ト云フ、東北ノ山ヲ総テ白川山ト稱ス、又鑑山情
 延山ノ別稱アリ、山中處々ニ瀑泉アリ、最北ノ山頂ニ城址
 ヲ存ス、白川城ト稱ス、大永中、足利義澄築キ而シテ之ニ據
 ル、義晴モ亦之ニ居ル、佐々木承禎近江ヨリ來リ攻ム、城兵
 支ヘス、城ヲ燒テ近江志賀郡ニ走ル、義輝尋テ之ニ居ル、後
 廢ス、勝軍山亦一山ナリ、其南ニ位ス、地中悉ク白石ナリ、所
 謂白川石即是ナリ、山頂ニ小祠アリ、勝軍地藏堂ト云フ、山
 ノ名此ニ因ル、永祿元年六月、佐々木承禎將軍義輝ヲ擁シ、
 三好長慶ト此處ニ戰フ、勝敗決セス、終ニ和ヲ媾ス、四年七
 月、承禎一城ヲ此ニ構ヘ以テ三好氏ニ迫ル、地勢高隆、西北
 京師ヲ一望ス、位置要害ナリ、山ノ南北ニ二山徑アリ、南ヲ

大原山

山中越或ハ今道ト云ヒ、北ヲ白鳥越ト云フ、皆近江ニ通ス、
 山徑ノ條ニ詳ニス
 比叡山ノ北、本脉内ニ秀出スル一山ヲ大原山ト云フ、相距
 ル數里、西麓ハ高野川ノ左岸ニ迄ヒ、枝脉西北ヨリ西南シ
 テ、此河ノ上谷ヲ繞リ、愛宕郡ノ中央處々ニ隆起シテ、翠黛
 袖踏岩倉等ノ諸山トナリ、高野加茂二川ノ上谷ヲ分界ス、
 如意岳ハ白川山ノ東南ニアリ、本脉内ニ列ス、岳南直ニ園
 城寺近江滋賀郡ニ赴ク道アリ、之ヲ如意越ト云フ、本脉山徑ノ
 天文十九年、細川晴元六角定頼、城ヲ築シハ即此處ナリ、山
 脚、西加茂川ノ左岸ニ延キ、稍、其中途國道線第一ニ斷截セ
 ラレ、再、西南ニ起伏シテ、花頂山、靈山、阿彌陀峯等ノ小巒及

東山

花頂山

臺地ヲ為ス、此ヨリ以東諸山ヲ總稱シテ東山ト云フ、花頂山、粟田口村ニアリ、山上西方ヲ俯視ス可シ、延元元年正月、義貞等、三井寺近江滋賀郡ノ軍ニ克テ、進テ本州ニ入り、自ラ花頂山ニ登リ、期ヲ視テ烽ヲ舉ケ、諸將ト合撃、大ニ足利氏ノ大兵ヲ破ル、西北ニ接スル一高地ヲ將軍塚ト云ヒ、其西麓ヲ真如堂ト云フ、當時皆官軍ノ陣地タリ、知恩院ハ將軍塚ノ西北山下ニアリ、寺域廣濶一万三千餘坪、陣營ニ適ス、天正元年正月、足利義昭、織田信長ト隙アリ、信長岐阜美濃厚見郡ヲ發シテ直ニ大津近江滋賀郡ニ至リ、進テ此ニ陣ス、阿彌陀峰甚高カラス、其南ニアリ、延元元年八月、官軍歩騎三千、毎夜山頂ニ燎ヲ焚キ、以テ兵勢ヲ示ス、賊畏レテ來リ侵サス、此

知恩院

伏見城址

地以南、宇治川ノ右岸ニ迄、山陵連續、高瀬川其西ヲ流レ、山科川其東ヲ境ヒシ、地勢西ニ低フシテ、東ニ高ク、鉄道線其中央ヲ東西ニ横キリ、伏見街道其西邊ヲ通シ、二道、深草村ニテ相交リ、十字形ヲナス、其東ニ接シテ稻荷山アリ、城山挑山相次テ其南ニ位シ、西伏見町水論ニニ臨ム、三山皆甚高カラス、稻荷山松樹多シ、山頂京師ヲ瞰フヘシ、應仁ノ亂、僧道源、其徒ヲ招集シテ此ニ陣シ、西陣山名ヲ、厩ス、邊境ノ民多ク之ニ應ス、山名氏大ニ驚キ、急ニ來リ襲フ、衆寡敵ヤス、道源敗レ走ル、城山ハ伏見城ノアリシ所ニシテ、位置山河ヲ控ヘ、本州ノ中央ヲ占ム、北京師ニ近シ、當時城郭宏壯、今ハ其名ヲ存スルノミ

笠取山

城山ノ東方、本脉ノ稍南端ニ在、テ秀出スル一山ヲ笠取山
一名醍醐山ト云フ、山勢高聳、樹林蒼鬱、溪泉ニ富ム、宇治川
又日野嶽ト云フ、山勢高聳、樹林蒼鬱、溪泉ニ富ム、宇治川
近江ヨリ來、テ其南麓ヲ流レ、北ニ牛尾音羽二山アリ、山脉
起伏、相連亘シテ國境ヲ劃シ、西南ニ喜撰嶽、旗尾山等、笠取
山ノ南脚内ニ崛起シテ、宇治川ノ北方ニアリ、兒山子峯其
間ニ羅列シ、山脚漸ク西方ニ陵夷シテ、山科川ノ凹谷ヲ開
ク、音羽山國境ニ位シ、山形秀麗、東近江ニ跨リ、其頂ニ州本
及近江ヲ俯視ス可シ、喜撰嶽舊名ヲ宇治山ト云ス、山高シテ
峯圓ナリ、西北遙ニ西京ヲ臨ミ、南ハ宇治川ノ右岸ニ迫リ、屹ッ
山中樹木アリ、清泉涌出、四時渴キス、以上ノ山簇、宇治全部ニ團
結シ、地勢東ニ開チテ西ニ開ケ、山路東スルニ隨テ益險ナリ

喜撰嶽

本脉ヲ横過スル山徑數條アリ、左ニ掲ク

第一 久多越トス、愛宕郡ノ極北ニアリ、河合村愛宕郡ヨリ

小川村近江國高島郡ニ通ス、朽木川ノ左岸ニ達スル交通ヲ開ク、
險隘ナリ

第二 榎木越トス、久多越ノ南ニアリ、河合下村ヨリ榎木
村近江國滋賀郡ニ通ス

第三 龍華越トス、近江ニ之ヲ途中越ト稱ス、小由石村ヨ
リ椽生村近江國滋賀郡ニ通ス、國境ニ至ル、高野川ノ上谷ヲ開
ク、若州街道ナリ、縣道ニ属ス、以上二道ニ比スレハ、甚險
惡ナラス、元龜元年五月、織田信長越前ヲ伐ツ、淺井長政
反キ、其後路ヲ塞ク、信長大ニ驚キ、急ニ兵ヲ收メ、此

リ京師ニ入ル

第四 仰木越一名藤トス、大原山ノ南側ヲ通ス、上野村野

左岸ヨリ仰木村江州滋賀郡ニ通ス、此間二里餘路屈曲シテ

險難多シ、牛馬通ヤス、里道ナリ

第五 東塔越トス、近江ニ雲母坂越ト云ス、比叡山ノ北ニ

アリ修學院村ヨリ坂本村江州滋賀郡ニ通ス、捷徑ナリ

第六 白鳥越一名青トス、比叡山ノ南ニアリ、一乘寺村青

川ノ左岸ヨリ穴生村江州滋賀郡ニ通ス、

第七 山中越一名白トス、白川村ヨリ山中村江州滋賀郡ニ通

ス、織田信長ノ京師ニ往復スル、多ク此山徑ヲ歴ルト云

フ線路、今出川通栗田口、白川ニ村ヲ過キ、山中越ヲ越

ヘ、東坂本村江州滋賀郡ヨリ舟ニ乗シテ安土城ニ至ル

第八 志賀越トス、如意嶽ノ南側ヲ通ス、鹿谷村江州滋賀郡以東境ヲ

踰テ志賀村江州滋賀郡ニ達ス、岳東直ニ園城寺ニ至ルノ捷

徑アリ、之ヲ如意越ト云フ、

第九 小關越トス、追分以東直ニ大津江州滋賀郡ノ一驛ニ通ス、國

道線第二ト境上ニ相交叉ス、

第十 東海道トス、即國道線第二ヲ通ス、

第十一 岩間越トス、笠取村以東岩間山ヲ經テ畑村江州滋賀郡

第十二 二尾越トス、笠取山ノ南側ニアリ、二尾村ヨリ外

畑村江州滋賀郡ニ出ツ、

東南脈

鷲峯山

本脉ハ宇治長田二河ノ間ニアリ、其方向西北ヨリ斜ニ東南ニ亘テ甚長カラス、東坡ハ近江伊賀二州ニ、西坡ハ綴喜相樂二郡ニ属シ、中央以西一條ノ枝脉ヲ分發シ、其脉低高相延テ二郡界綴喜ヲ劃シ、更ニ大ニ隆起シテ鷲峯山トナリ、又岐シテ二分脉トナリ、一ハ西北ニ赴テ久世郡ニ入り、蟠結シテ栗子小篠ノ諸山トナリ、一ハ西南ニ來テ長田川ノ右岸ニ陵夷シ、北ニ宇治川、南ニ長田川ニ凹谷ヲ分界ス、鷲峯山ニ郡界綴喜ニ峙ツ、山上八峯アリ、峭拔秀異、實ニ二郡綴喜ニ甲タリ、其一峯ヲ空鉢峯ト云フ、最秀ツ、琵琶湖ヲ俯視ス可シ、頂上ニ寺アリ、金胎寺ト云フ、老樹蒼鬱タリ、栗子山古名栗籠山、高峻ナラスト雖、其位置六郡宇治、紀伊、乙訓、久世、綴喜、相樂ニ入ル、先此山頂ニ陣ス、京兵情露レ、勢屈ス、戦スシテ皆潰ニ、本州中ノ要地ト云フ

栗子山ノ陣地

ノ中央ニアリ、其頂ヲ國見岳ト云フ、之ニ登レハ、全州目下ニアリ、往時源為義南都ノ僧兵ト此地ヲ争ヒ、大ニ山下ニ戦フ、為義克チ終ニ此山ヲ占ム、兼久ノ役、北條泰時ノ本州ニ入ル、先此山頂ニ陣ス、京兵情露レ、勢屈ス、戦スシテ皆潰ニ、本州中ノ要地ト云フ

本脉ヲ通過スル山徑數條アリ、左ニ掲ク、

第一 禪定寺越 近江ニ宇治田原越ト云フ ト云フ、宇治川ノ東南ニアリ、田原川ノ上谷岩木村綴喜郡ヨリ東シテ小田原村江州栗太郡ニ通ス、

第二 信樂越 近江ニ象白越ト云フ ト入湯屋谷村綴喜郡ヨリ野尻村江州栗太郡ニ通ス、

第三 杵嶋越トス、湯船村相樂郡ヨリ朝宮村江州甲賀郡ニ達ス、

印東川長田川右朝流ノ上谷ヲ通ス

第四 多羅尾越トス、湯船村ヨリ多羅尾村江州甲賀郡ニ通ス、

天正十年六月、明智ノ亂、徳川家康從者ト此山徑ヲ過キ、以テ參河ニ逃ル、ト云フ、路甚險惡ナリ、

第五 野殿越トス、野殿村ヨリ多羅尾村ニ通ス、

第六 大河原越トス、本脉ノ南端ヲ經過シ、今山村ヨリ島

原宿伊賀國伊賀郡ニ通ス、縣道ナリ、

西北脉

本脉ハ、北三國山城近江丹波交境ヨリ、南ハ桂川ノ右岸トノ間ニ

在テ、本州ノ西北境丹波國テ劃スル下連ノ山脉ヲ云フ、此山

脉ノ方向北ヨリ斜ニ西南ニ亘リ、蜿々屈曲シテ、兩境犬牙

相啗シ、山陰道ニ密通シ、山岳深阻、氣候不良ナリ、大悲山花

瀨峠棧敷嶽愛宕山等ノ高山、本脉内ニ列起シ、山脚内地ニ

跨テ、多少ノ凹谷ヲ開キ、險難ノ山徑ヲ通ス

大悲山ハ、愛宕郡ノ最北ニ屹立スルノ大山ナリ、一名北、大

峯ト云フ、南花瀨鞍馬二山ト相對ス、花瀨峠最高シ、比叡山

ト伯仲ス、山身廣大、樹木鬱蒼、鞍馬別所二川ノ源皆之ヨリ

出ツ、山脉西棧敷嶽ニ連リ、又西南シテ愛宕山ニ至ル、愛宕

山五峯ニ分立ス、溪谷深奥、樹林多シ、北丹波ニ跨ル、高雄山

其一峯ニ屬ス、東清瀧川ノ右岸ニ屹ツ、山形恰鷹尾ニ似タ

リ、故ニ或ハ鷹尾山ト云フ、之ニ登レハ、東南ニ京中ヲ瞰フ

高雄山ノ陣地

西北脉ノ諸山徑

ハシ、永正八年八月、細川高國再舉シ、足利義尹ヲ擁シテ丹波ヨリ來リ、此山上ニ陣ス、拇尾山其東北ニ、京見峠山徑ノ其北ニアリ、二山皆南北朝ノ時、南軍ノ陣地ト云フ、本脉ヲ過テ西丹波ニ通スル山徑數條アリ、左ニ掲ク

第一 能勢峠越トテ、大悲山ノ北ニアリ、河合村愛宕郡ノ最北ヨリ佐々里村丹波國北ニ通ス、

第二 大布施越トス、大悲山ノ南ヲ過ク、大布施村愛宕郡ヨリ上黒田村丹波國北ニ通ス、

第三 芥生峠越トス、鞍馬山ノ西北ヲ過ク、貴舟村愛宕郡ヨリ芥生村丹波國北ニ通ス、

第四 雲畑越トス、棧敷嶽ノ東ヲ過ク、出谷村愛宕郡ヨリ大野村

丹波國北ニ通ス、

第五 棧敷嶽ノ西ヲ過ク、中村葛野郡ヨリ中江村丹波國北ニ通ス、以上皆里道ニシテ、險隘ナリ、

第六 久々井峠越トス、上村葛野郡ヨリ瀧村丹波國北ニ通ス、縣道ナリ、

第七 京見峠越一名高尾越トス、高尾山ノ北ニアリ、中島村葛野郡ヨリ田尻村丹波國北ニ通ス、

第八 愛宕山ノ西北ヲ過ク、二條アリ、一ハ越畑村葛野郡ヨリ山階村丹波國南ニ、一ハ原村葛野郡ヨリ出雲村丹波國南ニ通ス、

第九 大堰川ノ北方ヲ過ク、水尾村葛野郡ヨリ北保津村丹波國南ニ通ス、此他尚數條アリ、獸徑ニ過キス、

西脉

本脉ハ、大堰川以南、淀河ノ西北間ニ亘テ、本州及丹波攝津
ヲ境スル、一帯ノ山脉ナリ、脉絡短小、其中央西方ニ凸張シ、
高山峻嶺、境外ニ多久内部ニ大山少ナシ、山勢東ニ陵夷シ
テ田野ニ連リ、甚、險ナラス

嵐山城址

大江山ハ北、天王山ハ南、本脉ノ兩端ニ相對峙シ、甚、高カラ
ス、大江山一ニ峙山ト稱ス、松及雜木ヲ生ス、山上ニ一寨ア
リ、應仁ノ亂、西陣ノ將内藤備前ノ據ル處ト云フ、嵐山其東
北ニ接シ、東大堰川ニ臨ム、此山櫻花ニ名アリ、頂ニ城址ヲ
存ス、永正中、香西元近、其主細川澄之ヲ擁シ、築キ而シテ之
ニ據リ、屢、三好氏ト戰フ、今ハ其名ヲ存スルノミ、室川ヲ隔テ
、其南ニ對峙スル一山ヲ峰堂ト云フ、葛野乙訓ニ郡ニ跨

峰堂ノ陣地

天王山

丹波街道其南麓ヲ通シ、大堰川其東ヲ流ル、地勢東北ニ
平濶ス、山上直ニ京師ヲ瞰フ可シ、要地ナリ、南北朝ノ時及
應仁ノ亂、南軍及西陣ノ兵皆此ニ陣ス、元弘三年四月、南軍
ノ將源忠顯、京中ニ敗レ、走テ此ニ陣ス、尋テ營ヲ他ニ移シ
ト欲ス、兒島高德諫テ曰ク、此地險山後ニ峙チ、大河前ニア
リ、以テ敵ヲ拒クニ足ル、請フ去ル勿レ、忠顯怯懦、敵ノ夜襲
ヲ恐ル、夜半終ニ營ヲ撤シテ八幡綴喜郡淀河左岸ノ一山ニ退ク、天王
山一名山崎山ハ脉ノ南端ニ在リ、山嘴近ク來テ、淀河ノ右岸ニ
迫リ、東南河ヲ隔テ男山一名八幡山、綴喜郡淀河ノ左岸ト相對シ、其間枯
束、其形勢自ラ天造ノ門ロヲナス、文久三年、松平容保建議
シ、八幡山崎ヲ以テ本州ノ前門トナシ、堡寨ヲ築キ、勝義邦

兵要地誌

山城國誌

ヲシテ役ヲ董サシム、將軍家茂其藩ニ命シ之ヲ守ラシム、
 山下ニ一驛アリ、山崎驛ト云フ、西國街道一名山崎街道ノ
 要衝ニ當ル、七山形勢雄偉、松柏蒼鬱、頂ニ城址ヲ存ス、文明
 元年十月、山名是豊葉キ而ノ之ニ據ル、足利氏ノ兵之ヲ攻
 ム、克タス、天正十年六月、山崎ノ役、羽柴明智ノ二氏互ニ之
 ヲ争フ、羽柴氏終ニ之ヲ占テ、軍大ニ克ツ、當時ノ戰地、淀河
水路ノ條ニ掲ク
 秀吉此地ノ要ヲ察シ、此歳大ニ工ヲ起シテ此ニ城ク、然レ
 土地廣カラス、邸宅ヲ列スルノ地ナシ、翌十一年九月ニ至
 リ、經營半途ニシテ廢シ更ニ移シテ大坂ニ城クト云フ、其
 基址今尚山上ニ存ス、元治元年七月、益田右衛門等長門ノ
隊將
 兵數百ヲ擁シテ此ニ陣シ、後援ヲナス、山腹ニ一利ヲ以寶

寶寺ノ陣地

小塩山ノ陣地

寺ト云フ、寺域廣フシテ堂宇ハ狹シ、東南ノ地、河ヲ隔テ、
 一望ニ屬ス、延元元年正月、南軍ノ諸將道ヲ分テ、京師ヲ攻
 ム、新田義助獨、此地ニアリ、河畔ニ至ル連珠寨ヲ築キ、固守
 以テ敵ノ交通ヲ扼シ、糧道ヲ絶ツ、秀吉ノ光秀ニ勝ツ、此ニ
 營ス、小塩山ハ二山大江山ノ間ニアリ、郡中乙訓ノ最高山
天王山
 トス、溪谷深奥、樹木疎生ス、西北ハ本脉ニ連リ、山脉四出、各
 其名ヲ異ニス、皆短矮ナリ、善峯一名西山吉峯其一タリ、東南ニア
 リ、正平八年六月、足利義詮ノ陣地ナリ、元弘三年三月、赤松
 圓心京中ニ敗レ、退テ天王山ニ保シ、密ニ別隊五百ヲ小塩
 山ニ遣シ、敵ノ來ルヲ待テ、其背後ヨリ襲ハシム、六波羅ノ
 兵之ヲ曉ル、小塩山ヲ攻ム、山峻ニシテ登ルヲ得ス、別隊高

兵要地誌

日本部

山城國誌

ニ乗シテ亂射ス、六波羅ノ兵大ニ敗ル

本脉ヲ過キ、丹波攝津ニ通スル山徑數條アリ、左ニ掲ク

第一 唐櫃越トス、大江山ヲ過ク、故ニ或ハ大江山越トモ

云フ、松尾谷村葛野郡ヨリ王子村丹波國南ニ通ス、

第二 大江山ノ南ヲ過ク、下山田村葛野郡ヨリ王子村丹波國南ニ通

ス古ノ丹波街道ナリ、行程近シト雖、險隘ニシテ通過ニ

困シム故ニ中世老坂道今ノ丹波街道ニ換テ、其北ニ細徑

アリ、亦西丹波龜山城今ノ龜岡ニ通シ、東水尾村葛野郡ヲ過キ嵯峨

上今ニ達ス、古來險隘ト云フ、天正十年六月二日、明智光秀

ノ本能寺ヲ襲フヤ、其軍悉ク老坂第三山徑ヨリシ、光秀單騎

此險ヲ經テ本川ニ入り、桂川水論ニ至テ、其軍ト相會

スト云ス、爾後之ヲ明智新道ト稱ス、

第三 老坂越トス、即京都以西丹波街道線ノ通スル所ナ

リ、沓掛村乙訓郡ヨリ峠町丹波南ニ通ス、國道號廿三ナリ、

第四 老坂ノ西南ニアリ、灰谷村乙訓郡ヨリ二條ニ岐分シ

一ハ中畑村一ハ出灰村乙訓郡ニ通ス

第五 天王山ノ西北ニアリ、浄土谷村乙訓郡ヨリ亦分派シ

一ハ大澤村攝津國ニ通ス、大澤越ト云フ、一ハ尺代村上

ニ達ス、皆山谷間ヲ經過シテ險隘ナリ、樵徑ニ過キス、

西南脉

西南脉ハ本州ノ西南浚河ノ左岸ヨリ、東ハ伊賀大和ノ交
境點トノ間ニ亘リ、其方向、東ニ起テ、西北ニ赴キ、其山脊大

和ノ北堺及河内ノ東北境ヲ劃シ、山脉彎曲、峰巒屏列、山勢

笠置山

東ニ高大ニシテ、樹林溪泉ニ富ミ西北ニ低フシテ、地味大
概肥沃ナリ、笠置山ハ相樂郡ノ東南ニアリ、本脉線内ニ列
ス、此山頗峻嶮ナリ、峯聳ヘ、谷幽ニシテ、樹木蒼鬱、巉岩在、
泉川東北ヲ繞リ、南柳生川ヲ帶ヒ、西一徑ヲ通ス、甚險ナリ、
山腰ニ二泉アリ、毎ニ涸漲セス、山頂稍平潤、其西北隅ニ城
址ヲ存ス、後醍醐帝行宮ノアリシ所ニシテ、眺望絶佳、真ニ
要害ノ地ナリ、元弘元年八月、帝潛ニ此處ニ幸ス、九月、六波
羅ノ兵來リ圍ム、地險ニシテ城固シ、拔ク能ハス、高時更ニ
兵ヲ増シテ助ケ攻シム、未至ラス、六波羅ノ兵、夜風雨ニ乘
シ、城ニ縋シテ入り、火ヲ縱チ呼譟ス、外兵之ニ應ス、城即陷

ル、登路一條アリ、南笠置村ヨリス、凡ニ民家山麓ニ連リ、北
ニ木津川ヲ控フ、一重山相樂山等皆其西ニアリ、北面シテ
山脚皆木津川ノ左岸ニ延キ、數條ノ小凹谷ヲ開ク、一重山
兩翼ヲ東西ニ張ル、遙ニ之ヲ望ハ、一長堤ノ如シ相樂山ノ
西北、三國本國及ヒ河内大和ノ交界點ニ位スル一山ヲ天王山ト云
フ、山崎ノ天王山ト異ナリ其位置山巒ヲ占メ、秀峰峭峻、山中ニ楓樹多
シ、山脉四出、西南ニ赴クモノハ、河内大和ノ兩境ヲ劃シ、西
北ニ連ルモノハ、即本脉ニシテ、荒坂山、洞峠トナリ及男山等アリ、
普賢寺山、其東南ニ接シ、神南備山、其北ニ峙シ、普賢寺山古
筒城山又筒城岡ト稱ス、全山巨樹ナシ、只矮松雜木ヲ生ス
此山廣フシテ諸村ニ跨リ、北木津川ノ左岸ニ迄ヒ、數多ノ

荒坂山古戰場

凹谷ヲナス、普賢寺谷其一タリ、西牧方驛河内國茨田郡ニ通スルノ山徑ヲ開ク下山徑ノ條ニ掲ク荒坂山高フシテ谷深ク山徑極テ險、車馬通スルヲ得ス、觀應三年二月、楠正儀等兵三千ヲ率ヒテ此ニ陣シ、足利義詮ノ南侵ヲ防ク、北兵六千、皆馬ヲ捨テ、徒歩來リ攻ム、南軍險ニ據リ降射ス、北兵死傷頗多シ、正儀等兵寡ナシ終ニ支フ可ラサルヲ察リ、男山ニ退ク、男山一名鶴峯又香爐峯ト云フハ其西北ニアリ、八幡山ト云フ、北京師ニ臨ミ、東神南備山ニ連リ、西淀河ヲ隔テ、天王山ト相對シ、俱ニ要衝ノ位置ヲ占ム、本州ノ門口ヲナシ、古來著名ノ陣地ニシテ、南北朝ノ時、山上ニ城ヲ設ク、洞峠、其南ニアリ、相距ル速カラス、河内ニ跨ル、山上大樟樹アリ、此處國境

男山ノ陣地

洞峠ノ陣地

ナリ、正平七月閏二月、足利義詮此ニ陣シ、南軍ノ糧道ヲ絶リ、楠正儀等兵ヲ出シテ之ヲ爭フ、天正十年、山崎ノ役、筒井順慶ノ陣地タリ
本脈ヲ過キ、大和及河内ニ通スル山徑數條アリ、左ニ掲ク
第一 田山越トス、相樂郡ノ東南、本脈端ニアリ、田山村相樂郡ヨリ長引村大和國山邊郡ニ通ス
第二 高尾越トス、田山越ノ西南ニアリ、高尾村相樂郡ヨリ二條ニ岐分シ、村地及桃花野ニ村大和國添上郡ニ通ス、二道長尾川ノ兩岸ニ浴ス、
第三 法弘越トス、法花平尾村相樂郡ヨリ、奥原村大和國添上郡ニ通ス

山城國誌

第四 飛鳥路越トス、飛鳥路村相樂郡ヨリ亦奥原村大和國添上郡ニ通ス、

第五 笠置越トス、笠置村相樂郡ヨリ柳生村大和國添上郡ニ通ス、以上三山徑第三第五ハ皆笠置山ノ西北ニ在リ、

第六 梅谷越トス、一重山ノ東側ヲ過ク、梅谷村相樂郡ヨリ般若寺村大和國添上郡ニ通ス、

第七 一坂越トス、梅谷越ノ西ニアリ、京師以南、木津川ノ右岸ニ沿ス、奈良街道線一等縣道ノ通スル所ナリ、路險ナラズ、行旅來往、車馬通過ス、

第八 歌姬越トス、相樂山ノ東南ニアリ、相樂村相樂郡ヨリ歌姬村大和國添下郡ニ達ス、京都以南、木津川ノ左岸ニ沿ス、郡

中街道線縣道一等ノ通スル所ナリ、

第九 北川越トス、相樂山ノ西ニアリ、柘榴村相樂郡ヨリ鹿畑村大和國添下郡ニ通ス、

第十 天王山ノ南ニアリ、打田村綴喜郡ヨリ傍示村大和國添下郡ニ出、此線路、東ハ普賢寺谷普賢寺川ノ上谷西ハ河内ニ入、テ天川ニ沿ヒ、牧方驛茨田郡ニ通ス、此間三里許、天正十年六月、本能寺ノ變、徳川家康、密ニ此山徑ヲ過キ、三河ニ逃ル、路屈曲シテ險隘ナリ、

第十一 天王越トス、天王山ノ北ニアリ、天王村綴喜郡ヨリ尊延寺村河内國交野郡ニ通ス、

第十二 荒坂越トス、荒坂山ニアリ、箕山村綴喜郡ヨリ長尾

村河内國交野郡ニ通ス

第十三

洞峠越トス荒坂山ノ西北ニアリ、八幡驛綴喜郡

麓

ヨリ招提寺河内國

交野郡ニ通ス、元和元年五月大坂ノ役

徳川秀忠伏見城ヲ發シテ八幡山男山ヲ過キ、此山徑ヲ

踰ヘ、河内ニ向フト云フ、

水論

淀河ノ灌域

本域ヲ流ル、諸長流ハ、概源ヲ隣國丹波伊賀ニ發ス、其方向
ハ、山脉及土地ノ形勢ニ隨テ、皆西南ノ一方ニ相聚リ、俱ニ
全土ヲ灌漑シ、本流ハ尚低ニ就テ再、隣國河内攝津ニ入リ、即
本州ニ淀河ノ中灌域ヲナス、宇治川桂川、木津川加茂川、最

長シ、水路縱横各、方向ヲ異ニス、而ノ宇治川本流タリ、淀河
上谷ノ異稱ナリ、桂川以下皆之ニ屬ス、今此本流ヨリ次ヲ
逐テ、其要領ヲ左ニ説叙ス、

淀河ノ水路及其潮流

淀河ノ水路

淀河ハ上流ヲ宇治川ト云フ、源ヲ近江國琵琶湖ニ發シ、始
ハ南流シテ後西折シ、同國滋賀郡南方ノ山中ヲ彎流シ、次
テ西南ニ轉シテ、斜ニ國界線ヲ横斷シテ、東山脉ヲ二節東北
東南ノニ分ツ、此ヨリ以上ヲ淀河上灌域トス、述江誌ニ次
テ本州ニ入リ、宇治久世二郡ノ界ヲ劃シ、河幅凡二十間、喜
撰嶽ノ南麓ニ至テ、左ニ田原川ヲ納ビ、次テ西北ニ環流シ

平等院
 テ白川村ニ至リ、右ニ志津川ヲ納ル。此漉漉ニ里俗米炊ト云フ。河水頓ニ激怒シ、白波漲起ス。其色米泔水ヲ覆スカ如シ。故ニ名、久模尾朝日ノ諸山、右方ニ峙チ、粟籠小篠ノ數峰、左方ニ聳ヘ、國境以下、地勢開ケス。河水深淺常ナク、兩岸高低アリ、通路坦トラス。右岸ノ地、概薄瘠、獨茶ニ宜シ。平等院ハ白川村ノ西北ニアル。左岸ヲ拒ル。凡二三丁、平地ニアル。河ニ面ス。古來屢、兵燹ニ罹リ、今ハ堂宇廣カラス。治承二年、源賴政以仁王ヲ奉シテ、此ニ據リ、宇治橋板西北ニヲ撤シテ、平氏ヲ拒ク。平知盛等流ヲ亂テ大ニ至ル。衆寡敵ヤス。賴政傷ヲ被リ、終ニ自殺ス。其處ヲ扇芝ト云フ。院北ノ道傍ニアリ、今ニ其名ヲ存ス。次テ固定橋アリ、即宇治橋木製長ハ十間幅ニ

宇治川ノ舊渡
 間三ナリ、奈良街道線宇治道ト云ヲ互續ス。橋ヲ夾ンテ市街兩岸ニ跨ル。左岸ニアルヲ宇治驛人口二千三百一十ト云ヒ、右岸ニアルヲ彼方町ト云フ。宇治町東西ニ長シ凡十。製茶ニ名アリ。久世郡中ノ名邑ナリ。左岸ノ橋頭河ニ斗出スル處ヲ橋ノ小島崎ト云フ。源平以降、南北朝ノ古陣地ナリ。元暦元年正月、木曾義仲其將根井行親、楯親忠ヲシテ右岸ニ陣シ、橋板ヲ撤シ、柵ヲ樹ヘ、繩ヲ水中ニ張リ、以テ之ヲ守ル。源義經一軍ニ將トシ、津川ノ四谷ヲ下ル。左岸ニ沿テ陣ヲ布ク。歩騎二万五千、軍囂シテ令ヲ聞カス。乃平等院ノ鼓ヲ取リ之ヲ櫂ツ。全軍耳ヲ屬ス。義經乃令ヲ發ス。佐々木高綱、梶原景季、衆ニ先チ此橋小島崎コリ騎渡ス。諸將之ニ繼キ、大

二勝、此處今ハ甚深カラス、橋北ニ路アリ、宇路大路ト云
 入、東北ニ繞テ三室戸村ヲ過キ、水幡村ニ出テ、北京師ニ通
 ス、古道ナリ、險ニシテ速シ、今ハ西北ニ直行シテ、五左ヲ過
 キ、水幡村ニ通ス、即、奈良街道ナリ、垣ニシテ迹シ、淀河次テ
 槇島村ノ東ヲ過ク、平等院以下、兩岸低平、地勢開濶、河幅漸
 廣マル、槇島村ニ城址アリ、河ニ臨ム、天正元年六月、足利義
 昭再舉シ、城キ而シテ之ニ據ル、織田信長來リ、柳山右岸五左
 山ニ陣ス、令シテ曰ク、速ニ河ヲ渡テ、城兵ヲ虜スベシト、稻
 葉一鉄其子貞通、典通、先登ス、總兵步騎二萬、之ニ繼ク、城忽
 陷ル、義昭出降ル、信長乃細川六郎ヲ置ク、今ハ其名ヲ存ス
 ルノミ、次テ右ニ山科川ヲ納レ、紀伊郡ニ入テ、西南ニ彎流

槇島城址

シ、城山伏見城ノアリシノ南ヲ過グ、地勢右岸ハ高燥ニシ
 テ、左岸ハ卑濕ナリ、次テ四谷村ノ北ヲ過キ、伏見町ヲ右岸
 ニ存ス、向島向島ハ四谷村ニアリ、小嶼ナリ、河ヲ隔テ、伏見驛
 ト相對シ、西南大池大池トニ接シテ、三方水ヲ纏フ、文祿中城
 アリ、豊臣秀吉築キ以テ伏見城ノ支堡ニ擬スト云フ、地小
 ト雖、天當時ニ在テハ要害ト稱ス、慶長四年、伏見城下俄ニ
 騷擾ス、諸將徳川家康ニ勸メ移テ此ニ居ラシム、今ハ寥寥
 一村、落ニ過キス、固定橋ヲ架ス、觀月橋木製、舊名豊後橋、長
百八間、半幅ニ間
 ト云フ、北、伏見驛ト相通ス、大和街道線ヲ互續ス、伏見驛ハ
 二万二千三
 百三十餘
 市場廣濶、南北ニ長シ、凡一里十
 治安裁判所警
 察署電信分局等アリ、又郡役所ヲ置ク紀伊郡、此驛、北京都ニ連

向島

伏見驛

接シ、南河岸ニ臨ミ、地勢東ニ山巒ヲ受ケテ漸ク高ク西ニ河水ヲ帶ヒテ低開ス、二道アリ、南北ニ貫久東ヲ伏見街道ト云ヒ、西ヲ竹田街道ト云フ、西南ニ水路ヲ控ヘ、本州ノ南境ニ密邇シ、京都ヲ距ル凡二里半、水陸兩道ノ要ニ臨ミ、其位置馬頭ヲ以テ稱ス可シ、驛ノ東南觀月橋ニ近キ一區ヲ元伏見奉行所ト云フ、徳川氏ノ時、戍兵ヲ置久明治ノ初、伏見練兵場ト改稱シテ兵營ニ當ツ親衛兵三大隊營内初テ兵學校ヲ置久、即陸軍士官學校ノ濫觴ト云フ、此地古一村落タリ、豊臣秀吉伏見城ヲ築クニ迄ヒ、頓ニ繁盛ノ域トナリ、以テ徳川氏ニ傳フ、明治元年正月、官軍東兵ト此處ニ戦ス、市街東南部ハ概兵燹ニ焼亡ス、後稍舊ニ復ス、茶、生絲、筭、寒天、羊

淀驛

羹土人形等ヲ産ス、觀月橋以下河水分流シテ中書島等ノ數島ヲ抱キ、河床頓ニ廣リ、水深シ、舟楫自在ニ來往ス、此間數橋ヲ架ス、蓬來橋長三十五間京橋長二十二間肥後橋長十五間等ノ稱アリ、皆固定橋ナリ、京橋肥後橋ハ伏見街道線ヲ互續ス、次テ西南ニ赴キ、二派合シテ淀驛人口五千九百三十三ノ北ニ至ル、此驛左岸ニ濱ス、人家連櫛、驛内郡役所ヲ置ク久世郡其北水橋ヲ架ス、淀小橋長九十六間ト云フ、固定橋ナリ、伏見大坂攝津國二道線ヲ通ス、橋北更ニ二道ヲ岐分ス、右岸ノ堤上ヲ東北ニ赴クモノハ、伏見街道ニシテ北ニ通スルモノハ、鳥羽街道ナリ、明治元年正月三日、東兵橋ヲ渡テ、此二道ヨリ進ム、官軍伏見及下鳥羽桂川ノ左岸ニ邀ニ撃ツ東

伏見鳥羽二街道

淀城

兵敗走復橋ヲ渡テ淀城ニ據ラントス、城兵之ヲ辭ス、因テ
 城下ニ陣ス、此城橋東ニ接過シ内外ノ郭形俱ニ方外郭一
 方北、河岸ニ濱シ、二流淀河ノ激匯ニ臨シ、市街其東南ニ連
 リ、又其東、沼澤ヲ帶ヒ、木津川嘗テ南ニ接流シ、四面陸地ト
 斷絶スル孤島上ニ位ス、二大橋淀大橋アリ本土ト相通ス、
 往時ニ在テハ要害ト稱ス、元龜天正ノ際、岩成左通三好ノ
 之ニ據ル、當時狭小一ノ堡寨ニ過キス、天正元年七月、信長
 其將羽柴秀吉細川藤孝ニ命シ、攻テ之ヲ陷ル、後秀吉木村
 常陸介ヲ置久、元和九年、徳川家光更ニ命シテ城郭ヲ増築
 シ、京攝間ノ要鎮トシ、松平定綱ヲ置久、後稻葉氏世襲ノ治
 所ナリ、明治維新ニ至リ、廢類ニ委ス、淀河次テ右ニ桂川ヲ

大山崎庄
 古戰場
 山崎驛

納レ、河水溶々濁、而ノ兩岸ニ盈ス、次テ小畑川、狐川ノ二小
 流ヲ右ニ納レ、次テ左ニ木津川ヲ納レ、山崎橋本ニ驛ヲ兩
 岸ニ存シ、本州西南ノ門口山論天王山及男ヲ去テ河内攝
 津兩國ノ境ヲ劃シ、大坂ヲ經テ海ニ朝ス、國境以下河内誌
 本州ヲ流ル、七里三十二丁二十三間、濶所凡三丁、本州ノ諸
 河、平時ハ水甚少シ、此河獨多シ、灌溉ノ利、舟運ノ便ヲ有ス、
 兩岸ニ長堤アリ、基面廣大、所ニ隨テ其名ヲ異ニス、守治堤
 淀堤、八幡堤、沿岸ノ道路、概其上ヲ通ス、宇治道、伏見
 等ノ名アリ、沿岸ノ道路、概其上ヲ通ス、街道等ナリ、狐川ト
 山崎驛トノ中間ヲ大山崎庄ト云ス、西ニ天王山ヲ負ヒ、東
 河岸ニ迄ヒ、地勢平曠、古戰場ナリ、山崎驛ハ天王山ノ南ニ
 アリ、西國街道ニ列シ、市街矮陋、兩國山城ニ連ナル、天正十

山崎ノ役
橋本驛及
戦地

年六月、羽柴秀吉、明智光秀ヲ討スル、高山友祥先鋒タル、驛口ニ關ヲ設ケテ、他隊ノ先進ヲ聽サス、天王山ノ軍聲起ルヲ聞キ、乃門ヲ開テ進ム、中川清秀、池田信輝、丹羽長秀等之ニ繼キ、光秀ト太山崎庄ニ戦ヒ、大ニ勝リ、山崎ノ役、即之ヲ云ス、橋本驛ハ左岸ニアリ、太坂街道ニ臨ミ、東ニ男山ヲ負ヒ、河ヲ夾テ、山崎驛ト本州ノ門口ヲ相為ス、明治元年正月、東兵退テ、此ニ保ス、五日黎明、官軍淀城ヲ發シテ進撃ス、東兵復敗レテ、終ニ太坂ニ走ル、

右朝流

第一 山科川ハ、藤尾村近江國滋賀郡ノ山中ニ濫觴シ、本州ニ入テ、國道線第二ヲ横截シ、西南ニ流レテ、勸修寺村ニ至リ、音

山科郷

醍醐山

羽川ト會ス、其南石橋ヲ架ス、大橋長五間餘ト云フ、鉄道線ヲ五續ス、又閑林寺橋長八間餘醍醐橋長八間ノ二橋アリ、相連架ス、勸修寺村ヨリ小野醍醐二村間ノ交通ヲナス、勸修寺村以北、目岡音羽川ノ上國道ノ東南、音羽山梨川上ニ境スル、山科及音羽二流ノ間地ヲ、古總山科郷階或ハ山ト云フ、山巒起伏、兵陵迤邐、近江ニ通スル諸道國道及山ノ諸、其間ヲ經過シ、狹隘多ク、地勢險阨ナリ、延元元年正月、新田義貞、賊兵ヲ此地ニ感シ、險隘ニ逢フ、毎ニ下リ撃ツ、賊狼狽シ、還シ戦フヲ得ス、斬獲頗多シ、醍醐村左岸ニアリ、上下二村ニ分ル、二山徑小關越下醍醐村ニ相會ス、村東ニ迫テ山アリ、二峯ニ分ル、東峯ヲ陀羅谷ト稱シ、西峯ヲ醍醐山

ト稱ス、相距ル幾ニト一里、皆高カラス、笠取峠ニ達スル山
徑、其南側ヲ通ス、又登路ニ條アリ、俱ニ本村ヨリス、險ニシ
テ狹シ、文明三年三月、三寶院宮山中ニ保ス、細川勝元兵ヲ
命テ之ヲ援ク、山名宗全要地ヲ失スルヲ怒リ、朝倉敏景斯
義廉ヲ遣リ之ヲ爭ス、攻撃連日、僅ニ克ク、關原ノ役後、福島
正則、其士ノ為メ、徳川氏ニ迫リ、償ヲ請フ、家康許サス、正則
憤懣、井伊直政家康ニ説テ曰、若其請ヲ納レスニハ、彼當ニ
醍醐山科ノ要地ニ據リ、豊臣氏ノ舊將ヲ煽動スヘシ、家康
大ニ悟ル、終ニ其請ヲ納ル、山科川次テ小栗栖村ヲ流ル、明智光
秀ノ山崎ニ敗ル、夜此處ヲ過ク、土寇ノ為メ、殺サル、次テ紀
伊郡ニ入ル、六地藏驛○トハ一千ノ西ニ至ル、此驛三道ヲ發

ス、西ハ伏見驛、南ハ宇治驛、東北ハ醍醐村ヲ經テ、小關越山
過路ノ條ニ通ス、驛西ニ同名ノ木橋ヲ架ス、長十五間 幅三間伏見
驛トノ交通ニ供ス、固定橋ナリ、河流次テ復、宇治郡ニ入り、
淀河ニ朝ス、長三里、幅四間半、平時水少フシテ、且淺シ、驛ヨ
リ以下、僅ニ小舟ヲ通スヘシ、
第二 桂川ハ、源ヲ丹波國比叅田郡近江境ノ山中ニ發シ、
水路西南ニ向テ、丁太彎ヲ劃シ、本州ノ西方山脉ヲ二分シ、
脈西シ、葛野郡ノ西南ニ入ル、丹波ニ在テハ、保津川ト稱シ、
脈上丹波誌、本州ニ入ッテ、初、大堰川ト云フ、長尾村葛野ノ東
ニ至テ、左ニ清瀧川ヲ納ル、此水棧敷嶽山論ニノ西、大森村
ノ山中ヨリ濫觴シ、其上谷ハ第五山徑ヲ開キ、水路略西山

脉ニ并行南下シ、梅尾高雄二山ノ東ヲ過キテ、桂川ニ朝ス
 長六里二十五丁、幅五間餘、小橋^{長八間ニ}過キス、數條アリ、京都以
 西國界^{丹波}ニ達スル諸道線ヲ互續ス、桂川次テ方向ヲ東
 南ニ轉シ、嵐山ノ東北麓ヲ過ク、圮橋アリ、上嵯峨上山田ニ
 村間ニ架ス、渡月橋^{長六十五間幅ニ}間ト云フ、固定橋ナリ、此邊河水
 疾カラス、丹波ヨリ筏ヲ泛テ下ル者多シ、橋ヨリ以下、小舟
 相來往ス、地勢右岸ハ山巒參差、西脉ニ連リ、山徑羊腸、左岸
 ハ低フシテ概^{平野}ニ屬シ、道路坦平、東京都ニ連ナル、上山
 田村ノ南一水ヲ隔ツル山上、凡十町許、古刹^{法華}寺山ノ址アリ、
 此處ヲ峯堂ト云フ、^{山論}條^{西脉}ノ南北朝及應仁ノ亂ノ陣地
 ナリ、桂川次テ松尾山ノ東ヲ過キ、梅津村ノ西ニ至リ、始テ

峯堂ノ陣地

桂川ノ稱アリ、梅津村ノ北、一水川^新ヲ隔テ、太秦村^多アリ、郡
 役所ヲ置ク^{葛野郡}ヲ管ス、村域廣濶、寺アリ、廣隆寺ト云フ、京師以
 西嵯峨道ニ當ル、元弘三年四月、南軍步騎二十五、丹波^南乘
 篠^村ヲ發シ、諸道^{大江}山ヨリ本國ニ入り、分テ峯堂、梅津^多太秦^多
 等ニ陣シ、終ニ進テ京中ニ戰フ、利アラズ、應仁二年九月、内
 藤備前^{細川}ノ部下^{勝元}、丹波ノ兵ヲ擧テ、大江山ヲ越ヘ、亦此各所
 ニ屯シ、西陣ヲ壓ス、山名宗全、其部下宮田教實ヲシテ之ヲ
 討シム、教實兵ヲ潛テ嵯峨ニ至リ、俄ニ備前ノ先鋒ニ逢ス、
 教實奮擊之ヲ破リ、直ニ河^桂川ヲ渡テ、備前ノ營^{峯堂}ニ迫
 ル、備前大ニ敗レ、大江山ニ走リ、壘ヲ構ヘテ之ニ據ル、桂川
 次テ上野郡村ニ村界ヲ過ク、圮橋ヲ架ス、上野橋^{長七十五間幅ニ}間

梅津太秦等ノ陣地

大江山壘

靜原寨

ト云フ、固定橋ナリ次テ下桂村ヲ過ク、又北橋アリ、固定橋ナリ、桂橋長六十五間ト云フ、國道線三號丹波街道線ヲ互續ス、次テ南流シテ鐵道線ヲ斷テ、葛野郡ヲ去テ其右岸紀伊久世ニ郡界ヲ劃シ、上久世村久世ヲ過リ、北橋ヲ架ス、久世橋長八十間ト云フ、固定橋ナリ、次テ久我塔森ニ村間ヲ過キ、下鳥羽村ニ至テ、左ニ加茂川ヲ納ル、加茂川ニ源アリ、一ハ愛宕郡貴船鞍馬ノ諸峰ヨリ出テ、一ハ棧敷嶽愛宕葛野ニ郡界ノ東、雲畑村ノ山中ニ濫觴ス、二源ノ上谷ハ、西北境ヲ過テ丹波ニ通スルニ山徑新生峠及雲畑越ヲ開キ、共ニ南流シテ上賀茂村宇落ニ至リ、會同シテ始テ加茂川ノ稱アリ、鞍馬山ノ東、一水ヲ隔ル山上袖踏、靜原寨址アリ、天正元年六月、足

加茂川

高野川

利義昭ノ黨、山水其之ニ據ル、信長乃明智光秀ヲ遣リ之ヲ攻ム、尋テ陷ル、加茂川次テ東南ニ流レ、下鴨村ニ至テ、左ニ高野川ヲ納ル、村内郡役所ヲ置ク愛宕郡、其南濃漣ニ臨ンテ小祠アリ、河合社ト云フ、一橋ヲ西ニ架設シ、上京區ニ通ス、高野川ノ源、小出石村愛宕郡ヨリ濫觴シ、小出石川ト稱ス、其上谷ハ龍華越ノ山徑山論東北脉過路ノ條ニ掲クヲ開キ、木原山及比叡山ノ西麓ヲ南ニ流レ、大原川ト云ヒ、八瀬村ニ於テハ、八瀬川ト云ヒ、高野村ニ於テハ、高野川ト云フ、水路高野村ニリ西南ニ赴キ、下鴨村ニ至テ、加茂川ニ注ク、長四里餘、潤所十八間、若狹街道京都ヨリ東北龍華越ニ至ル、河岸ニ浴ヒ、高野村以下地勢漸ク平潤シ、兩岸水田多シ、平治ノ亂、源義朝六波羅ニ戰

ツテ勝タス、其子義平ト北走シテ河岸八瀬ヲ經テ龍華越
 前ニ達スト云ス加茂川既ニ高野川ヲ合シテ南流洛中西
 ヲ貫キ、白川ヲ左ニ納レ、五條橋洛中五條通ニ架以下水路
 漸ク西南ニ赴キ、東九條村ニテ高瀬川ヲ分派シ上鳥羽村
 ニ至テ右ニ紙屋川ヲ納レ、次テ下鳥羽村ニ至テ桂川ニ朝
 ス、長七里二十丁餘、濶所五十八間半、此河平時水至テ少ナ
 ク、霖雨急潦ニ値テニ非レハ、一面ノ沙石細流斜曲、洲間ヲ
 衝激スルノミ、下鴨以下七條ニ至ル水路凡、一里餘、其間數
 橋アリ、其最ナルモノ鴨口長三十六間幅二間、下鴨村ヨリ
 荒神間長七十八間、橋ナリ、國道餘幅四間、餘木四條、長五十
 四間、鉄橋ナリ、五條長四十八間、半幅四間、餘架ス、七條間半、幅ニ
 架ス、鉄橋ナリ、五條長四十八間、半幅四間、餘架ス、七條間半、幅ニ

白川

間餘、七條通ニノ五大橋トス、就中三條四條ノ二橋最大ナ
 架ス、地橋ナリ、其間餘、七條通ニノ五大橋トス、就中三條四條ノ二橋最大ナ
 リ、其他鞍馬口、九太町、夷川、二條、團栗、松原正面ノ小板橋ア
 リ、皆狭クシテ、長短アリト雖、欄ナク、桁脚又固カラス、暴
 漲ニ値ハ即塌潰シテ渡ル可ラス、皆假橋ナリ、白川ハ左朝
 流ナリ、山中村近江國滋賀ヨリ濫觴シ、其上谷ハ山中越ノ
 山徑ヲ開キ、西南ニ下テ、白川村ヲ過ク、此村山中越山論ニ
 ノ西麓ニ屬ス、東北ノ山ヲ總テ白川山ト云フ、城址アリ、
 東北脈ノ條ノ如意嶽其東ニ屹ツ、次テ吉田鹿谷ニ村間ヲ
 過ク、鹿谷村ハ岩倉山ノ麓ニアリ、東ニ中尾山ヲ負ヒ、北河
 岸ニ沿テ一地ヲ黒谷ト云フ、水ヲ隔テ、真如堂吉田村ト
 相對シ、神樂岡上又其北ニ隣ス、皆古戰場ナリ、延元元年正

鹿谷真如堂神樂岡ノ古戰場

月官軍既ニ三井寺近江滋賀郡ノ軍ニ勝テ叡山ヲ發シテ愛宕郡ニ入ル歩騎總テ二万餘新田義貞之ニ將タリ分テ三隊トシ白川左岸ノ各所ニ屯シ各隊期ヲ刺シテ共ニ京師ヲ攻トス山徒ノ一隊鹿谷ニ陣スル者功ヲ貪リ群ヲ超ヘ黎明竊ニ河川白ヲ渡リ俄ニ神樂岡ニ迫ル宇都宮公綱及紀清ノ兩黨堡寨ヲ搆ヘテ堅ク守ル僧兵肉薄攻撃甚急守兵寡少又後援ナシ城終ニ陥リ公綱等走ル真如堂等ノ賊兵之ヲ聞キ戰ハスレテ皆潰ニ後正平八年北朝ノ文六月足利義詮歩騎三千餘ヲ分發シ細川清氏佐々木道譽等之ニ將タリ白川ヲ挾テ鹿谷及神樂岡ノ各所ニ陣シ西加茂川ヲ控ヘ以テ南軍ヲ防ク楠正儀等大ヲ八條九條ニ放

白川兩岸ノ古戰場

東岩倉山

4. 山名時氏時氏此時葛野郡桂川ノ左岸海津ニ陣スト相應シ共ニ進ンテ加茂川ヲ濟シ兩軍真如堂ノ前ニ逢フ激戰良久シク死傷算ナシ義詮ノ軍後繼ナク清氏亦敗レ終ニ交モ兵ヲ收シテ退ク中尾山上ニ城址ヲ存ス山論將軍山ノ條ニ掲ク永祿四年十一月松永久秀攻テ之ヲ陷レ勢ニ乘シテ來リ神樂岡ヲ圍ム佐々木義賢之ニ據ル軍中射ヲ善クスル者多シ義賢命シ防カシム飛矢雨ノ如シ久秀終ニ兵ヲ退ク東岩倉山ハ鹿谷村ノ東南ニアリ甚高カラス山頂ニ寨址アリ又應仁ノ亂ノ古戰場ナリ山論東北脈ノ條ニ詳ニス白川次テ西南ニ流レ岡崎村ヲ過ク此地廣濶上中下ノ三村ニ分劃シ全村河ノ兩岸ニ跨リ真如堂ノ東南ニ接ス中岡寺以西聖護院村ニ至ルノ

地、古、白河殿ノアリシ所ト云フ、保元ノ亂、崇徳上皇鳥羽ヨ
 リ此ニ幸シ、兵ヲ舉ケ統ヲ爭ス、上皇破レテ如意山ニ走ル、
 白川次テ洛中下京ニ入リテ南流シ、國道ニ號ス、横截ス、此
 處石橋ヲ架ス、路線ヲ通ス、白川橋長五間、四尺餘、幅四間、三尺餘ト云、人次
 テ智恩院ノ西北ニ至ル、天正元年正月、足利義昭ノ亂、織田
 信長、大津近江國滋賀郡ヨリ來テ此寺内ニ營ス、次テ復、屈折シテ
 西南ニ流キ、加茂川ニ入ル、長二里、澗所三間半、平時ハ水殆
 ト涸渴シ、石礫間僅ニ細流ノ往クヲ觀ルノミ、
 京都ハ本州ノ中央ニアリ、市街葛野、愛宕二郡ニ跨リ、廣袤
 略相均シ、東西一里〇二十九間餘、南北一里二十四間、古、九條ニ分ツ、今ハ六條
 ヲ存ス、其位置古所謂左京ノ大半ヲ占メテ東北ニ偏ス、明

京都

京都コリ
 諸方ニ達
 スル諸道
 ノ名稱

治ノ初、中分シテ、三條以北ヲ上京トシ、以南ヲ下京トス、加
 茂川其東部ヲ流キ、堀川其西部ヲ劃シ、地勢北ニ山巒ヲ受
 ケテ稍高ク、南河流ニ連テ、漸ク昇ク、山水清麗、市衢端正、人
 口三十三万千八百〇八、府廳及、裁判所、電信分局、警察署等
 諸官衙并中學校、師範學校、病院、諸工場、悉ク備ハリ、大小ノ
 諸路縱橫、國道四出、古來七口ノ稱アリ、諸道中、境外ニ通ス
 ル最大七道ノ起源ヲ云フ、此他小路尚數條アリ、所謂七口
 ハ、東三條口粟田口トモ云フ、伏見口、鳥羽口、七條丹波口、長坂口、鞍
 馬口、大原口、即是ナリ、就中東三條口東海道即國道、伏見口
 大坂街道即山崎街道、鳥羽口國道、七條丹波口丹波街道即國道、
 國道ヲ線、鳥羽口國道、七條丹波口丹波街道即國道、
 ノ四口ハ皆國道線ノ起源ニ向ヒ、車馬出入最繁シ、長坂

口ハ上京區ニアリ、西北脉ヲ經過シ、丹波北桑田郡ニ通ス
 ル縣道線七條（丹波街道）ニ向ヒ鞍馬口ハ上京區ノ北ニア
 リ、東北鞍馬山ヲ經テ、丹波北桑田郡ニ通スル山徑ニ向ヒ、
 大原口モ亦上京區ニアリ、東北高野川ニ治テ近江滋賀
 ヲ過キ、若狹遠敷郡ニ達スル縣道線若狹ニ向フ山徑及交
 路ヲ參照シ、此他東山南海伊賀奈良等諸道線ノ各稱アリ、本州
 諸道ノ方向里程ハ、都テ三條橋ヨリ起算ス交通路ノ條此
 諸道、三方東北及ハ、溪壑ヲ通過シテ概險丹波街道若西南ノ
 一方河岸ニ沿ヒ、堤上ヲ通シテ頗坦伏見街道鳥又鐵道ヲ
 以、下京ノ南七條通ヲ東西ニ經過ス、其線路東洞院下七條
 夕西ハ西南ニ繞ッテ、略、山崎街道線ヲ追ッテ、大坂橋津國ニ置

延曆皇居

延曆改都ノ位置

通シ、東ハ山科街道ニ亘ッテ、大津近江國ニ達ス、應仁ノ亂、洛
 中總テ戰域ニ屬シ、兵馬馳驅騷擾最甚シ、爾後干戈相繼キ、
 市街廢、兵燹ニ罹リ、人烟實ニ蕭條タリ、織田氏起ルニ迄ニ、
 都人稍、其堵ニ安ンジ、徳川氏ニ至リ、市閭大ニ殷實、帝都ノ
 繁榮、前古比ナシ、明治遷都東京ノ後、今ニ甚、舊様ヲ損セス、舊
 皇宮延曆以後天正ノ初ハ、今ノ上京一條ニアリ、二條城ノ
 西北ニ接シ、全部ノ中央ヲ占ム、北一條ヲ後ニシ、南面シテ
 朱雀大路ニ當リ、四方九門ヲ設ケ、公卿ノ第宅、門外ヲ繞ル、
 規模宏壯、桓武天皇延曆十三年十一月乙訓郡長岡鼻ヲ奠
 ル以後、天正ノ初ニ至リ、歷朝ノ皇宮ナリ、全都市閭方正北
 一條ニ界シ、南ハ九條ニ至リ、一里十二
 丁四十間餘、東西一里五丁五十三間餘、四方隍ヲ繞ラシ間

相國寺

門ヲ設ク而ノ朱雀大路今ノ朱雀通り分劃シ其東ヲ左京トシ西ヲ右京トス足利氏府ヲ室町下ニ掲クニ開クニ當リ左京ノ東北最モ殿賑ヲ極メ右京ハ日ニ荒涼ニ赴ク應仁ノ亂後二京左京右京概曠野ニ屬ス現今右京ハ下立賣以北薄サカ其形迹ヲ存シ以南ハ舉テ田圃ニ化シ獨リ左京ノ東北加茂川右岸ニ迄ヒ今ノ帝京ヲ致スト云相國寺ハ其西北ニ接ス往時ハ寺域頗廣大ニシテ今ノ室町一條等其外門ト云ス應仁ノ亂此地東西ノ二軍境ヲ劃ス地勢平坦東北諸道ノ要口ニ臨ミ南ハ皇宮天正以前ノ皇居及幕府足利氏ニ接シ當時ニ在テ其得失兩軍ノ勝敗ニ關シ實ニ必爭ノ處トス二軍互ニ之ヲ爭ヒ殺傷算ナシ西陣終ニ克以細川

上御靈

船岡山ノ陣地

勝元入テ之ニ據リ本營トス兵勢大ニ振ス皇宮ノ北今出川街ヲ挾テ室町築山町等ノ稱アリ嘗テ足利幕府ノアリシ所ニシテ當時殿宇壯麗今ニ室町殿ノ遺稱ヲ存ス康正三年義政新館ヲ其傍ニ造リ花亭ト號ス所謂花御所即是ナリ此處相國寺ト相並ス永祿八年六月義輝三好氏ノ為メ害ニ遭ス爾後第宅廢頽シ終ニ民家トナル上御靈ノ地其東北ニ隣接シテ稍高久竹林茂密ス相國寺ト相通ス此役畠山政長寡兵十ヲ率ヒテ獨之ニ據リ同族義就等ト戰ス政長告戰終ニ相國寺ニ逃ル船岡山此ヲ距ル西數下平地中ニ孤立ス浴中一目ニ屬ス頂ニ壘址ヲ存ス延元元年七月尊氏此ニ陣ス步騎三万六千七條河原今ノ七條橋ノ邊ノ別

隊ト相約シ、新田義貞ヲ挾ミ擊シ義貞奮戰其先鋒ヲ破リ終ニ船岡山ヲ奪フ、應仁ノ亂西陣ノ將一色左京等亦此山上ニ屯シ、京中ヲ瞰ス、細川勝元兵ヲ遣リ攻テ其壘ヲ陷ル、永正八年二月、大内義興將軍義尹ヲ擁シテ丹波ヨリ入り亦此ニ屯シ、戰ヒ勝テ終ニ京中ヲ復ス、其冬、丹波人竹内某兵ヲ發シテ此ニ寨シ、以テ義興ニ抗ス、義興乃兵五百ヲ率ヒ、急ニ攻ム、竹内支ヘス、山下ニ奮戰シテ死ス、此山以南地勢最平濶シテ市街ニ連ナリ、北野千本、蓮臺野、大宮等、源平以降ノ古戰場甚多シ、堀川東ニアリ、浴中ヲ南北ニ貫流ス、二條城其中央ノ右岸ニ位ス、慶長六年、徳川家康ノ築キシ所ナリ、外郭稍長方形東西二百四十三間南北百八十五間ヲナシ、四方濠ヲ

二條城

繞ラシ、樓櫓甚高カラス、三門アリ、正門ハ東ニ向ス、幕府毎ニ歩騎兵ヲ戍シ、以テ皇都ヲ鎮衛ス、今ハ城内ニ府廳ヲ置ク、城ノ北大宮及一條以西、北野神社以南ノ地、古、総テ内野ト云フ、今ニ聚落廻ノ稱アリ、天正十三年、豊臣秀吉一城ヲ此ニ築キ號シテ聚樂城ト云フ、規模宏壯、列侯邸宅其周圍ニ羅列ス、十六年四月、天皇臨幸、當時實ニ隆盛ヲ極ムト云フ、秀吉秀次ヲシテ之ニ居シム、秀次誅セラル、ノ後、荒廢シテ、其地今ハ人家或ハ田圃トナル、永祿十二年、織田信長ノ築シ所ハ、高倉二條ノ北、天守町即其所ト云フ、今皆人家トナル、城ニ條西ニ路アリ、千本通ト云フ、平甲中ヲ南ニ通シ、東寺ノ西ニ接ス、上鳥羽村ニ達ス、東寺ハ下京ノ南端葛野

聚樂城ノ故地

東寺

郡ノ東、南隅堀川、紙屋川ニ水間九條村ニアリ、寺域廣潤、塚羅城門等皆其南ニ接シ、鳥羽街道其西ヲ通シ、鉄道其北ヲ過ク、古來西南諸道ヨリ、本州ニ入ルノ軍、概先此ニ陣ス、南北朝以降屢屯軍ノ要地トス、其北六條七條ニ至ルノ街衢及東北一條以南加茂川左岸ノ地古戰場多シ、五條橋前掲ノ東市街新宮町森屋町等ヲ隔テ、一利アリ、六波羅密寺ト云フ、妙東西福等ノ諸刹其西ニ相隣接シ、地勢坦平、此處往時北六波羅府ノアリシ所ト云フ、區域甚廣カラス、東北諸道ニ臨ミ、西左岸四條五條ニ橋ノ間ニ近シ、南六波羅府ハ其南方ニアリ、今ノ方廣寺及三十三間堂ノ地、概其遺址ト云フ、平清盛ノ邸地モ亦其南隅ニ屬ス、南府ノ廣袤北府ニ比スレハ頗

南北西六波羅

濶ク、南面ハ地勢平開シテ伏見竹田ノ二道ニ當リ、東ハ山巒ニ近フシテ近江ニ通スル山徑ニ臨ミ、西ハ加茂川ヲ帶ヒテ七條河原六條以下七條ニ至ルノ河床ヲ云フニ治ヒ、西北近ク都城往時ノ皇平治ノ亂、平氏帝近衛ヲ奉シテ此邸ヲ守ル源氏ノ兵既ニ大内居ニ勝テ勢ニ乘シテ來リ侵ス、清盛父子力戰撃テ義朝等ヲ走ラス、賴朝起ルニ迄ヒ、建久元年、藤原高能ヲ置キ以テ京師ヲ鎮ス、始テ鎮府ノ號アリ、後更ニ北府ヲ増置元年仁ス、因テ兩六波羅南北二府ト稱ス、二府五條通ヲ夾テ殆ト相接ス、北條氏ノ末元年其族時益及仲時ノ南北ニ鎮スル、所在勤王ノ師競ヒ起リ、漸ク京師ニ迫ル、府兵屢出屢敗ル、既ニシテ源忠顯足利尊氏赤松圓心三道顯

山城國誌
白雲山

ハ伏見竹田二道ヨリ尊氏ハ丹波ヨリ來リ攻ム、府兵利ア
ロヨリ、圓心ハ鳥羽街道ヨリ入ル
ラス、又七條河原前ニ戰フ、復敗ル、二帥時益乃、申ヲ悉シ
テ固守以テ、後兵ヲ待ツ、既ニシテ府兵大ニ内ニ潰ス、官軍
又三面故ニ東一方ヲ賊ノ走路ヲ開ク、ヨリ迫リ攻ム、二帥支ヘス、終ニ
夜ニ乘シテ東走ス、二府忽チ陷ル、爾後南府ノ蹟全ク廢滅
シ、北府内今ハ僅ニ六波羅密寺ヲ存スルノミ、本能寺ノ舊
址ハ、三條柳水町ニアリ、妙覺寺ハ二條ノ南妙覺寺町ニア
リ、二所共ニ現今ト其位置ヲ異ニス、今ノ本能寺ハ京極ニ
ハ上御靈社ノ西北ニアリ、天正十年六月、織田信長父子、寡兵ヲ隨ヘ京
師ニ朝シ、信長ハ本能寺ニ其子信忠ハ妙覺寺ニ館ス、信長
俄ニ弒ニ遭ス、信忠變ヲ聽キ、急ニ二條城ニ保ス、光秀尋テ

元本能寺

元妙覺寺

高瀬川

來リ圍ム、從者奮闘皆死シ、信忠自盡ス、
加茂川京中ヲ出テ、紀伊郡ニ入ルニ及テ、左ニ高瀬川ヲ分
派ス、此川往時慶長人工ヲ以テ開鑿スル一溝幅凡ニナリ、
水路南方宇治川ト相通シ、伏見驛ノ西境ヲ劃ス、舟楫來往、
上ルニ難シテ、下ルニ易シ、俗之ヲ泝ルヲ高瀬ノ曳船ト云
ス、京中水運ノ便實ニ之ニ依ル、分派點以下、上鳥羽村ノ上
ニ至リ、加茂川ノ中流、一條ノ長沙洲ヲ存ス、河水之ヲ抱テ、
兩派ニ流ル、此間觀音橋ノ長ニ十間、幅五尺、木橋ナリ、右岸
進橋長三十間、幅三尺向川原橋長十四間、幅四尺餘、木製ナリ
架、勸進橋長十八間、幅四尺餘、木橋等ノ數橋ヲ連架ス、最後
ノ二橋、竹田街道線ヲ互續ス、次テ上鳥羽村人口二千ニ至

日本部
三十三

小泉城址

リ、右ニ紙屋川ヲ納ル、此水葛野郡鷹峯ノ山中ヨリ濫觴シ、東南ニ流レテ、北野村ノ西ヲ過キ、次テ南流シテ、西院村ニ至ル、村内小泉城址ヲ存ス、永祿年間、三好氏此ニ據ル、次テ紀伊郡ニ入り、御室川西高瀬等ノ數小流ヲ左右ニ納レ、再東南ニ流レテ、堀川及西洞院川ト相會シ、上鳥羽村ニ至テ、加茂川ニ入ル、長三里餘、幅僅ニ三間、加茂川次テ小枝町ヲ過ク、橋アリ、小枝橋長四十二間、幅三間、地橋ナリト云フ、鳥羽街道線ヲ互續ス、次テ南流下鳥羽村ニ至テ、桂川ニ朝ス、長四里、濶一丁十間、河中洲渚多クシテ、水毎ニ寡シ、然、其清麗ヲ以テ稱ヤラル、上下鳥羽ノ二村、皆渾漑ニ濱シ、相距ル凡二十四丁餘、俱ニ鳥羽街道ニ列ス、明治元年正月、官軍上鳥羽ニ陣シ、東

兵ト下鳥羽ノ間ニ戰テ、東兵敗レテ、淀城ニ走ル、桂川下鳥羽村ニテ、加茂川ヲ納ル、ノ後、河水稍増加シ、西南ニ流レテ、中流紀伊乙訓二郡界ヲ劃シ、淀城ノ正北ニ至テ、淀河ニ會テ、河床濶所五丁二十八間國境以下水路、里程詳ナラス、渡月橋ノ麓以下、概平地ヲ貫流シ、水平時ハ多カラス、流レ稍遲緩ナリ、舟筏ヲ通ス可シ、
第三 小畑川一名長瀬川、又乙訓川ハ、葛野郡大江山ヨリ發シ、丹波ニ通スル山徑丹波街道ヲ開キ、沓掛村ヲ過キテ、東南ニ流レ、小塩、灰方等ノ泉水ヲ右ニ納ル、次テ橋アリ、井内橋ト云フ、長十二間、幅一問、一尺、井内村ニ架ス、堤橋ナリ、次テ向日町ノ西ニ至ル、町内郡役所ヲ置ク乙訓郡、岸ニ接シテ一社ヲ存ス、向

山城國志

向日神社
近傍歌

日神社ト號ス、北橋ヲ架ス、小畑橋幅長十五間ト云フ、今里村ニ架ス、山崎街道線ヲ互續ス、元弘三年三月、赤松圓心京中ニ敗レ、此街道ヨリ山崎ノ大山崎ニ退ク、六波羅ノ兵來リ攻ム、圓心敗兵ヲ収シテ八百ヲ得、乃分テ三トナシ、竊ニ其一隊ヲ祠後神社向日ノ松蔭ニ伏セ、敵迫ルヲ伺ヒ、急ニ兵ヲ返シテ夾ミ撃ツ、六波羅ノ兵大ニ敗ル、永祿十二年正月、三好ノ三黨、足利義昭ヲ本國寺下京西本願寺ノ西北ニ圍ム、三好義次兵ヲ率ヒテ此ニ陣シ、遙ニ義昭ノ聲援ヲナス、三黨之ヲ聞キ、兵ヲ合セ、テ來リ攻ム、義次利アラズ、嵯峨桂川ノ左岸ムニ村嵐山ト相對スニ退ク、寺戸物集女モヅメノ二村ハ向日町ノ北ニアリ、二村共ニ寨址ヲ存ス、戰國ノ時ノ築造ト云フ、向日町以東、桂川ノ右岸

寺戸物集
女ニ寨址

久我繩手
ノ古戰場

ニ且ルニ帶ノ地、久我繩手ノ古稱アリ、地勢平垣、田圃錯雜、僅ニ丘陵或ハ細流アリ、元弘三年四月、赤松圓心既ニ克テ此地ノ南北ニ布陣ス、賊將足利高氏、名越高家、京ヲ發シ、桂川ヲ渡テ來リ戰フ、高氏傍觀、高家戰死ス、高家ノ墓、鉄道ヲ隔テ、向日町ノ東數丁ニ在リ、小畑川次テ鉄道線ヲ截流シ、水路蜿蜒、漸ク南シテ勝龍寺村ニ至ル、村内城址ヲ存ス、永祿十一年九月、岩成左通之ニ據リ、織申氏ニ抗ス、信長柴田勝家森可成等ヲシテ、歩騎一万ニ將トシ、之ヲ攻メシメ、尋テ信長義昭ヲ奉シテ之ニ繼ク、左通支ヘス、終ニ降ル、天正十年六月、明智光秀、山崎ニ敗レ、走リ入テ之ヲ保ス、守兵逃亡相踵ク、光秀夜半城ヲ脱シテ小栗栖ニ走ル、小畑川次

勝龍寺城
址

テ下植野村ニ至テ淀河ニ朝ス長三里、濶所五間餘

第四 狐川、上流ヲ柳谷或ハ小泉川ト云フ、淨土谷村_{乙訓郡}

ノ山中ヨリ濫觴シ、金原村ヲ過テ東南ニ圓明寺村ニ至テ

狐川ノ稱アリ、次テ山崎街道及鉄道線ヲ横截シテ淀河ニ

朝ス、長僅ニ一里半、濶所八間許、河口ヲ水落ト云ス、其西南

ニ渡津アリ、淀河ヲ横テ、南ハ幡町_{男山}ニ達ス、水路ハ之ヲ

狐渡ト云フ、

左朝流

第一 巨_イ掠_ラ池、俗ニ大池ト呼フ、伏見驛ノ南、下線塘ヲ隔テ

テ淀河_{宇治川}ト相界シ、久_ク世_セ紀伊二郡ニ跨リ、本州中ノ大

湖ナリ、_{東西凡三十一丁五十間、南北二}深淺常ナク、屢廣狹

ヲ異ニス、潦時ハ宇治驛以東淀驛ニ至リ、水沍濫シテ、北宇

治川ト相連リ、水面渺々タリ、折居廣野、王久世等ノ衆水、東

南ヨリ來テ、皆此處ニ會同シ、渚シテ一大水ヲナス、湖中魚

蝦多シ、中内大内ノ二池、俗ニ下_イ口_ク池ト稱ス、亦一錢塘ヲ隔

テ、其南ニアリ、其水大池ト皆西ニ流レテ、淀河ニ入ル、周

圍ノ地、卑濕沮洳、漸ク東南ニ高シ、大和街道大池ノ東邊ニ

沿ヒ、北ハ伏見驛、南ハ木津川_{下ニ}揭_ケノ右岸ニ通ス、

第二 木津川ニ源アリ、一ハ伊賀國阿拜郡ヨリ發シ、_{伊賀}

詳ニ本州_{相樂}郡ニ入ッテ、田山川ト稱シ、頓ニ段落シテ明神大

瀧トナリ、激下一百五十丈、北ハ太川原村ニ至ル、一ハ大和國

添上郡ヨリ來リ、上谷ヲ名張川ト云フ、_{大和誌ニ}本州_{相樂}

和東川

ニ入ッテ高尾川ト稱シ、西北ニ下ッテ南川原村ニ至リ、二流相合シテ、始テ木津川、稱起ル、此源濇ヲ宇落合ト云フ、水路是ヨリ紆屈西向シ、上有市村ヲ過リ、河中炭酸泉其質炭酸、普達及塩鉄土分氣ニシテヲ生ス、味酸美ニシテ、能ク飲食ヲ消化ス、獨逸ノ攝爾攝爾泉、佛蘭西ノ斐西泉ニ同シ、次テ笠置山ノ北麓ヲ流レ、左ニ布目川ヲ納ル、其上谷ヲ鹿口淵ト云フ、笠置山ノ北、峽中ニアリ、兩涯峙立、老樹蒼鬱、水色藍ノ如シ、此ヨリ笠置城址ニ達スル、凡十八丁、岩石崎嶇、峭壁万仞、路極テ險、元弘帝ノ蹕ヲ此處ニ駐ムル、元弘元年九月晦、賊將陶山トキ、小見山等五十人、夜風雨ニ乘シ、此險ヲ攀ク、以テ行在ノ不意ニ出シ、木津川次テ井平尾村ニ至リ、右ニ和東川ヲ納

木津城址

ル、此上谷ハ柞峠越ノ山徑山論東南脈過ヲ開ク、激流ナリ、次テ船屋町ノ北ヲ過ク、此町南方梅谷越ノ山徑山論西南、掲掲ニ當ル、次テ加茂瓶原ニ郷ヲ過ク、此間數渡アリ、瓶原ノ南、梅谷村梅谷越ノ山ノ西北ニ接スル一地ヲ恭仁ト呼ス、天平中ノ故都ナリ、次テ木津驛人口四千三百三十一ノ北ニ至ル、此驛、大和街道線ニ列シ、京師ノ南、殆ト九里ニアリ、南奈良大和國添上ニ通スル一坂ノ山徑ニ臨ミ、人家多シ、相樂郡郡ノ名邑ナリ、茶ヲ産ス、千童子村、驛東ニ接ス、往時木津城アリ、其位置、本河ト井堰川左朝トノ間ニアリ、稍高シ、文明年間、畠山某之ニ據ル、今ノ天神小祠ハ其址ト云フ、河道次テ俄ニ北折シ、數小流山田等ヲ左右ニ納レ、織田村ノ西ヲ過

大和伊賀
二道ノ岐
分點

久、此村南字綾杉ヨリ、伊賀街道縣ヲ岐分ス、此線路、木津川ノ右岸ニ沿フテ、東上野伊賀國阿拜郡ニアル舊城市ニ通ス、甚坦夷ナラス、線内ニ神童子越神童子村アリ、二道ノ岐分點大和伊賀二街道ノ岐分點ニ近シ、此處山巒四圍、山路羊腸元曆元年正月、宇治川ノ役、源義經ノ進軍路ナリ、伊勢ヨリ伊賀ニ入テ、島原宿伊賀國境ヲ踰ヘ、木津川ノ四谷ニ入り、本道伊賀郡阿拜郡ニ過シテ、綺田村ニ次テ渡アリ、終ニ進テ、北平等院宇治郡北平等院ニ陣ス、ト云ク、

南祝園吐師二村ヲ經テ、歌姫越山論西南脈ニ掲クニ達ス、カ路線ヲ通ス、渡ノ東街道ニ近フシテ、一利アリ、往時華表アリト云フ、今ニ地名ヲ鳥井ト呼ス、治承四年五月、以仁王平等院ニ敗レ、南走流矢ニ中リ、此ニ薨ス、木津川次テ綴喜郡ニ入

普賢寺谷

リ、右ニ玉川ヲ納レ、次テ左ニ普賢寺川ヲ納ル、此上谷、高山越、天王越ノ二山徑山論西南脈ニ掲クニ達ス、カ路線ヲ通ス、渡ノ東街道ニ近フシテ、一利アリ、往時華表アリト云フ、今ニ地名ヲ鳥井ト呼ス、治承四年五月、以仁王平等院ニ敗レ、南走流矢ニ中リ、此ニ薨ス、木津川次テ綴喜郡ニ入

テ、水取多々羅二村ヲ過ク、兩崖峻岨、里俗普賢寺谷ト云フ、路惡シ、天正十年六月、本能寺ノ變、徳川穴山二氏、俱ニ技方河内國ヨリ逃レテ、此ニ到ル、流末ニ渡アリ、草内渡ト云フ、當時土寇蜂起、穴山梅雪此ニ殺サル、次テ左右ニ數小流ヲ納ル、天神川稍長シ、左朝流ナリ、神南備山ヨリ濫觴ス、田邊村其右岸ニアリ、郡役所ヲ置ク綴喜郡管内、村内高所ニ寨址ヲ存ス、戰國ノ時、竹村丹後之ニ據ルト云フ、木津川次テ久世郡ニ入り、上津屋村ヨリ河水ヲ分流シ、北巨掠池ニ導ク之ヲ古川溝ト云フ、養田數万頃、兼テ漕運ニ便ヲ有ス、木津川

田邊寨址

次テ下津屋村ヲ過ク水路嘗テ此ヨリ西北シ、末流淀城ノ西南隅ニ注ク、今ハ再ヒ綴喜郡ニ入り、西流シテ八幡町五千人五百ノ東北ヲ過キ、淀河ニ朝ス、長凡十三里、濶所五町四十四間、國境伊賀以下、水路略西南脉ニ並行シ、山巒左右ニ近クシテ、地勢開ケス、故ニ諸朝流皆短小ノ奔湍ヲナス、水流ハ傾斜急ナラス、河床所々廣狹アリ、而シテ水勢ハ總テ緩、平時ハ平均深三尺、潦時ハ一丈八尺ニ至ル、沿岸ノ地、僅ニ平地アリ、地味肥瘠相半シ、概テ茶ニ適ス、水路中、渡頗多ク、橋甚寡シ、末流ニ在テ著大ノ木橋ヲ八幡大橋長八十間、幅二間、八架ト云フ、固定橋ナリ、渡ハ則相樂郡ニ在テ、木津上拍上狗木津ヲ水幅最濶、各百トシ、綴喜郡ハ飯岡手村ニ渡ス、井草

内草内村ヨリ奈以下家田目村ニ至ル際等ノ八渡アリ、濶フシテ皆均シ水幅各百四十間

交通路

國道第二號

東海道 京都ヨリ愛宕郡鬘茶屋ニ至ル分線

京都 一里十四丁四 安朱 二十三丁三十 鬘茶屋境合二里 二十七間二尺 二十八丁二十間

國道第三號

大坂街道 京都ヨリ河内國茨田郡故方驛ニ至ル路線

京都 二里十丁 上鳥羽 一里二丁十 横大路 三十四間 九丁四十 八幡 二里十一丁 枚方境合七里十六丁一間 九尺

三尺

國道第四號

西海道 京都ヨリ攝津國島上

京都四里二間一尺丁 大山崎二里八丁 芥川境合六里三

十三丁四間一尺

國道第二十號

山陰道 京都ヨリ丹波國南赤

京都二里二間二尺 掬原三里四丁 龜岡境合五里二十九

丁五十五間二尺

縣道

澁谷越 京都ヨリ近江路滋賀

京都一里二八間 安朱一里十丁五 大津合三里三丁三

間

大坂別街道 京都ヨリ久世郡

京都二里十八丁三 伏見一里九丁 淀合三里二十八丁

三十三間一尺

大坂別街道 京都ヨリ攝津國島上

京都三里二丁五 向日町一里二十一丁 大山崎二里二

三間 高槻境合七里十六丁二十四間一尺

河内街道 京都ヨリ河内國交野

京都五里四丁 八幡二里六丁二 招提境合七里十一丁

七間五尺

大和街道 京都ヨリ大和國添上
 京都 二里二十二丁
 伏見 二里一丁
 廣野 一里五丁
 富野 一里九丁
 玉水 一里三丁
 木津 一里三丁
 奈良境合 十里三十丁七間四尺

大和別街道 京都ヨリ大和國添上
 京都 三里三十一丁
 淀 一里三十三尺
 岩田 一里四丁三
 吐師 一里二十五尺
 水津 一里三十間
 奈良合 十一里二十八丁十七間一尺

大和別街道 京都ヨリ久世郡廣
 京都 三里二十二丁
 伏見 一里二十九尺
 宇治 三十丁五
 廣野境合 五里十三丁三十二間四尺

大和別街道 京都ヨリ紀伊郡六
 京都 二里二十四丁
 六地藏境

大和別街道 京都ヨリ大和國添下
 京都 七里二丁
 玉水 一里二十五間
 吐師 二里二十六間
 山境合 十一里二十丁四十四間

伊賀街道 京都ヨリ伊賀國阿拜
 京都 七里八丁
 玉水 三里三十一尺
 笠置 一里八間四尺
 北大河原 一里九間一尺
 島ヶ原合 一里四里六丁

觀音寺越 京都ヨリ相樂郡笠
 京都 八里三十五尺
 木津 一里三十三間
 北村 一里三十三間
 笠置境合 十二里二十九丁五十九間五尺

童仙房街道

京都ヨリ相樂郡童仙房駅ニ至ル分線

京都 四里十六間

宇治 丁一里三十一間

郷口 丁四里七三

童

仙房境合十里十九丁十六間五尺

童仙房別街道 京都ヨリ相樂郡童仙房驛ニ至ル分線

京都 丁十里三十四間

笠置 丁一里二十七間

童仙房境合十二里二十丁四十九間

若狹道 京都ヨリ近江路滋賀

京都 一里二十丁二

山端 丁二里十四間

大長瀬 丁一里二十七間

途中境合五里二十六丁五十三間五尺

若狹別道 京都ヨリ丹波國北桑田

京都 二里二間西紫竹大門 丁二里二十六間五尺

小野 丁二里三二五

周山境合六里三十丁三十六間一尺

沿革史略

本州始山代ニ作ル或ハ山背ニ作ル後山脈ノ形勢ニ因リ
 更ニ山城ニ改ム繼體天皇五年十月大和樟葉ヨリ遷テ簡
 城郡喜ニ都ス十二年三月又隨國今ノ射野ニ作ルニ遷ル文
 武天皇大寶三年四月黃文連大伴ヲ山背守ニ任ス之ヲ國
 守ノ始トス聖武天皇十二年十二月遷テ恭仁郡相樂ニ都ス
 桓武天皇延暦十三年十一月更ニ地ヲ葛野郡宇多村ニ相
 シ長岡郡ヨリ遷リ都シ平安城ト號ス今ノ京城即是ナ
 リ左右京職東西市司ヲ置ク源朝臣ヲ山城守ニ任ス賀
 陽離宮ヲ以テ國府トシ石原村都外ノ事ヲ領ス此時山背

ヲ改テ山城トス保元中崇徳上皇復祚セントテ欲シ白河
殿ニ據リ源爲義父子ヲノ之ヲ守ラシム後白河帝源義朝
平清盛等ヲ遣シ攻テ之ヲ陷ル之ヲ保元ノ亂ト云フ我國
大亂ノ初トス平治元年清盛義朝互ニ隙アリ二氏大ニ京
中ニ戰フ之ヲ平治ノ亂ト云フ義朝敗死シ清盛勢威日ニ
熾シ帝王ノ廢立皆其手ニ出シ皇居ヲ福原福原ニ徙シ尋テ
舊都ニ復ス治承中源賴朝伊豆ヨリ起リ義仲ヲ宇治瀨田
ニ破リ平氏ヲ西海ニ鑿シ幕府ヲ鎌倉ニ建テ京都守護ヲ
置久北條時政ヲ以テ之ニ任ス賴朝薨シ北條氏執權ノ且
南北六波羅探題府ヲ創置シテ京畿山陰山陽南海諸國ノ
政刑ヲ兼掌セシム承元中後鳥羽上皇兵ヲ遣シテ鎌倉ヲ

滅サントス官軍中途防テ利ナシ又宇治瀨田ニ敗ル義時
上皇ヲ海島ニ徙ス之ヲ承久ノ役ト云フ後醍醐帝ニ至リ
元弘元年北條高時ヲ討ントシ事露ハル帝逃レテ笠置山
ニ入ル賊兵攻テ之ヲ陷ル帝ヲ隱岐ニ徙ス建武中興大内
ヲ造營シ省司諸制始テ舊式ニ復ス既ニシテ足利尊氏反
シ大舉シ京師ヲ攻ム官軍之ヲ宇治勢田及山崎ニ拒キ皆
破ル帝叡山ニ幸ス新田義貞楠正成等尊氏ト京中ニ戰
フ互ニ勝敗アリ帝尋テ大和ニ潛幸ス之ヲ南朝トス尊氏
後光明帝ヲ擁立ス之ヲ北朝トス爾後數十年南北朝ノ稱
アリ尊氏將軍府ヲ室町ニ開キ國命ヲ執ル南軍漸競ハス
應仁中足利氏漸衰ヘ山名細川ノ二氏各大兵ヲ擁シ屢輩

下ニ戰フ、連年決セス、京師過半、兵燹ニ罹リ市街蕭條、實ニ建都以來ノ一大變遷ナリ、之ヲ應仁ノ亂ト云フ、此ヨリ天下大ニ亂ル、後四十年、大内義興亂ニ乘シ、將軍義尹ヲ奉シテ京ニ入り、駐マルヲ十余年、京中小康、永祿中、三好松永ノ諸黨、將軍義輝ヲ弒シ、淀勝龍寺諸城ニ據ル、京中復騷擾ス、天正ノ初、織田信長尾張ニ起リ、將軍義昭ヲ奉シテ京ニ入ル、諸寇皆遁ル、輦下始テ安シ、信長所司代ヲ京都ニ設ク、村井貞勝ヲ以テ之ニ任ス、二條城ヲ築ク、信長弒セラレ、豊臣秀吉兵ヲ率テ來リ、明智光秀ヲ山崎ニ敗リ、代テ國權ヲ握リ、聚樂及伏見ニ城ヲ京都ヲ鎮護シ、更ニ五奉行ヲ置キ、諸政ヲ分掌セシム、其後天下徳川氏ニ歸シ、皇室ノ大典、大率

舊ニ復ス、亦所司代ヲ置キ、更メ二條城ヲ築キ、山城、大和、丹波、近江ノ政刑ヲ統シメ、伏見ニ奉行ヲ置キ、松平定綱ヲ淀ニ封ス、全都靜謐、市閭殷賑、享保中、稻葉正知代テ淀ニ封セラレ、爾後世襲、二條城ニ戍兵ヲ置ク、孝明帝ノ時、毛利氏王ニ勤メ、故アリテ罪ヲ得、國老寛ヲ訴ヘ兵ヲ引テ京ニ入ル、京兵之ヲ拒キ、遂ニ大ニ宮門外ニ戰フ、毛利氏ノ軍敗走ス、明治元年正月、徳川氏兵ヲ發シテ京師ニ入ラントス、京軍之ヲ拒キ、伏見、淀及八幡ニ戰ヒ、三戰皆勝シ、王政革新所司代及伏見奉行ヲ廢シ、親衛兵ヲ伏見奉行故址ニ置キ、練兵場トス、明治二年、乘輿東遷、官中ニ留守官ヲ置キ、二條城ヲ以テ京都府トナス、山城一圓及丹波ノ三郡ヲ統治ス、尋テ

淀藩ヲ廢シ、留守官ヲ府ニ併セ、丹後全國及丹波二郡ヲ府ノ管轄ニ加フ、軍管ハ第四軍管大坂鎮臺第八師管ニ屬シ、其分營ヲ京都ニ置ク、明治十七年一月、軍管疆域ノ改正アリ、分營ヲ大津近江國滋賀郡ニ移シ、本國一圓尚舊管ニ依ル

兵要地誌

大日本之部卷之四 目錄

大和國誌

總論

山論

周脈

北脈

東脈

南脈

西南脈

西脈

水論

一丁

二丁

三丁

九丁

十三丁

十四丁

十六丁

灌域ノ區劃

十八丁

大和河ノ灌域

地勢總括

十九丁

大和河及其朝流

大和河ノ水路

十九丁

右朝流

二十一丁

左朝流

二十五丁

吉野河ノ灌域

地勢總括

二十八丁

吉野河及其朝流

吉野河ノ水路

二十九丁

右朝流

三十丁

左朝流

三十二丁

熊野河ノ灌域

地勢總括

三十三丁

熊野河及其朝流

熊野河ノ水路

三十三丁

左朝流

三十五丁

右朝流

三十五丁

北山川ノ灌域

地勢總括

三十六丁

北山川及其朝流

北山川ノ水路

三十六丁

右朝流

三十七丁

木津川左朝流ノ灌域

地勢總括

三十八丁

木津川左朝流ノ水路

三十八丁

名張川ノ水路及其朝流

三十八丁

交通路

四十丁

沿革史略

四十二丁

兵要地誌

大日本之部卷之四

陸軍助教田付直男 纂述

大和國誌

總論

大和國ハ畿内ノ東南ニアリ、東海南海二道ノ兩端ニ介在
 シ北緯三十三度五十二分ヨリ、三十四度四十六分、西經三
 度三十二分ヨリ、四度十五分ノ間ニ亘リ、其疆界北方ハ伊
 賀山城ニ交壤シ、南方ハ紀伊ニ斗入シ、東ハ伊勢西ハ河内
 ニ接ス、廣袤東西凡十里余、南北凡二十五里、國中十數郡ヲ
 リ、添上^{ソノノ}添下^{シタ}二郡、東西ニ並列シテ、北山城ニ隣シ、吉野郡ハ
 南ニアリ、三方皆紀伊ニ界ス、本郡最大、全州ノ半ヲ占ム、山

邊宇陀式上式下十市高市平郡廣瀬葛下忍海葛上宇智ノ
十二郡ハ大小錯雜シテ南北三郡添上添下及吉野郡間ニ狭マリ、
其東邊ハ伊賀伊勢ニ西邊ハ河内及紀伊ニ接ス忍海郡最
狭ク宇陀山邊ノ二郡稍廣シ全州總テ十五郡人口四十六
万六千二百四十三十四年ノ調
查ニ據ル
本州ハ畿内中最大ノ境上ヲ有シ全州山嶽其半ニ居リ南
下帶疊嶂連互實ニ平地ヲ見ス北山十津二水其間ヲ縈紆
シテ紀伊ニ達ス山路險隘溪谷幽邃人烟稀少ナリ北部ノ
地頗低平開濶吉野大和二水横ニ之ヲ貫キ支流縱横灌漑
普ク至リ地味肥沃歷世遷都ノ跡アルヲ以テ勝區古蹟州
内ニ遍ク道路坦夷車馬來往ス氣候ハ南北寒温ヲ異ニス

平均極暑九十六度極寒三十五度
物産ノ主要ナル者 礦物ハ水晶白石英黃石英礦石蛇骨
石磁石辰砂馬腦石白堊雲母石礬石滑石水瀝石禹餘糧綠
青銀雲母白砂金剛鑽金剛砂植物ハ燕薺佛掌薯百合根牛
蒡葱蠶豆蒟蒻葱菜種西瓜甜瓜胡瓜山葵茶烟草藍紅花麻
苧蘭茯苓人參芍藥當歸白芷地黃川芎吳茱萸大黃黃芩龍
膽獨活桔梗防風牡丹木附子柏楮樛梅桃李柿石榴橙枇
杷二度栗蜜柑棕櫚菩提子漆銀杏椎茸松茸岩茸水苔動物
ハ蠶鮎鯉鱒鮭鹿獼猴製造食物ハ酒霰酒燒酎醬油索麵葛
粉蕨粉葛菓子櫻漬奈良漬水豆腐鮎煎餅鮎鮓干瓢製造物
ハ油綿實油柏油真鍮鋳類陶器瓦筵杉原紙漆液紙漆罌松

炭、櫛炭、墨筆、膠漆、皮籠、吉野膳、團扇、兩合羽、華沓、雪踏、草履、人形、鼓皮、角細工、晒布、織物、綿、松烟、紙類、

山論

周脉

國境周圍ノ山脉ハ、東北伊賀伊勢ノ中間ヨリ來リ、本土ノ東境ニ至テ二條ニ岐分シ、其大勢南北ニ相離開シテ本土ヲ中央ニ相擁シ、漸ク繞テ西境ニ相閉合ス、其形勢南北ニ長フシテ、東西ニ短ク、脉絡蜿蜒、東ニ向テ畧凸字形ヲナシ、内部ニ大小ノ枝脉ヲ分發シテ、其間多少ノ凹谷ヲ開ク、其最大谷ハ北山、十津、吉野、大和ノ凹大水ナリ、溪谷深凹、其下谷ハ皆隣國ニ相隸屬シ、全周脉ヲ五節ニ流斷ス、曰北脉、曰

東脉、曰南脉、曰西南脉、曰西脉、即是ナリ、長短各一ナラス、幅ニ廣狹アリ、令其方向及之ニ屬スル峰巒及山徑等ヲ左ニ説叙ス、

北脉

北脉ハ國ノ東北、三國大和及伊賀伊勢ノ交壤點ヨリ分レ、西北ニ繞テ伊賀ノ西南、及山城ノ南境ヲ過キ、天王山大和及山城河内ニ跨ルニ至リ、岐シテ二條トナリ、其西北ニ赴クモノハ山城河内ノ兩國ヲ分界シテ、淀河ノ左岸ニ陵夷シ、西南ニ分ル、モノハ大和河内ノ西境ヲ劃シ、脉ノ南端頓ニ斷絶シテ、大和川ノ右岸ニ盡キ、東方主脉天王山以東國見山ニ至ルト相連合シテ、本土ノ北境、即北脉ヲナス、脉絡蜿蜒、其中央屈折最甚シク、山勢

國見天王ノ二岳

起伏低高多シ、脉中ノ峻山ヲ國見笠置一重相樂天王生駒
信貴等ノ諸山トス、就中國見天王ノ二山ハ最大、其位置共
ニ山麓ヲ占ム、笠置一重相樂ノ三山其間ニアリ、皆北方ニ
列起ス、山脚北城ニ廣ク南大ニ狭シ、南脚間ニ數多ノ小凹
谷ヲ開ク、大和河屬流ノ源概此ヨリ出テ、南方遠ク奈良及
郡山等ノ平地ニ連ナリ、梅谷一坂歌姫等ノ山徑ヲ開ク、
記ス詳生駒信貴高山等ノ諸山ハ俱ニ西方ニ秀出ス、樹木多シ、
山身多クハ本土ニ屬ス、山脚皆平群川大和河ノ右朝流ノ
右岸ニ迫リ、山勢險峻、山路狹隘、暗峠十三峠等ノ山徑ヲ開
久下條ニ一重山ノ南脚ヲ通シテ二坂路アリ、奈良坂及般
若坂ト云ス、奈良町ノ北口ヨリ岐分シ、奈良坂ハ西北一坂

奈良戰地

山徑奈良街道ニ般若坂ハ東北梅谷越ノ山徑伊賀街道ニ通ス、俱ニ北
山城ニ通スル要路ニアリ、治承中南都奈良町ノ僧兵蜂起シ、
平氏ニ抗シ、妹尾兼廉平清盛將戰ヒ敗レ、國內大ニ騷擾ス、四
年十一月、平清盛其族重衡ヲ遣リ、南都ヲ討ス、步騎三万餘、
重衡之ヲ念テ二隊トシテ、二道梅谷坂ヨリ入ル、僧兵出テ、
二坂奈良般若ヲ塞キ、近傍處々ニ壘寨ヲ築キ、守備ヲ嚴ニシ以
テ待ツ、二十八日、重衡二隊ヲ統ヘ來リ、二坂ヲ爭フ、僧兵險
ニ據リ、力ヲ盡シテ拒戰ス、然レハ衆寡敵セス、死傷頗多シ、
平軍勝ニ乘シテ、終ニ二坂ヲ奪テ入り、火ヲ南都ニ放ツ、烈
風ニ會フ、巨刹般若及東大興福等ノ諸寺概燒亡シ、僧兵死者凡一万餘、
延元三年二月、北畠顯家、奥兵ニ將トシテ、此二坂ニ陣シ、尋

テ京師ヲ攻メント欲ス、足利尊氏京ニアリ、其將桃井直常兄弟ヲ遣ル、直常等歩騎二千ニ將トシ、二道梅谷坂ヲ入り、夜ニ乘シテ急ニ般若坂ノ陣ヲ襲ヒ、火ヲ放チ競ヒ之ヲ撃シ、奥兵驚擾、直常更ニ精銳千五百ヲ抜キ、直ニ顯家ノ陣ヲ突ク陣大ニ亂ル、直常因テ迫リ撃ツ、顯家殆ト危シ、從士拒鬪明ニ達ス、宇都宮公綱來リ援クルニ會ス、顯家還シ戰ヒ、兩軍激戰、死傷多シ、交綏ス、直常兵ヲ収シテ京ニ歸ル、奥兵モ亦散失多シ、顯家終ニ京ニ入ル能ハス、奈良坂ノ西ニ接シテ一山アリ、多門山ト云フ、東南奈良ニ迫リ、西南郡山ニ達スル道路、其麓ヲ通ス、山甚高カラス、松樹多シ、頂ニ多門城ノ舊址ヲ存ス、其位置北一坂ノ山徑ニ當リ、東奈良坂ニ臨ミ、

多門山

多門城址

南奈良及郡山ヲ俯視ス可シ、永祿中、松永久秀ノ築シ所ニシテ、構造頗鞏固ナリ、之ヲ多門造ト云フ、多ク功力ヲ費サス、而シテ築法最巧ナリ、故ニ當世・人皆其製ニ倣フト云フ、久秀初、之ニ據リ、南筒井城添下郡郡山ノ南ニ迫ル、連戰屢勝、終ニ本國ノ半ヲ蠶食ス、後其子久通ニ之ヲ守ラシメ、久秀移テ信貴城平群郡ノ西山ニ居リ、二城犄角ヲ相為シ、本國ニ雄長タリ、久秀亡フルノ後、織田信長・山岡對馬ヲ置ク、尋テ廢ス、

信貴城址

信貴城ノ舊址ハ平群郡ノ西、同名ノ山中ニアリ、此山一名井上山ト云フ、峯聳ヘ三方東北西谷深ク、叢莽密茂シ、河内ニ通スル山徑其北ヲ過キ、南ハ昆沙門山等ノ諸山ニ連リ、

山勢峻峻、西凹谷ヲ隔テ、境上ニ支堡ノ跡アリ、本城信貴城ハ正門東ニ向テ、當時ノ通路一條ヲ存ス、建武中、楠氏ノ將信貴右衛門之ヲ築キ、國境ニ備フト云フ、爾後畠山氏ノ族之ニ據リ、屢、細川及三好二氏ト戰フ、永祿三年、松永久秀、多門城ニ據リ、兵ヲ出シテ、諸壘塞ヲ陷ル、筒井順昭抗スル能ハス、國中過半稍平ク、久秀乃、此城ニ移リ、織田氏ニ屬ス、天正五年八月、叛キ此城ニ據ル、九月、信長其子信忠ニ之ヲ攻シム、地險ニシテ城固シ、信忠之ヲ憂フ、久秀資性武而吝、素ヨリ衆心ヲ失ス、城兵稍々散亡、其留者又鬪志ナシ、信忠晝夜疾攻ム、城内之ニ應ズ、城忽陷ル、久秀自テ火中ニ投シテ死ス、城尋テ廢ス、信貴山ヲ距ル、北、數里、平群郡中、著名ノ一

生駒山

山ヲ生駒山ト云フ、國境ニ峙テ、山脚廣ク兩國大和河内ニ跨リ、松杉鬱立、溪谷深奧、山徑二條、南北ヲ通ス、北ヲ生駒谷トシ、南ヲ暗峠クラカゲトス、皆河内ニ通ス、往昔山上ニ巨剎アリト云ス、今ハ草舍五六坊ヲ存ス、鬼取村東腹ニアリ、奈良以西此ニ至ル、凡、四里許、暗峠ニ達ス可シ、生駒谷ノ東北ニ一村アリ、俵口ト云フ、塞址ヲ存ス、戰國ノ時ノ築造ト傳フ、其位置、生駒谷ヲ通スル、河内口ノ山徑ニ臨ム、

俵口塞址

第一 長瀬越トス、東北隅ノ國境ニアリ、鬚ヒゲ無驛山邊ヨリ名張驛伊賀國名張郡ニ通ス、此間ニ里餘、縣道ナリ、上街道或ハ

伊勢街道ト云フ

第二 青越或ハ水引峠トス、長瀬越ノ北、里餘ニアリ、上笠間村山邊郡ヨリ、阿部田村伊賀國名張郡ニ出テ、上街道ニ合ス、里道ナリ、

第三 鶺鴒山越トス、山邊郡ノ東北ニアリ、廣瀬村山邊郡ヨリ、安場村伊賀國伊賀郡ニ達ス、里道ナリ、其南又一徑アリ、西方和田村添上郡ニテ、岐分シ、三谷村山邊郡以東、薦野村伊賀國名張郡ニ通ス

第四 長引越トス、山城ニ之ヲ田山越ト云フ、山邊郡ノ東北隅ニアリ、長引村山邊郡ヨリ、田山村山城國相樂郡ニ通ス、
第五 長引越ノ西ニアリ、山城ニ高尾越ト稱ス、二道アリ

長尾川ノ兩岸ヲ沿ヒ、添上郡ノ東北、桃香野及下丹生二村ヨリ北行シテ、高尾村山城國相樂郡ニ相會ス、

第六 笠置越トス、大柳生村ヨリ笠置山ヲ過キ、笠置村山城國相樂郡ニ達ス

第七 梅谷越トス、一重山ノ東側ヲ通ス、般若寺村添上郡ヨリ梅谷村山城國相樂郡ニ出テ、木津川全上ニ沿テ、伊賀ヲ貫キ、東海道關宿ニ出ツ、故ニ或ハ伊賀上野越ト云フ、

第八 一坂越トス、梅谷越ノ西ニアリ、一重山ノ西側ヲ通ス、西京街道ト稱ス、山城ニ所謂奈良街道即是ナリ、路險隘ナラス、車馬通過ス、縣道一等戰國ノ時、兩國大和山城間ノ軍路ニ屬ス、

第九 歌姫越トス、相樂山ノ東南ニアリ、歌姫村ノ添下郡ヨリ、相樂村山城國ニ通ス、京街道縣道ト稱ス、山城ニ之ヲ郡山街道、又大和街道ト呼フ、郡山添下以北、山脉ヲ經過シ、遙ニ京都ニ達スル路線ナリ、亦險隘ナラス、車騎通ス可シ

第十 北川越トス、相樂山ノ西ニアリ、鹿畑村ノ添下郡ヨリ、柘榴村山城國ニ出ツ里道ナリ、以上長引越ニ至ル、大小ノ諸道、皆北木津川山城國ノ凹谷ニ達ス、險夷アリ、兩國間ノ交通ヲナス、

第十一 傍示越トス、三國山城大和河内ノ交壤點ニ接シ、添下郡ノ極北、傍示村ヨリ東西二國山城河内ニ通ス、宮緒川大和河内ノ右朝

流ノ上谷ヲ開ク、其東ニ通スルハ普賢寺谷山城國相樂郡ノ上ニ、西ハ御茶屋村ヲ經テ、杖方驛河内國交野郡ニ出ツ、樵路ナリ

第十二 割石越一名岩舟越トス、傍示越ノ南、里餘ニアリ、北田原村添下郡ヨリ、私市河内國及中野郡ニ通ス、俱ニ天川全圖交野郡ノ上谷ニ出ツ、難路ナリ、

第十三 生駒越トス、生駒山ノ北ニアリ、山崎村平群郡ヨリ、中垣内村河内國讚良郡ニ通ス、平群川大和川ノ右朝流ノ上谷ヲ開ク、路險隘ナリ、俵口寨址ノ南ヲ過ク、

第十四 暗嶺越トス、生駒山ノ南ニアリ、奈良以西、小瀬村平群郡ヲ經テ、松原驛河内國河内郡ニ達スル、大坂路交通路ノ條ニ詳ニス

之ヲ經過ス、此處往古ハ松杉翁鬱、路暗シ、故ニ名久天正
 中豐臣秀長、郡山城郡下ヲ築クニ迄ヒ、悉ク大木ヲ伐採シ、
 以テ往來ニ便セシヨリ、今ニ木樹少シト云フ、路甚狹隘
 ナラス、其北一徑アリ、或ハ草香峠ト云ス、鬼取村ヨリ日
 下村河内郡ニ通ス、樵路ナリ、

第十五 十三峠越トス、福貴村平群郡ヨリ神立村河内郡高安郡
 通ス、奈良以西、郡山及龍田平群郡中ヲ經過スル、大坂龍
 田越交通路ノ路線ニ當ル、高低多シ、南北ニ樵路數條ア
 リ、北ニアルヲ業平ナリヒラカチガヨリ河内通ト云フ、南ニアルハ信貴山ノ
 近側ヲ通ス

第十六 龜瀨越トス、信貴山ノ南凡二里、大和河ノ右方ニ

北中央水
界線

三笠山

近シ、奈良ノ西南郡山及龍田ヲ經テ、國分驛河内郡安宿郡大和川ノ
 岸ニ達スル、塚路龜瀨越交通路ノ條、路線ノ通スル所ナ
 リ、郡山以西、河内ニ出ル最捷路トス、大坂夏ノ役、堀直寄
 一軍ヲ率テ、此ヨリ直ニ國分嶺河内郡安宿郡ニ抵ル、
 北脉ノ中央山一重ヨリ、南音羽山十市郡ノ西南ニアリ、中央
 ニ合スル、一連ノ山脉アリ、之ヲ北中央水界線トス、其方向
 五郡添上山邊式ヲ經過シ、本州北部諸流、水界線ヲナシ、
 又東西ニ灌域東ハ木津川上流ノ諸朝ヲ分ツ、脈中峰巒多
 シ、三笠山一御蓋山、小ト雖モ最著ナル、脉北ニ位シ、西奈良
 町ニ接ス、山中鹿多シ、春日山ハ其東ニ、高圓山ハ東南ニ、屹
 ツ、猪飼栗原ニ山ハ、遠ク南ニアリ、樹木鬱蒼、溪泉ニ富ム、山

徑アリ其一、鳴川村及法用村共ニ添其二春日野村及野多林村
村上其三鹿野園村及和田村上以上二道奈良以東國境賀伊ニ達
スル縣道ナリ、其四岩屋村及来迎寺村共ニ山其五初瀬驛十市及
萩原驛宇陀其六忍坂村式上及芝生村、其七針道村十市及宮奥村

東脉

東脉ハ宇陀郡ノ東國見岳以南、北山川ノ左岸ニ連ナル、
帶ノ山脉ヲ云フ、其方向始ハ稍彎曲シテ、後遙ニ南方ニ延
キ、山脊稜嶺本國及伊勢紀伊ノ境ヲ劃シ、基脚廣大、峻山多
ク、又樹木多シ、脉ノ中央特ニ兩派ヲ分發シ、其東境外ニ属
スルモノハ、伊勢紀伊ノ兩境ヲ劃シ、西ナルモノハ、内地ニ
入テ、南北ニ延伸シ、吉野郡ノ中央水界線即チ南中央ヲテ

國見山

高見山

大臺原山

シ、其南端稍、陵夷シテ南境即南脉ヲナス、
本脉中、著大ノ山ヲ、國見高見及大臺原ノ三山トス、國見山
ハ北ニアリ、大臺原山ハ、中央ニアリ、二山俱一山帯ニ位シ
國見山ハ大和及伊勢紀伊勢ニ大臺山身廣大諸峯ノ上ニ秀
原山ハ大和及伊勢紀伊勢ニ跨ル、
國見山西北脉ニ連リ、西南高見山ト相對峙ス、頂ニ登レ
ハ、内地ヲ瞰フ可シ、大臺原山、山頂平曠、一臺地ヲナシ、周圍
列岳爭聳シテ、樹林鬱蒼、其一ノ三國岳ト云ヒ、勢紀二州ノ
界ニ介在ス、其一ハ巴岳ト云フ三水アリ山中ヨリ出ツ、一
ハ南流シテ北山川トナリ、南紀伊ニ赴キ、一ハ東ニ注テ、伊
勢ニ入り宮川ト稱シ、一ハ西北ニ下テ、吉野川トナル北山吉
野ニ水
下條水論 此山西内地ニ向テ下支脉ヲ分發シ、其始ニ水源
ニ詳記ス

南中央水
界線

吉野山
及城址

吉野北ヲ界、吉野郡ノ中央ニ至リ、更ニ南北ニ連直ク
ル十餘里、之ヲ南中央水界線トス。此分派中出、峯巒參差、全郡
殆ト平地ナシ、其北ニ赴クモノハ、吉野河ノ左岸ニ延キ、岨
起シテ青根峯トナリ、其間守屋大天井等ノ諸岳ヲ領有シ、
其餘派數條又西南ニ支出シ、溪谷深奧、南ニ走ルモノハ、御
山釋迦、大日等ノ諸嶽トナリ、脉絡蜿蜒、山脚亦十津川ノ左
岸ニ延キ、本脉ハ終ニ南シテ南脉ニ合ス。
青根峯ノ西脚中一疣起スル、一山ヲ吉野山一名金御嶽ト云フ、
滿山櫻樹、花時之ヲ望ムニ、恰積雪ノ如シ、著名ノ勝境ナリ、
山ノ東ニ吉野城ノ舊址ヲ存ス、三方高山ヲ負ヒ、西南吉野
河ヲ控ヘ、溪谷深凹、山路險隘、其位置實ニ要害ト稱ス、元弘

吉野皇居
ノ址

三年正月、護良親王之ニ據ル、賊兵總テ八十万分テ三隊ト
シ、吉野赤坂及金剛山赤坂以下河内ニアリニ向フ、賊將、二階堂道蘊、
其一隊ヲ督シ、前軍歩騎二万七千、三道ヨリ來リ攻ム、地險
ニシテ城固シ、道蘊之ヲ憂フ、城後ニ下山アリ、金峯山ト云
フ、高峻ナリ、城兵險ヲ恃テ備ヲ設ケス、賊豫之ヲ知ル、密ニ
輕兵百五十人ヲ遣リ直ニ城中ヲ降射ス、城兵顧ミテ驚キ潰ヘ、
城忽ナ陷ル、村上義光之ニ死シ、親王出奔、城ヲ繞テ、金輪寺吉
水院等ノ諸刹アリ、建武三年以降、後醍醐帝躡テ此山中ニ
駐メ、金輪寺ヲ以テ皇宮ニ擬ス、南朝四世、五十六年、殿宇ノ
址今尚存在ス、吉水院ト亦一時ノ行宮ニシテ、後金輪寺ニ
轉スト云フ、文治元年、源義經、大物浦攝津河邊郡ヨリ吉野山中

高取城址

ニ遁レ、夜潛ニ吉水院ニ入ル僧徒反キ來リ襲ス、其徒士佐藤忠信防戰之ニ死シ、義經僅ニ免ル。正平二年、高師直兵三万ヲ以テ來リ侵ス、行宮既ニ空ク守兵ナシ、師直命シテ火ヲ放ツ、行宮及公卿ノ邸宅皆燒亡ス、山ノ南ニ細運アリ、狹隘ニシテ羊腸ナリ、秋川丹生川、ニ水共ニ吉野ニ上谷ノ交通ヲナス、其中途榎尾城ノ舊址ヲ存ス、山上ニアリ、元弘三年、護良親王、竊ニ熊野紀伊那智郡ヲ出テ、始、此城ニ據ル、郭域狹隘、地勢守禦ニ適セス、更ニ移ッテ吉野城ニ據ルト云フ、城ノ西北一里餘、吉野河ヲ隔テ、高市郡ノ東南隅ニ位スル山ヲ鷹鞞山ト云ス、東方遙ニ高見山東脉中ノ西脉ヲ延キ、山勢峭拔、群峯中ニ秀ツ、此山今ハ高取山ト呼フ、中腹ニ同名

榎尾城址

龍在城址

ノ城址ヲ存ス、郭域狹ト雖、其位置高ヲ占テ、西上佐町西麓ルヨリ、登ルヲ五十餘町、坂路羊腸、當時ニ在テ最モ要害ノ地ト稱ス、南朝ノ築キ以テ吉野ノ支堡トシ、北兵ヲ防キニ所ト云ス、享祿天文ノ際、越智利元之ニ據ル、豐臣秀長ノ本國ニ主タル、其將本多太郎左衛門ヲ置ク、次テ脇坂安治代リ治ス、後本多俊政父子、相繼キ此ニ居ル、寛永十八年、植村家政、封ヲ此ニ受ケシヨリ、子孫世襲シ、以テ明治維新ニ至ル、今ハ廢類ニ委ス、龍在城ノ舊址ハ、其東ニアリ、位置高隆、瀧畑村ニ屬シ、北ニ多武峰ヲ負フ、戰國ノ時ノ築造ト云フ、飛鳥川大和河ノ左朝流、龍門川吉野川ノ右朝流、ニ上谷ヲ通スル山徑ニ臨ム、多武峯ノ東ニ龍門山アリ、音羽山其間ニ在テ稍、北方

多武峯龍門山

中央水東線

ニ拱出ス、其状恰蓋ノ如ク、三山俱ニ樹水ニ富ミ、皆鷹鞭山ト其脉ヲ同ラス、此山脉ハ本土ノ中央水界線ナリ、其方向東ハ高見山前ニ出、西ハ葛城山後ニ出ニ連リ、東西二山脉東脈ヲ西脈ヲ連繋シテ脉絡略直ク甚々高大ナラスト雖、國ノ正中ヲ東西ニ經過シ、全土ヲ南北ニ分割ス、山徑數條アリ、其一、瀧村吉野及桃股村宇陀郡其二、松山町宇陀郡及大野村吉野郡其三、八井田町十市郡及上市驛吉野郡其四、戸毛驛葛上郡及五條驛宇智郡東脈ヲ過キ伊勢及ヒ紀伊ニ通スル山徑ヲ左ニ列記ス、

第一 岩坂越トス、伊勢ニ杉平越ト稱ス、國見山ノ東南ニアリ、神杉村宇陀郡ヨリ、杉平村伊勢郡ニ通スル路、屈曲シテ嶮岨ナリ、大和長谷街道線ノ通スル所ナリ、

第二 三越トス、神末村ヨリ南ニ通シテ、富永村伊勢郡ニ達ス、此間二里二十七町餘、牛馬通ヤス、

第三 白髮越トス、國見山ノ南菅野川ノ上谷ヲ開久、土屋原村宇陀郡ヨリ、波瀨村伊勢郡ニ通ス、此間二里十町餘、嶮路曲折スル都テ九十九回、跋涉頗艱、歩徑ナリ

第四 請取峠越トス、白髮越ノ西ニ近シ、土屋原村出前ヨリ多羅木村伊勢郡ニ通ス、此間一里三十一町餘、溪谷四十一處ヲ徑テ路亦險、牛馬通ヤス、歩荷稍過ク可シ

第五 高見越トス、高見山ノ南側ニアリ、杉谷村吉野郡ヨリ舟戸村伊勢郡ニ通ス、此間一里三町許、之ヲ紀伊路高見越ト云フ、國內ヲ東西ニ經過ス、小川吉野河ノ右朝流ト稻水川

伊トノ二上谷ヲ開ク縣道ナリ

第六 神合嶽越トス高見大臺原ニ山ノ中間ニアリ吉野

河上谷入之波村吉野郡ト宮川ノ上谷大杉村伊勢郡度

トノ交通ヲ開ク此間中徑八里許險難多シ歩徑ナリ

第七 不動越トス大瀨村吉野郡ヨリ水津村伊勢郡ニ通ス

第八 祖母谷越又河口越トス川口村吉野郡ヨリ桃崎驛伊勢郡

年婁ニ通ス此間一里二十町紀伊路支道線ニ屬ス縣道ナリ

南脉

南脉ハ吉野郡中央水界線東脉中ノ南端ニ交互シ其形勢

略一字様ヲナシ東ハ北山川西ハ十津川トノ間ニアリ脉

絡短小峻嶺ニ乏シ玉置山其交互點ニ位シ獨諸山ニ捷キ

兒山環列中山土山等ノ別峯アリ南脚紀伊ニ跨リ山身頗大ナリ

本脉ヲ過キ南紀伊ニ通フル山徑數條アリ其最ナルモノ

ヲ左ニ掲ク

第一 大祝詞越トス脉東ヲ經過ス浦向村吉野郡ヨリ玉置

村紀伊年婁郡ニ通ス路屈曲シテ險難多シ

第二 竹筒越又九重峠ト云ス玉置山中ヲ經竹筒村吉野郡

ヨリ九重村紀伊年婁郡ヲ過キ藤生驛同上ニ通ス此間一里餘

新宮道ト稱ス縣道ナリ溪壑ヲ迂回シテ昂低著シ

西南脉

西南脉ハ西方吉野河ト南方十津川トノ間國ノ西南境ニ

連且スル一帯ノ山脉ヲ云フ脉絡蜿蜒西南紀伊ニ彎入シ

其長東脈ト略相伯仲シ中央以南其高漸卑フシテ幅漸大分脈數條西ニ長フシテ紀伊ノ郡界ヲ劃シ東ニ短フシテ十津川左朝流ノ凹谷ヲ開ク脈内巨峯峻嶺多シ又今脈中小壺荒神伯母子無終ノ諸山アリ小壺山一名金山最北ニ位リ十津川ノ上谷ニ峙ツ金坑アリ深二十餘丈荒神岳其西南ニアリ峭拔峻嶮溪流其南北ヲ繞ル伯母子嶽又其南ニアリ水峯ノ山路山中ヲ經過シテ頗峻ナリ以上三山相距ル遠カラヌ西水脈ニ連リ溪壑深奥山脚俱ニ東ニ延テ十津川ノ右岸ニ迫ル土質薄瘠人烟稀少ナリ無終山ハ本脈ノ東南端ニ位シ水津川ノ右岸ニ峙ツ山身廣大太尾廣野二峯一山内ニアリ西南遥ニ紀伊ノ諸山ニ連リ山内遼

三峯山

遠谷幽ニ嶺高シ無終ノ名實ニ証ヒスト云フ

本脈ヲ過キ南紀伊ニ通ル山徑數條アリ左ニ列叙ス

第一 袖野越トス本脈ノ稍北端ヲ經過ス袖野村吉野郡ヨ

リ富貴村紀伊郡ニ通ス難路ナリ

第二 水峯越トス五百瀬村吉野郡ヨリ西北伯母子嶽及荒

神岳ニ山中ヲ過キ大瀧村紀伊郡ニ通人歩徑ナリ

第三 檜又越トス水峯越ノ西南里餘ニアリ今西村吉野郡

ヨリ相浦村紀伊郡ニ通ス十津川ト佐田川トノ二上谷

ヲ開ク亦歩徑ナリ以上三道皆高野山紀伊郡ニ相會

入

第四 野原越トス本脈ノ稍中央ヲ經過ス野原村吉野郡ヨ

リ五百原村高野郡伊日ニ通ス、寒野川右朝津川ノ日高川紀伊二

上谷ヲ開ク、路險隘ナリ、二道檜又越野原越三浦村ヨリ岐分ル

第五 蟻腰越トス、野原越ノ南凡里餘ニアリ、追西川村吉野郡

ヨリ呂太村紀伊日高郡ニ通ス、西川右朝津川ノ日高川前二上

谷ヲ開ク、

第六 引牛越トス、蟻腰越ノ南凡一里ニアリ、川俣村吉野郡

ヨリ札辻村高野郡ニ通ス、此間僅ニ半里ニ過キス、山路

羊腸溪流ニ沿テ險隘ナリ、

第七 三越トス、引牛越ノ西里餘ニアリ、上湯川村吉野郡

リ一本松村紀伊牟婁郡ニ通ス、二道三越引上湯川村ヨリ分

岐ス、

第八 八木尾越トス、本脈ノ東南端ニアリ、無終山ヲ横過

シ七色村吉野郡ヨリ一本松村ニ通ス、其線路略十津川ノ

右岸ニ沿テ、昂低屈曲多シ、

西脈

西脈ハ國ノ西方二大河大和河吉野河ノ間ニ連ナル、一帯ノ山脉

即國境大和河内ヲ劃スルモノニシテ、其方向南北ニ亘リ、

略直フニテ而シテ、短久山脊峻峭、基面甚廣カラス、東坡ハ峻

急、西坡ハ緩、諸水傾斜ニ隨テ、東西ニ分流シ、頗遲速アリ

山徑モ亦險夷ヲ異ニス、

東坡峻急、故ニ内地ニ支脈ヲ分タス、峰巒隨テ少シ、著大ノ

山岳本脈ニ多シ、就中脈ノ中央ニ在テ、最秀ツルヲ葛城山

葛城山

ト、山身廣大、東西ニ跨リ、西河内ニ隸スル一峯ヲ高天山
 又金剛山河内誌ニト云ヒ、東即東坡ニ屹ツヲ戒名山ト云
 フ、山ヲ同フシテ峰ヲ異ニス、葛城ハ其總稱ト云フ、其太
 峰一名山上、嶽吉野郡ノ中央ニ聳ユト並ヒ稱ス、其高畿内近傍諸峰ニ冠タ
 リ、篠峰其北ニアリ、二山ノ間ヲ水越嶺ト云フ、二國大和河内交
 通ノ山徑ヲ存ス、南北朝ノ時、楠正成ノ吉野行宮東脈中ニ
 ニ朝スル、毎ニ此ヲ經ルト云フ、別記ス、二上山、又其北ニ
 位シ、本脈内ニ屹チ、半ハ河内ニ跨ル、二峰アリ相對ス、一ヲ
 男岳ト云フ、一ヲ女岳ト云フ、其間城址ヲ存ス、僅ニ辨ス可
 シ、戰國ノ時、畠山某ノ據ル所ト云フ、當麻下條山徑越別記ス
 山徑ニ臨ム、二上山ノ南ニ近キ一山ヲ万歳山ト稱ス、峰巒

二上山ノ城址

万歳山城址

重嶂深壑、峻嶺山中、又城址ヲ存ス、万歳大和此ニ居ル、位置
 要害ナリ、永祿二年十一月、松永久秀、本國ニ入り、諸城ヲ攻
 陷ス、大和敵ス可ラサルヲ計リ、城ヲ致シテ久秀ニ屬ス、葛
 城山ノ南、著名ノ一山ヲ神福山ト云フ、相距ル凡ニ里許、三
 國大和河内紀伊ノ交界、即山脉ノ岐分點ニアリ、山勢高峻、松柏鬱
 蒼ニ山徑、其東西ヲ通ス、東ヲ千早越ト云ヒ、西ヲ大澤峠ト
 云フ、下山徑ノ條ニ別記ス、山脉此ヨリ西ニ走ルモノハ、河内紀伊及
 和泉ノ國界ヲ劃シ、遙ニ海岸大坂ニ延キ、南ニ分ルモノハ、
 西脈ノ南部ニ屬シ、脈絡短矮、吉野河ノ右岸ニ盡キ、北、大和
 河ニ至ル山脉ヲ連合シテ、西脈即西國境ヲ劃ス、
 本脈ヲ横過シ、河内及紀伊ニ通スル山徑數條アリ、左ニ列

記ス

- 第一 蛭目越トス、本脉ノ稍北端ヲ通ス、大和河岸ニ近シ、平野村^{葛下}ヨリ國分村^{河内安宿郡}ニ出ツ、此間凡一里半、
- 第二 關屋越トス、蛭目越ノ南ニ接ス、關屋村^{葛下}ヨリ國分村^前ニ出ツ、
- 第三 穴虫越^{一名}トス、二上山ノ北ヲ通ス、穴蒸村^{葛下}ヨリ飛鳥村^{河内古市郡}ニ出ツ、
- 第四 岩窟越トス、二上山ノ南側ヲ過ク、當麻村^{葛下}ヨリ山田村^{河内石川郡}ニ出ツ、
- 第五 竹内越トス、岩窟越ノ南ニアリ、二道相接近ス、竹内村^{葛下}ヨリ山田村^前ニ通ス、此間凡一里許、甚嶮隘ナラ

ス、河内街道ト稱ス、縣道ナリ、車馬通ス可シ

- 第六 水越峠トス、葛城山中ニアリ、關屋村^{葛下}ヨリ上河内及水谷^{二村}石川^{河内}ニ通ス、往時ノ河内街道ナリ、南北朝ノ時、楠正成河内ニアリ、東方吉野^{本國吉野郡}當時ノ行宮ノ交通、皆此山徑ニ依ルト云ス、嘉慶二年十二月、畠山基國ノ千早城^{河内石川郡}ヲ攻ムル地、險ニ城固ク、基國ノ兵死傷多シ、乃輕兵五百ヲ水越峠ニ置キ、以テ其糧道ヲ絶ツ、城中漸困、城終ニ陷ル
- 第七 高天越トス、戒名山ノ南側ヲ通ス、高天村^{葛上}ヨリ千早城址ノ北側ヲ過キ、千早村^{河内石川郡}ニ出ツ、此二道水越峠^{高名柄村}葛上^郡高天村^{東北}一里許、岐分ス

第八 千早越トス、高天越ノ南、神福山ノ東北ヲ通ス、西久

留野村宇智郡ヨリ千早村前出ニ出ツ、

第九 大澤越トス、神福山ノ西側ヲ通ス、上村宇智郡ヨリ石

見川村河内郡錦ニ出ツ、

水論

灌域ノ區畫

山河天然ノ形勢ニ隨テ、國內五灌域ヲナス、大和河ノ灌域、吉野河ノ灌域、熊野河ノ灌域、北山川ノ灌域、及、木津川左朝流ノ灌域、即是ナリ、

第一 大和河ノ灌域ハ、國ノ西北部ニアリ、北西ノ二方ハ、北脉ノ南坡及、西脉ノ東坡ヲ以テ成リ、南東ニ方ハ、高見山

ノ支脉、及、中央水界線ヲ以テ界ス、

第二 吉野河ノ灌域ハ、第一灌域大和河ノ南ニアリ、南ハ中央水界線ノ枝脉ヲ以テ成リ、東ヨリ北ニ繞テ、東脉ノ一部

及其支派ヲ纏ス、

第三 熊野河ノ灌域ハ、國ノ西南ニアリ、北第二灌域ト隣

ス、西ヨリ南ニ繞リ、西南脉ヲ以テ紀伊ニ界シ、東ハ中央水界線ヲ以テ第四灌域ト分隔ス、

第四 北山川ノ灌域ハ、第三灌域ト、西中央水界線ヲ界シ、

北及東方ハ、東脉及其支脉ヲ以テ成ル、

第五 木津川左朝流ノ灌域ハ、東北隅ニ偏僻シ、北脉及中

央水界線ヲ以テ、其三方南及東ヲ界シ、五灌域中、區域最狹小

ナリ

大和河ノ灌域

地勢總括

此地四周山脉ノ他、内部ハ概平濶、氣候温和、地勢漸、西方ニ
低平シ、道路險トク、河流夥多、普ク田土ニ灌溉シ、物産豊饒、
上世帝都ノアリシニ因テ、名邑、巨利、勝境、今ニ域内ニ遍ク、
人烟繁華ナリ、

大和河及其朝流

大和河ノ水路

大和河ハ、北中央水界線ノ西坡、金平山ノ北谷ヨリ濫觴シ、
式上郡ノ中央ヲ西南ニ彎流スル數里、初瀨^{初瀨}人口^二千^三輪^七

初瀨三輪
二驛

初瀨山寮址

百三十^二驛ノ南ヲ過キ、上街道線^{伊賀路}ヲ斷流ス、
二驛相距ル凡一里半、奈良^{添上郡}ノ東南上街道^{方向距離}
條ニ別ノ路線内ニ相列シ、市街俱ニ右岸ニ沿ス、三輪ニ警
察署アリ、又郡役所アリ^{市式上式下宇陀十}此邊山陵迤邐、河
ノ左右ニ沿ス、右ニ在テ高キモノヲ、初瀨山ト云ヒ、左ニ在
テ忍坂山ト云フ、初瀨山ハ、初瀨驛ノ北ニ此ヲ、其南腹ニ小
寨址ヲ存ス、郭域狹小、僅ニ辨ス可シ、忍坂山、河ヲ隔テ、其
南ニアリ、三輪驛ヨリ岐分スル道路、略左岸ニ沿ヒ、其山中
ヲ經テ、第五灌域ニ通ス、^{北中央水界線}大和河、次テ西北ニ環
流シ、^{豊前江包等}ノ數村ヲ過シ、^{式下郡}ニ入テ、右ニ纏向川
ヲ納ル、江包以上、水源ニ至ル、初瀨川ノ稱アリ、小舟ヲ通ス

へシ、次テ北流スル凡一里許、漸々方向ヲ西ニ轉シ、右ニ布留川ヲ納レ、二階堂村ノ南ニ至リ、中街道大坂路ヲ斷流シ、次テ又右ニ奈良川ヲ納リ、水路蜿蜒、平群郡ノ南界ヲ劃流シ、左ニ寺川、飛鳥川、保田川等ノ數流ヲ納ル、此邊河岸概テ低平、地勢開濶、水流稍遲緩ナリ、次テ右ニ富緒川トナリヲ納レ、廣瀬郡ノ北方ヲ流レテ、廣瀬川ノ稱アリ、次テ神南備山平群郡ノ東南ニ至テ、右ニ平群川ヲ納レ、水路此ヨリ西南ニ赴キ、漸山隘ニ入テ、兩岸次第ニ高起シ、左ニ富川ヲ納ル、平群川涑滙以下、國境ニ至ル、龍田川ノ稱アリ、次テ國境脈ヲ横斷シ、龜瀨越北脉第十ノ南ヲ過キテ、河内ニ入り、始テ大和河ノ稱起ル、國內ヲ流ル、凡十三里、流末濶十三間、平時ハ水甚

王寺渡

疾カラス、龜瀨越ノ東、一村ヲ立野ト云フ、右岸ニアリ、左岸ノ王寺村ト相對ス、流末ニ在テ運送ノ津トナス、王寺渡ト呼ス、此ヨリ小舟上流初瀬川ニ來往ス、俗呼テ高瀬舟ト云フ、

右朝流

第一 纏向川一名穴ハ、初瀬山前ノ西南、纏向山ヨリ濫觴シ、西流シテ若中村ニ至リ、左ニ狹井川ヲ納レ、上街道線ヲ横截シ、江包村ニ至リ、大和河初瀬ニ入ル、一小流ナリ、右岸ニ古、皇居ノ遺址、及帝陵多シ、珠城、日代ノニ宮址ハ穴師村ニ幸玉宮址ハ太田村ニアリ、又崇神景行ニ、帝陵アリ、在リ、下小堡ノ址ヲ存ス、位置山ヲ北ニシ、水ヲ南ニス、其北、又塞址アリ、亦山ヲ負フ、其地、柳本村ニ屬ス、土俗、柳本營所ト稱ス、營外人家一聚落ヲナス、人口

濫谷村舊址

柳本營所

二百五十八 北ハ丹波市南ハ三輪ニ驛ノ中間ニアリ、上街道線ニ臨ム、式上郡中ノ名邑ナリ、享祿中、柳本彈正忠細川氏之ニ據リ、遊佐河内^{三好}ニ黨ス、元和中、織田尚長ノ有トナリ子孫相繼キ明治ノ初ニ至ル、

第二 布留川ハ、源ヲ布留山^{山邊}ノ東谷中ヨリ發シ、山ノ東北麓ヲ環流シ、布留村ヲ過キ、布留川ト稱シ、西流丹波市驛ノ北ニ來テ、上街道線ヲ横截シ、次テ田村ヲ過ク、村内ニ穴穗官址ヲ存ス、左岸ニ近シ、安南帝ノ故都ト云ス、

第三 奈良川ハ、春日山^{漆上}ノ東中川村ノ山中ヨリ濫觴シ、西流奈良市街ノ北部ヲ貫流シ、西南ニ流レテ、一水ト相會ス、此水町ノ南部ヲ東西ニ貫流シ、奈良川ト略相并行走、

穴穗官址

奈良市街

此地古ノ所謂南都^{平城}ニシテ、元明帝以下歷世帝都ナリ、
シ所ナリ、其位置平地ニアリ北東ノ二方ハ、近ク山脉ヲ纏ヒ、地勢遠ク西南ニ開濶シテ、河水ヲ控ヘ、本國諸道ノ中集點ニアリ、明治ノ初奈良縣廳ヲ置、今ハ大坂府ノ管内ニ隸シ、市坊賣瀾^{東西二十四丁}、街衢縱横、古刹舊蹟頗多、巨銅佛ハ、東大寺ニアリ、大佛殿即是ナリ、治安裁判所^{警察署}、電信分局等アリ、又郡役所ヲ置ク^{漆上漆下山邊}、人口、二万二千六百九十六^{十四年}、^{杏ニ據ル}、本國中第一ノ都會ナリ、東大寺ハ東北隅ニアリ、永祿十年四月、三好政康、岩成左通等兵ヲ率ヒテ河内ヨリ來、テ奈良ニ至リ、大佛殿ニ陣ス、松永久秀、多門城^{山論}ニ在リ、兵ヲ出シテ相戰フ、連日決セ

大佛殿ノ戰

ス、久秀敵ノ情ヲ窺ヒ、夜其營ヲ襲フ、營果シテ擾亂ス、久秀
 乗シ迫リ撃テ火ヲ其營ニ放ツ、政康等敗走、餘焰甚熾ナリ、
 大佛殿悉ク燒久、建久中、源頼頼再興セシ元興福寺ハ、市街
 ノ中央ニアリ、寺内廣濶、此ヨリ以北、北脉一坂ノニ通スル
 直路アリ、京街道ナリ、中途ニ奈良及般若ノ二坂アリ、般若
 坂ニ接シテ、般若寺アリ、此ヨリ東北ニ登レハ、梅谷北脉
 徑ノ條ヲ參ニ達スヘシ、治承四年十一月、平重衡、南都奈良ノ
 僧兵ト、此二坂ニ戰フ、重衡勝ニ乗シテ追撃シ、火ヲ上風ニ
 放ツ、般若寺忽、烏有ニ歸シ、東大興福二寺亦餘燄ニ罹ル、僧
 兵驚擾死傷頗多シ、延元三年三月、源顯家大衆ヲ率ヒテ、南
 都ニ陣シ、新田義興等ト京西ヲ攻ルノ事ヲ議ス、伊達信夫

奈良坂及
般若坂ノ
戰

辰市寨址

ノ兵ヲ先鋒トシ、般若坂ニ屯ス、足利尊氏之ヲ聽キ、俄ニ其
 將桃井直常兄弟ヲ遣リ、夜般若坂ノ軍ヲ破リ、兩軍大ニ南
 都ニ戰フ、勝負決セズ、兵疲シテ交綏ス、山論北脉山徑ノ奈
 良川、次テ南流シテ、河内街道線大坂路ヲ横截シ、杏村添上
 ニ至リ、左ニ一水ヲ納ル、小流ナリ、其源、東方高圓山ヨリ出
 テ、西流ス、辰市村左岸ニアリ、寨址ヲ存ス、北水ニ臨テ區域
 狹ク、其址僅ニ辨スヘシ、奈良川次テ秋篠川ヲ右ニ納ル、此
 水、西北、中山村北脉ノ山中ヨリ出ツ、秋篠村ヲ經テ、秋篠
 川ノ稱アリ、東南ニ流レテ、河内街道前ヲ横截シ、郡山添下
 舊城ノ北ニ至リ、大橋川ト云ヒ、斜ニ郡山街道線北脉越ニ通ス
 ヲ流斷シ、觀音寺村添下ニ至ッテ、奈良川ニ入ル、小流ナリ、次

郡山驛

テ郡山驛人口一万四千ノ東ヲ過ク、此地柳澤氏、舊治所ナリ、市間亦廣瀾、東西凡十四丁餘、人烟奈良ニ亞キ、相距ル凡

郡山城址

二里半、城郭ハ稍、中央ニ存ス、地勢稍、西方ニ高シ、東北隅ヲ奈良口ト云ヒ、西南ヲ矢田口ト稱シ、奈良大坂ニ街道、縱横郭北ヲ通シ、外郭西ニ圓ク、東ニ方、二水東ハ奈良川、西ハ富緒川、其東西ヲ流シ、北ニ北脉ヲ控ヘ、南大和河ヲ帶フ、永祿年間、小田切春次、築キ而メ之ニ據リ、筒井氏ニ屬ス、天正十三年、豊臣秀長、本國ニ主タルニ迄ヒ、大ニ城郭ヲ修理シ、自ラ此ニ治シ、以テ大坂城津攝ノ藩屏トス、秀長卒シ、其子秀俊、大スルニ及、秀吉之ヲ増田長盛ニ與フ、長盛亡テ、筒井定慶之ヲ守ル、大坂ノ役、坂兵大野治長、部兵、境北脉、生駒、谷ノ山徑ヲ踰ヘ、來リ侵シ、火ヲ放

筒井城址

テ城ヲ燒ク、定慶支ヘス、出奔ス、役畢リ、水野勝成、此ニ治ス、後數氏ヲ經テ、享保九年以後、柳澤氏世襲ノ治所トシ、明治ノ初ニ至リ、廢頽ニ委ス、今ニ壘郭依然タリ、城ノ南半里許、奈良街道城ノ西南、小泉及龍田ニ驛、經ルモニ列スル一村ヲ筒井村ト云フ、城址ヲ存ス、永亨中、筒井氏ノ築ク所ト云フ、明應二年四月、足利義植、河内正覺寺ノ本營ヨリ逃レテ、此ニ居ル、尋テ細川政元ノ捕フル所トナリ、京ニ歸ル、永祿十一年、松永久秀、織田氏ノ援兵ヲ合シテ、此城ヲ圍ム、筒井順慶、抗スル能ハス、終ニ城ヲ致シテ去ル、奈良川、次テ左ニ二小流ヲ納ル、俱ニ東ヨリ西ニ流ル、其間八島、北椿、尾高、樋山村ノ四村内ニ四塞址アリ、皆狹小ナリ、戰國ノ築造ト云フ、以上漆上郡、奈良川、次テ

八島北椿
尾高樋山村
ノ塞址

西南に額田部村に至り大和河川龍田に入ル水路五里添上
添下平群三郡ヲ經過ス

第四 富緒川八添下郡ノ極北傍示村ノ山中北脈ノヨリ
濫觴見小川ト云フ中村高山等ノ數村界ヲ南下シ二

名村ヨリ東南ニ轉流シ細流數派ヲ左右ニ納ビ砂茶屋村
ニ至リ河内街道線谷良以西河ヲ貫流シ城村ノ東部山ノ

西ヲ過キ小泉驛人口二千ノ東ニ來テ縣道線山堀路ト云郡
越スヲ横截シ此ヨリ西南ニ流シ目安村ニ至テ大和河ニ

朝ス長木約五里砂礫滿床平時ハ水至ツテ少シ其幅僅ニ
三間許裳ヲ掲ケテ渉ルヘシ小泉驛ハ右岸ニ瀕ス天文中

小泉驛

小泉四郎筒井氏此ニ居ル元和以降片桐氏世襲ノ封トス

今ハ郡中一名邑タリ此ヨリ以北城村ニ名高山及北田原
等沿岸ノ數村ニ數寨ヲ存ス

第五 平群川ハ平群郡ノ極北俵口村ノ山中北脈ノヨリ
濫觴シ諸溪流ヲ合メ南下シ小瀬驛ノ西ヲ過キ河内街道

ヲ横截シ水路蜿蜒稍東南ニ下テ下垣内村ノ東ヲ過キ龍
田驛人口千六ノ西ニ至テ縣道線山以西堀ヲ横截シ復

南流シテ神南村ニ至リ神南備川ト云ヒ大和河ニ朝ス長
三里水路西國境脈ト略相並行シ東丘陵ヲ隔テ富緒川

ト相隣ス龍田驛奈良ノ西南四里餘ニアリ左岸ニ近シ縣
道線郡山以西堀ニ列スルノ下名邑ナリ驛北ニ一社龍田

龍田神社ノ陣地

アリ寛正元年閏九月畠山政長將ニ若江城河内若ヲ攻ン

下垣内及
儀口ノ兩
岩址

トシ此社前ニ陣シ、國人ヲ招集ス、士衆未全來會セズ、逗撓
月ヲ踰ニ、畠山義就河内ニアリ、政長ノ兵寡ヲ聞キ、急ニ其
將遊佐國助等ヲシテ、若江城ヲ發シ、俄ニ來テ龍田陣、政長
營ヲ襲フ、政長社前ニ邀撃テ之ヲ破リ、其裨將塩田等ヲ殺
ハ、義就ノ兵敗走ス、下垣内儀口ニ村ノ地ニ寨址ヲ存ス、龍
田ノ西北ニアリ、下垣内寨ハ右岸ニ、儀口寨ハ論北脉ハ上
谷ニ位ス、戰國ノ時、國境ノ防禦ニ供マスト云フ、

左朝流

第一 耳川ハ、多武峯郡十市ヨリ濫觴シ、北流シテ八井内町
ノ東ヲ過キ、次テ西北ニ轉シテ、川合村ニ至リ、右ニ恩坂川
ヲ納ル、此源栗原山ノ多武峯ヨリ出テ、西流シ、外山村ヲ過ク

外山村寨址

村内高ニ位シテ寨址代不詳アリ、二流思ノ交會ニ臨

テ一驛アリ、櫻井人口千七百三十五ト云フ、十市郡ノ一名邑トリ、奈

田原本驛

耳無川ヲ納ル、田原本驛人口二千四百五十二ノ東ヲ過キ、吐田村式

郡ニ至テ、大和河ニ朝ス、長六里餘、平時ハ水少シ、深僅ニ一

尺餘、兩岸ニ古帝宮ノ舊址多シ、雅櫻、八鈎、香具、山、池、遠、双、槻等田原本人家

多シ、元平野氏世襲ノ治所ナリ、

今井驛

第二 飛鳥川ハ、畑村高市郡ノ山中ヨリ濫觴シ、鷹鞭山高

山ノ岐脉ノ東北ヨリ繞テ、高取城山論岐脉中ニ揭クノ北ヲ過キ、北

又西北ニ轉シテ、岡飛鳥四分等ノ諸村ヲ經テ、今井驛人口

三百三ニ至リ、縣道線竹内街ヲ横截シ、十市式下二郡ノ西

北隅ヲ貫流シ保田村郡下ニ至リ大和河ニ朝ス長五里餘
幅僅ニ八間小舟ヲ通ス可シ岡村以下古蹟亦兩岸ニ遍シ
帝宮ノ古址最多ニ居ル

第三 重坂川ハ源ヲ重坂村葛城郡ノ山中ヨリ發シ戸毛

川ト云フ南流戸毛驛ノ西ヲ過キ兵庫村ニ至テ右ニ壺坂

川ヲ納レ次テ越智柏原雲梯等ノ數村ヲ過キ曾我村ニ來

テ檜前川ト相會ス柏原村ハ左岸ニアリ兵庫越智二村ト

東西水ヲ夾ム神武天皇即位ノ處ト云フ曾我村以上水源ニ

至ル沿河ノ數村奉騰明寺ノ三村ニ諸寨址アリ就中最南上

谷ニ位スルヲ奉騰寨トス山谷中ニアリ重坂村ヨリ吉野

河ノ流域ニ通スル山徑ニ臨ム貝吹山城址ハ重坂川ノ右

柏原村神
武帝即位
ノ古址

奉騰岩址

貝吹山城址

方ニアリ妙法檜前川ノ間ニ位ス建武中越智某之ニ

據リ後醍醐帝南狩以降南朝四世ノ藩屏タリ永享年中十

市布施等ノ諸將ト相謀リ兵ヲ起シテ屬北兵ノ戰フ南風

競ハス利寡シ終ニ力支ヘスシテ畠山氏ニ降ルト云フ檜

前川ノ源高取山ノ西北谷ヨリ發シ土佐町人口三ノ東北

ヲ過キ真弓村ニ真弓川ト云ヒ久米村ニ久米川ト稱シ西

北ニ流レテ畠火山高市郡ノ西南ヲ過キ曾我村ニ至テ重坂

川ニ朝ス沿岸ノ地帝宮及帝陵ノ古趾多シ畠火山右岸ニ

アリ平地中ニ孤立ス神武天皇山陵ノ地タリ重坂川次テ

竹内街道線ヲ横截シ廣瀨郡ニ入り北流大約二里許流末

西北ニ屈折シ長瀬村ニ至テ大和河ニ朝ス長六里餘

畠火山

御所町

持田豊田
森脇佐味
寺壘址

南郷及廣
瀬ノ岩址

平尾城址

著尾河合
ノ岩址

良福寺村
壘址

第四 葛城川ノ、葛城山山論西脉ノ東南谷鴨神ヨリ出テ
 東流御所町入口三千ニ至テ一水ト相會ス御所町此交會
 点ニ臨ミ、竹内街道線ニ列シテ、人家多シ、名邑ナリ、警察署
 電信分局アリ、又郡役所ヲ置ク、高市葛上、葛下、忍海、四郡ヲ管ス二流ノ間
 東持田豊田森脇三村ニ同名ノ三寨址ヲ存ス、佐味壘址ハ
 獨、其南方東佐味村ノ山中ニアリ、吉野河灌域ニ通スル山徑ニ
 臨ム、次テ稍東北シテ、忍海郡ヲ過キ、葛下郡ニ入テ笛堂村
 ヲ過ク、又寨址アリ、左岸ニアリ、次テ竹内街道線ヲ横截シ
 テ廣瀬郡ニ入り、南郷及廣瀬二村ヲ過ク、二村俱ニ二寨址
 アリ、次テ川合村ニ至テ、左ニ富田川ヲ納ル、富田川上流ヲ
 新庄川ト称ス、其源葛城山ノ東北谷ヨリ發シ、東北ニ流レ

テ、横木路驛中ヲ貫キ、廣瀬郡ニ入テ平尾村ノ東ヲ過ク、平
 尾村内同名ノ城址ヲ存ス、戰國ノ時、細川某ノ據ル所ト云
 フ、次ニ著尾驛ノ西ヲ過キ、河合村ニ至リ、葛城川ニ入ル、此
 間富田川ノ稱アリ、著尾河合俱ニ同名ノ二寨址ヲ存ス、皆
 平地ニ在テ河水ヲ纏ス、葛城川富田川ト合シテ、水量稍増
 加シ、北流大和河ニ朝ス、長殆ト七里、左朝流中水路最長ク、
 葛上カウキウ忍海ニミ高市タカチ葛下カウケ廣瀬ヒロヒ五郡ヲ經過ス、
 第五 葛下川、又富川ト云フ、源ヲ竹内越西脉第五山徑ノ山澗ニ
 發シ、東北ニ下テ、竹内驛ヲ過キ、縣道線竹内街道ヲ斜截シ、次テ
 南折シテ良福寺村ヲ過ク、村内同名ノ壘址アリ、其西方又
 二壘址ヲ存ス、俱ニ二上ニ山ニ西脉内ノ東脚内ニ位ス、要害ナ

上牧下牧ノ壘址

片岡城址

リ、次テ五位堂村ニ至リ、右ニ一水ヲ納レ、上牧下牧二村ノ西ヲ過ク、二村皆壘址アリ、此邊總テ片岡庄ト云フ、地勢甚險ナラス、今泉村左岸ニ近シ、下牧村ノ西ニアリ、片岡城ノ舊址ヲ存ス、西方關屋越西脈第一山徑ニ通スル山徑ニ臨ム、次テ小黑村ヲ過キテ、水路俄ニ西北ニ彎流シ、王寺村ニ至テ大和河ニ朝ス、長僅ニ二里半ノ

吉野河ノ灌域

地勢總括

此灌域ハ本國ノ中央ヲ東西ニ亘リ、内部ノ地、平原ニ乏シク、山脉四周、東方最高ク、河流地勢ヲ追テ概西ニ赴キ、都邑岸ニ沿フテ人烟稍繁ク、道路東北東南ノ二方ハ最險ナリ、

吉野河及其朝流

吉野河ノ水路

本河ハ、源ヲ大臺原山東脈中ノ大山ノ西北谷ニ發シ、屈折シテ山隘間ヲ激流シ、入ハ之波村ニ至ル、此ヨリ東北ニ通スル山徑アリ、神合神合越東脈第一山徑ニ達ス可シ、次テ左ニ祖母谷川ヲ納ル、此上谷ニ沿テ山徑アリ、南北山川ノ灌域ニ達ス可シ、次テ西北ニ流レテ、和田村ヲ過キ、左右ニ奔流數派ヲ納レ、大瀧村ニ至ル、此ヨリ以上水源ニ至ル、山嶺鬱結、凹谷深奥、雲霧毎ニ深シテ、氣候不良、人烟蕭疎ナリ、大瀧村ニ行宮址ヲ存ス、南都七代帝王行幸ノ所ト云フ、此邊奔流、最ニ岩石ニ激シ、轟然トシテ聲喧シ、一ノ難所タリ、音無川ヲ左ニ納

上市驛

此、其源蜻蛉瀧ヨリ出ツ、次テ俄ニ屈曲シテ國栖村ニ至リ、
 右ニ小川ヲ納レ、方向ヲ西ニ轉シ、菜摘立野等數村ヲ過キ、
 左ニ菜摘右ニ大野龍門等ノ諸水ヲ納レ、吉野山ノ北ヲ流
 レ、上市驛人口一千三百四十三ニ至ル、此驛右岸ニアリ、伊勢街道線
 西ハ五條驛東ニ列ス、此ヨリ南スレハ、吉野町吉野山中ニ
 北ハ高見越ニ列ス、此ヨリ南スレハ、吉野町吉野山中ニ
 達スヘシ、次テ下淵驛ニ至ル、下市驛人口二千四百十六左岸ニアリ、
 二驛相對シテ河ヲ夾ム、秋野川左朝來テ上市ノ西ニ會ス、
 次テ宇智郡ニ入り、水路蜿蜒、漸、西南ニ赴キ、島野小島二村
 界ニ流ル、二村俱ニ寨址アリ、高ニ據リ河ニ臨ム、次テ五條
 驛人口三千八百八十ヲ過ク、此驛右岸ニ浴ヒ、市街須惠新町三村ニ
 跨ル伊勢街道ニ列シ、西國境ニ接適ス、治安裁判所警察署

島野小島
二寨址
五條驛

二見城址

等アリ、又須惠村ニ郡役所智吉野ニヲ置ク、沿岸中ノ一
 都邑ナリ、徳川氏ノ時代官ヲ置ク、其西南ニ二見城ノ址ニ
 アリアリ、右岸ニ位シ、二山徑大澤越及待乳越ノ岐分點ニ臨ミ、水
 澤川右朝流、其東ヲ流ル、元龜年間、松倉重政之ニ據ル、野原村
 河ヲ隔テ、五條ノ南ニアリ、亦當時ノ壘址ヲ存ス、次テ左
 ニ丹生川ヲ納レ、上野表野等ノ數村界ヲ過キ、國境脈ヲ横
 截シテ、紀伊ニ入ル、本國ヲ流ル、十六里三十一町、幅最濶
 キ所凡三町下流紀伊誌、河底石礫多ク、平時ハ深一間ニ過
 キス、上市以下奔流頓ニ勢ヲ殺キ、舟楫ヲ通ス可シ、地勢山
 脈込ク河ノ左右ニ連亘シ、傾斜緩ナラス、朝流概奔湍ヲナ
 シ、冷岸ノ地甚開濶セス

右朝流

第一 小川ハ、源ヲ高見山東脈中ノ高山ノ西北、才杉嶽宇陀ヨリ發シ、小川ノ庄、瀧村ニ段落シテ、瀑布トナリ、王瀧ト稱シ、高見山ノ西ヲ過ク、此邊兩崖壁立、水清シ、溪鱖魚多シ、次テ杉谷村ヲ過ク、山徑此ヨリ東シテ、高見越東脈第ニ通ス、次テ五山徑西南ニ下テ、小村ニ至リ、一水ヲ納ル、城址アリ、渌漚ニ臨ム、次テ彎流シテ、國栖村ニ至テ、吉野河ニ朝ス、

第二 大野川ハ、龍門山ノ西、栗野山中中央水ヨリ濫觴南下シ、牧村ニ至ル、同名ノ城址アリ、東ハ高見越、北ハ宇陀郡ニ通スル、二山徑ニ臨ム、永祿三年十一月、松永久秀ノ陷ル所トナル、次テ色生村ニ至リ、一水ト會シ、水路西南ニ蜿蜒

牧村城址

小村城址

山口城址

シテ、津風呂村ヲ過キ、又一水ヲ右ニ納ル、山口村其流末ニ瀕スル、同名ノ城址アリ、龍門山ノ支城ニシテ、今尚新城ト呼フ、以上ニ城俱ニ筒井山ヲ北ニシ、水ヲ南ニシ、山徑ニ臨ム、位置要害ナリ、次テ山隘ヲ屈曲シ、河原屋村ニ至テ、吉野河ニ朝ス、

第三 龍門川ハ、龍門山ノ南谷ヨリ濫觴シ、俄ニ段落シテ

龍門瀑

龍門城址

瀑布トナル、龍門瀑即是ナリ、高見山丈幅四間、其北、城址ヲ存ス、右龍門城ト稱ス、西中央水界線次テ西南ニ下テ、香東村ヲ過キ、佐々羅村ニ至テ、右ニ一水ヲ納ル、西谷村其右岸ニアリ、之ヲ龍門ノ西谷ト云フ、樵木多シ、流ニ浴フ、凡二十丁許、翁鬱トシテ晝暗シ、次テ立野村ニ至リ、又一水ヲ右ニ納ル、

其上谷ヲ瀧畑ト云フ、塞址アリ、山論ニ上市驛ノ北千俣村ヲ過キ十市郡ニ通スル山徑ニ臨ム、次テ南流シテ、吉野河ニ入ル

居傳寨址

第四 宇智川ハ、神福山ノ東ニ發シ、東流シテ三サニ在村ニ至テ、左ニ一水ヲ納ル、居傳村ニ水間ニ在リ、寨址ヲ存ス、千早越ノ山徑ニ臨ム、次テ伊勢街道線ヲ横截シ、南流小島村ノ西ヲ過テ吉野河ニ朝ス、

第五 水澤川舊名ヲ見馴川ト云フ、源ヲ神福山西脈中ノ一山ノ東南谷ヨリ發シ、東南ニ下テ上村、水澤村等ヲ經過シ、新町

驛肉ニ至リ吉野川ニ朝ス、右朝流中ノ最小流ナリ、千山徑下リ、略兩岸ニ浴ス、西北ハ千早越及大澤越ニ達シ、東南ハ

上村城址

五條驛ニ會ス、上村ハ上谷ニアリ、同名ノ城址ヲ存ス、

左朝流

左朝流甚多ト概短小ノ細流ニ過キス、就中其著名ニシテ稍長キモノ又左ニ摘記ス

吉野町

第一 秋野川又下市川ト云ス、源ヲ吉野山ノ西南谷ニ發シ、北流西谷村ヲ過キ、右ニ一水ヲ納ル、其上谷ニ名邑アリ、吉野人口千四百十八ト云ス、市間東西ニ連續シ、西ヲ吉野町ト云ヒ、東ヲ子守町ト云ス、藏王堂如輪寺、吉水院等ノ諸刹アリ、山徑數條、其一北吉野河ノ左岸ニ通ス、屈曲多シ、七ナ曲ノ稱アリ、其二南丹生川ノ上谷ニ、其三東ヲ繞テ、菜摘村吉野河ノ左岸ニ通ス、此山路最險隘ナリ、吉野城址ノ背後ニ出テ、護良親

善城址

龍王城址

王ノ城守スル賊ノ大衆第一道ヨリ來リ攻ム地險ニ城固
 シ、乃、輕兵ヲ分テ第三道ヲ迂回シ、間關シテ城後ニ出、城
 即、陷ル、秋野川次テ西流シテ、立石_四村ヲ過キ、善城_五村
 ヨリ西北ニ轉シ、下市驛_前ノ西ヲ流シ、吉野河ニ朝入、長
 三里幅十間、平時ハ水頗淺シ、深一尺善城村ニ壘址アリ、東
 南四谷ニ浴ス、二山徑_{皆丹生川}ノ岐分點ニ臨ム、龍王城
 址ハ下市村ニアリ、水ヲ隔テ、下市驛ト東西相對ス、
 第二丹生川ハ、其源吉野山ノ南方及赤龍山ヨリ濫觴ス
 ル、二溪水ヨリ成リ、寺戸村ニ至テ、相合シテ、初テ丹生川ノ
 稱アリ、次テ御吉野長瀬等、數村ヲ經テ、丹生社前ヲ繞リ、長谷
 村ニ至ル、水村及寺戸ヨリ、南北ニ通ル、二山徑アリ、北ハ

天川行宮之地

秋野川ノ上谷ニ、南ハ天川_{第三}ノ上谷ニ出リ、綫路屈曲シ
 テ險難多シ、御吉野村右岸ニアリ、後村上帝行宮ノ址ヲ存
 ス、此地ニ大井川、嵐山等ノ稱アリ、次テ黒木村ヲ過ク、左岸
 ニ行宮址ヲ存ス、俗之ヲ今ニ黒木御所ト稱ス、正平四年ノ
 春、四條畷ノ役、楠正行、戰死シ、高師直歩騎三万餘ニ將トシ、
 勝ニ乘シテ長驅シ、將ニ吉野ヲ攻ント欲ス、帝_{後村}從者ト
 竊ニ吉野ヲ出テ、蹕ヲ此地ニ駐メ、假ニ皇居ヲ營ム、築設廉
 造、僅ニ風雨ヲ蔽フ、黒木御所ノ稱アリ、史ニ所謂賀名生ノ
 地、即、此處ヲ云フ、延文五年四月、兵火ノ為、燒亡シ、今ハ村名
 トナル、此地ハ峻山ノ下ニ位シ、要害タリ、然レ、區域狹小、
 進退ニ便ナラス、丹生川次テ城戸村ヲ過キ、左ニ一水ヲ納

レ、水路屈折シテ、西北ニ赴キ、黒瀬村ヲ過久衣笠城址アリ、山ニ葺ハレ、河ニ臨ム、次テ和田村等ノ數村ヲ經テ、宇智郡ニ入り、靈安寺村ニ至テ、吉野河ニ朝ス、長大約九里餘、瀾所五十間、

熊野河ノ灌域

地勢總括

此地ハ峻嶺巨峯、連互鬱結シ、山勢稍東北ニ卑久、絶テ平原ヲ見ス、雲霧毎ニ深ク、山路皆險、地質薄瘠、概不毛ニ屬シ、物産ニ富マス、人烟稀少ナリ、

熊野河及其朝流

熊野河ノ水路

熊野河、本國ニ在テハ十津川ト稱ス、熊野河ノ上谷、即上灌域ヲナス、其源吉野郡山上嶽南中央水系線ノ北部ニアリニ發シ、屈曲シテ西南ニ流レ、洞川、河合等ノ數村ヲ經過シ、諸溪流ヲ納レ、坂本村ニ至テ右ニ一水ヲ納レ、漸南流シテ、小代辻堂等ノ數村ヲ過キ、宇井村ニ至テ、左ニ舟川ヲ納ル、此ヨリ以上ヲ天川ト云ヒ、以下ヲ十津川ト云フ、通路皆河岸ニ沿テ狭ク又高低アリ、坂本河合洞川三村ヨリ北丹生川第ニ灌域ニ通スル山徑三條アリ、第ニ灌域丹生川ノ皆險ナリ、坂本ヨリスル最近ニ、次テ長殿村ニ至リ、右ニ大俣川ヲ納レ、次テ小川寒野ノ二水ヲ左右ニ納レ、俄ニ折レテ東南ニ赴キ、風屋村ニテ左ニ瀧川ヲ納レ、水路此ヨリ最ニ蜿蜒シ、武藏村ニ至

湯本温泉

ル、左岸ニ瀨スル、一聚落ヲ湯本ト云フ、湯泉アリ人烟稍繁シ、宇井村以下、此邊ヲ総テ十津川郷ト云フ、地勢鬱塞、田園開ケス、僅ニ稻米ヲ見ル、古來民皆武ヲ好ム、十津川郷士ノ稱アリ、多クハ南朝諸士ノ苗裔ト云フ、護良親王ノ般若寺添上郡奈ニ匿ル、ヤ、賊ノ搜跡甚急ナリ、乃チ逃レテ此ニ潜ム、賊其險阻ヲ憚リ、敢テ來リ侵サス、此地糧食ニ乏シ、又反者アリ、親王乃チ吉野吉野山ニ據ル、諸士追從王事ニ斃ル、モノ多シ、熊野河次テ左ニ芦瀨川ヲ納レ、屈曲シテ西流シ、右ニ西川ヲ納レ、無終山ノ東麓ヲ過キ、七色村ニ至テ、國境脈ヲ横截シ、紀伊ニ入ル、下流紀伊誌本土ヲ流ル、二十二里餘、幅瀾所凡一丁、水路盤曲、河底凸凹、平時ハ水少シ、然レモ

奔流岩石ニ激シテ、毎ニ轟然タリ、

左朝流

- 第一 舟川ハ、朝鮮嶽南中央水界ノ東南谷ヨリ濫觴シ、其方向一支脈ヲ隔テ、天川熊野河ト略相並行シ、篠原中峯ニ村ヲ過キ、宇井村ニ至テ、熊野河ニ朝ス、篠原以上地勢最ニ險難多シ、
- 第二 小川ハ、源ヲ釋迦嶽朝鮮嶽ノ北ヨリ發シ、西南ニ下テ、小川村ニ至リ、熊野河ニ朝ス、
- 第三 瀧川ノ源、亦釋迦嶽ヨリ出ツ、屈曲シテ西南ニ、風屋村ニ至テ熊野河ニ朝ス、
- 第四 芦瀨川ハ、地藏嶽釋迦嶽ノ南ニアリヨリ濫觴シ、南ニ下テ大

野村ヲ過キ西南ニ轉シテ小原村ニ至リ、熊野河ニ朝ス、以上四流、皆短少ノ奔湍ニ過キス、而ノ其上谷ハ南中央水界線ノ西坡ニアリ、巨峯峻嶺、重疊鬱結シテ、山内遼遠、殆ト人跡ヲ絶ツ、

右朝流

第一 大俣川ハ、源ヲ弓手原及檜木俣山中ノ西南脉ニ發シ、西流屈曲シテ、今西大俣等ノ數村ヲ過キ、中津川村ニ至テ、左ニ池津川ヲ納レ、長殿村ニ至テ、熊野河ニ朝ス、水嶺ニ水間ニ竝ツ、其西國境ニ水峯越ノ山徑アリ、今西村ヨリ、通過スヘシ、山論西南脉山徑ヲ參照スベシ
第二 寒野川ハ、源ヲ瀨原山中ニ發シ、東南ニ下テ、杉瀨村

ニ至リ、畝谷川ト合シ、次テ東北ニ轉シテ、芋瀨村ニ至リ、芋瀨川ヲ納レ、三浦内野ニ村ヲ經テ、川津村ニ至リ、熊野河ニ朝ス、三浦村ヨリ西北シテ、今西村ノ大俣川ニ通スル一逕アリ、水峯越ニ通スル路線タリ、險隘ナリ、
第三 西川ハ、西川村ノ西南脉東坡ヨリ濫觴シ、西流シテ小坪瀨、永井等ノ數村ヲ過キ、重里村ニ至テ、右ニ出谷川ヲ納レ、東畑村ニ至テ、熊野河ニ朝ス、永井村西川ノ左岸ノ山徑ノ岐分點ニアリ、一ハ西北シテ、水峯越前クニ、一ハ西南シテ大井谷上湯川ノ二村、出谷川上谷及川俣村ヲ過キ、引牛越ニ、一ハ東南ヨリ南ニ繞テ、八水尾越ニ通ス、以上西南脉山徑ノ條ヲ參照スヘシ
北山川ノ灌域

地勢總括

此地方ハ、第三灌域ト略、其地勢土質ヲ同フシ、溪壑深奥、人烟頗稀少ナリ、

北山川及其朝流

北山川ノ水路

北山川、一名池原川ト云フ、熊野河ノ左朝流ナリ、本土ニ在テハ、別ニ灌域ヲナシ、本河熊野ト東西相隣ス、北山ノ東川、北山ノ西川ノ二水ヨリ成ル、其東川ハ、源ヲ大臺原山ヨリ發シ、西南ニ下テ、大谷大塚大瀬等ノ數村ヲ過ク、大瀬ヨリ東不動根越ニ通スル山徑山論東脉過路ノアリ、次テ池原村ニ至テ、西川ト相會ス、西川ハ國見山ヨリ濫觴シ、亦西南

ニ下テ、小瀬枋本ニ村ヲ過キ、右ニ西ノ川ヲ納レ、南流シテ河合白河數村ヲ經過シ、東川ト相會シテ、始テ北山川池原川ノ稱アリ、枋本村西川ノ上谷ヨリ、北吉野川ノ上谷祖母谷村ニ通スル山徑アリ、熊路ニ過キス、北山川次テ東南ニ屈折シ、水路蜿蜒、河口村ニ至テ、左ニ佐田川ヲ納レ、河口越東脉最南其東ニ在リ、河口村ヨリ達スヘシ、北山川次テ紀伊ニ入ル、屈曲數回、國境ヲ出入シ、安曾及竹筒ニ村ヲ過キ、復紀伊ニ入ル、本土ヲ流ル、十一里、潤所一丁半、河底凸凹、水淺ヲシテ、流レ激ス、流末僅ニ舟筏ヲ通ス可シ、且、兩岸岩高ク、道險ニ、山岳鬱塞、雲霧濛翳、僅ニ人家ヲ見ル、實ニ本洲中、一木嶮難ノ凹谷ナリ、

右朝流

第一 佐田川ハ、源ヲ池峯ノ山中ニ發シ、寺垣内村ヲ經テ、浦向村ニ至リ、東北ニ轉シテ、佐田村ヲ過キ、河口村ニ至テ、北山川ニ朝ス、浦向村ハ、三道ノ岐分點ニアリ、北ハ河岸ニ沿テ、初木村西川ノ上谷ヲ經テ、祖母谷村前ニ掲ク西南ハ仙嶽ヲ踰ヘ、王置山ヲ歷テ、九重峠ニ、東南ハ佐田村ヲ過キ、大祝詞越以上山論南脉山徑ニ通ス、ノ條ヲ参照スヘシニ通ス、

第二 安曾川ハ、仙岳ヨリ濫觴シ、水路屈曲、國境ヲ縫ヒ、安曾山ノ衆水ト合シテ、安曾川ト云ヒ、安曾村ニ至テ、北山川ニ朝ス、二水ヲ右ニ納ル、葛溪川玉置川ト云フ、

水津川左朝流ノ灌域

地勢總括

此灌域ハ、東北偏隅ヲ占メ、山岳四周、区内狹シト虽ヒ、支脉短矮ニシテ、稍平地ニ富ミ、細流夥多、地味甚薄瘠ナラス、村落及城塞多シ、全土ノ大勢、西南ニ高シテ、稍東北ニ偏ス、故ニ諸水地勢ヲ追テ、皆東北ノ隣國伊ニ入ル、

水津川左朝流ノ水路

水津川上谷ノ左朝流中、本域灌域第五ニ在テ最長キ者ヲ名張川トス、其上流ハ、宇陀郡ヲ流ル、故ニ本土ニ宇陀川ト稱ス、今第一ニ其水路及支派ヲ掲ケ、次ヲ逐テ其北各流ニ及ス、

名張川ノ水路及其朝流

第一 名張川ハ、木津川山城誌ノ左朝流ナリ、本域ニ宇陀

川ト稱ス水源ニアリ、一ヲ東川ト云ヒ、一ヲ西川ト云フ長
 短略相均ク、其方向互ニ相反ス、東川ノ源、本域ノ南芳野山
 中高見山ノ西派ヨリ發シ、西北ニ彎流シ、宇賀志三宮寺等ノ數村
 ヲ過キ、下井足村ニ至テ、西川ト會ス、芳野村上谷ニアリ、壘
 址ヲ存ス、位置高處ニアリ、東方小川ノ上谷吉野河ノニ通
 スル山徑ニ臨ム、三宮寺下井足ニ村亦壘址アリ、皆山ニ據
 リ水ニ臨ム、郭域俱ニ狭小ナリ、西川ハ龍門山ノ北宮奥村
 ノ山中ヨリ出テ、東北ニ彎流シテ、大藏村松山町人口千九
 ヲ過キテ、東川ト相合シ、始テ宇陀川ノ稱アリ、大藏村東西
 二灌域西ハ大和河灌域ニ通スル、山徑ノ中央ニアリ、其東
 路ハ上守道村ヲ經テ、大熊村郡鵜家川ノ上谷ニ西路ハ宮

松山町

松山城址

秋山城址

白叻村及
内牧村寨
址

奥村ヲ過テ、新開村第一灌域中、十市ニ通ス、松山町ハ右岸
 ニアリ、人家多シ、名邑ナリ、其東ニ同名ノ城址ヲ存ス、元和
 中織田尚長ノ治所タリ、元祿中、其裔信武柏原丹ニ移ルニ
 迄テ城廢ス、秋山城址ハ、其北ニアリ、正平中、秋山某之ニ據
 リ、北畠氏伊ニ屬ス、天文永祿ノ際、同族直國亦此ニ居ル、後
 福島掃部之ニ代ルト云フ、宇陀川次テ檜牧村ニ至リ、右ニ
 檜牧川ヲ納ル、此源東南石割嶺ヨリ出テ、西北ニ流レテ、八
 瀧高井自明等ノ數村ヲ經過ス、自明村寨址ヲ存ス、又上谷
 一村ヲ内牧ト云フ、同名ノ寨址アリ、二寨俱ニ、東方岩坂
 越東脈第一山徑ニ通スル、縣道線ニ臨ム、宇陀川次テ東北ニ流レ
 テ、山邊郡ニ入り、右ニ寶生川ヲ納ル、水路屈曲、山隘ヲ經過

笠間岩址

シ、上街道奈良以東東脈長瀬越ニ至ル左岸ニ沿テ高低多シ次テ國境ヲ過キ伊賀ニ入り西北ニ彎曲シテ鷯山北脈ノノ南ヲ經テ復本域ニ入り左ニ小原川ヲ納ル其源吐山山邊郡ノ山中ヨリ中ヨリ濫觴シテ東北ニ流レ笠間村ニ至テ縣道線奈良以東水引至ルニテ横截シ名張川ニ入ル水源ニ接シテ寨址アリ大和河上谷相川トノ交通路ニ臨ム名張川次テ獺瀨村ニ至リ左ニ一水ヲ納ル畑川ト云フ其水切幡村山邊郡ノ山中ヨリ出テ水路略小原川ト并行シ下津村ニ至テ縣道線前シトヲ横截シ次テ名張川ニ入ル春日村ハ下津ノ東ニアリ城址ヲ存ス東山徑水引ニ臨ム名張川次テ月瀬村漆上郡ヲ過キ北流シテ國境ヲ出テ木津川ニ朝ス國境以テ北側ヲ城誌ニ掲ク長十

春日村城址

二里十八丁幅濶所一丁餘流末高尾川ノ稱アリ水路三國大和及伊ヲ過キ巨峯峻嶺ノ間ヲ迂リ險難ノ凹谷ヲナス其右ニ屬スル朝流ヲ椿井曾爾管野ノ三水トス其上谷皆本域ノ東南隅宇陀郡ニアリ流末伊賀ニ入テ水河名張ニ朝ス掛川村椿井川ノ上谷ニアリ壘址ヲ存ス土屋原管野カサマ神末ノ三村其東ニ相隣シ俱ニ山徑ノ岐分點北ハ石垣越及請取南ハ白髮嶺ニアリ

第二 深川亦木津川上谷ノ左朝流ナリ源ヲ並松池山邊中ヨリ發シ白石甲岡針菰等ノ數村ヲ經過シ深川村ニ至テ漆上郡ニ入り南流シテ松尾上下丹生數村ヲ過キ國境ヲ横斷シ深川ト稱シ笠置山ノ東ヲ過キ木津川山城相ニ

白石丹生
及松尾村
ノ寨址

柳生氏治
所

朝ス、白石及上下丹生、松尾四村、皆寨址アリ、北境ニ通スル
山徑ニ臨ム

第三 水間川、亦添上郡ノ東南境ヨリ出テ、水路略、深川ト
相并行シテ、而シテ短シ、其西ニ流アリ、間隔略、相齊シク、其上
谷ハ奈良以東、東北境ニ通スル、縣道線ヲ横截シ、俱ニ北境
ニ至テ相會シ、小川ト稱シ、笠置山ノ西ヲ流レテ、木津川ニ
朝ス、柳生村、水間川ノ左岸ニアリ、一聚落ヲナス、元柳生氏
ノ治所ト云フ、寨址アリ、水ニ臨ム、

交通路
縣道

伊勢街道 紀伊國界ヨリ、伊勢國界
吉野郡杉谷村ニ至ル路線

紀伊國界 一里二丁二
間一尺 杉谷合十四里十丁五十五間三尺 下淵 十一里二
間一尺

奈良街道 奈良ヨリ、河内國高安
郡山 二十里八丁三 小泉 一里十三丁四
龍田 二里十三間 神立合 六里十九丁五十五間二尺

大和街道 奈良ヨリ、河内國河内
郡松原 驛ニ至ル路線
奈良 三里一丁十 小瀬 二里十四丁四 松原合 五里十四丁
二十九間二尺

竹内街道 吉野郡下淵驛ヨリ和
下淵 一里二十八丁 戸毛 一里七丁 御所 八里十九丁
堀合 十一里二十丁二十一間五尺

高田 五丁十 長尾

竹内街道支道 郡葛下郡高田驛ヨリ同
郡長尾村ニ至ル分線

奈良 三十五丁二

奈良坂街道 郡奈良ヨリ山城國相樂
郡坂村ニ至ル路線

奈良坂 十六丁四

加茂街道 郡上郡奈良坂村ヨリ山城國
相樂郡梅谷村ニ至ル路線

奈良 三三三 丹波市 二里五丁
間六 萩野 二里十間 三本松 二十九丁
二十三丁三十七間三尺 國境合十一里

中街道 奈良ヨリ宇智郡三
村ニ至ル分線

奈良 六三三 階堂 二里十二間
二丁十 戸毛 十二間二尺二寸
新街道 郡葛下郡王寺村ヨリ式上

王寺 一里十 下田 一里十 高田 一里十 八木 一里十
櫻井 六丁五 三輪合五里三十一丁五十六間三尺

八木 一里三 土佐町 二里十 天川 二里十 高瀨 三里
尼生 二里三 高瀨 三里 竹筒 三里 藤生合二十六里三
風屋 十三里九丁二

祖母谷越 年吉野郡上市驛ヨリ紀伊國
年妻郡桃崎村ニ至ル路線

上市二里 西河四里 和田四里 中根辻堂八里
九丁 瀨一里 白河十二里 池原五里 川口十一里 桃崎小
 合二十一里七丁

沿革史略

神武帝日向ヨリ興リ、本國ニ入り、長髓彦八十梟帥等ヲ誅
 シ、檀原葛上郡莫鼎ノ後、列聖地ヲ相テ都ヲ遷ス、凡十數次
 和銅中平城今奈良ニ都ス、其間凡八十餘年、用明帝ノ時、鹿戸
 皇子蘇我馬子佛法ヲ信シ、物部守屋ト隙アリ、兵ヲ遣リ攻
 テ守屋ヲ殺ス、皇極帝ノ時、蘇我入鹿威福ヲ擅ニス、皇子中
 大兄藤原鎌足ト謀リ、之ヲ亡ホス、皇子後位ニ即久之ヲ天
 智帝トス、帝崩シ弘文帝立ツ、叔父大海人吉野ヨリ興リ、之

二代ル、之ヲ天武帝トス、桓武帝延暦中、山城ニ遷都ス、國府
 ヲ高市郡ニ置ク、嵯峨帝ノ時、藤原仲成ノ亂アリ、治承ノ亂
 ニ、興福東大兩寺源賴政ヲ援ク、平重衡攻テ之ヲ燒ク、後醍
 醐帝ノ時、護良親王、十津川吉野郡ニ潜匿シ、城ヲ吉野ニ築キ、
 兵ヲ集ム、己ニノ城陷ル、親王高野紀伊郡ニ走ル、後延元ノ
 初、足利尊氏反シ、帝吉野ニ幸ス、是ヲ南朝トス、高師直等楠
 正行ヲ破リ吉野ヲ犯ス、後村上帝賀名生ニ幸ス、四十餘年
 ヲ經テ、元中ノ末、南北講和、將軍足利義滿、畠山義深ヲ以テ
 守護ニ任ス、甲傳シテ持國ニ至ル、其二子、政長、義就嫡ヲ爭
 フニ及テ、筒井越智十市、福住諸黨國內ニ分據シ、畠山氏ノ
 號令行ハレス、永祿ノ初、筒井順昭自ラ國ノ守護ト稱シ、三

好氏ニ屬ス、筒井氏、初筒井城ニ居既ニメ松永久秀、三好長
 綱ト戰フ、長縁敗ル、久秀勝ニ乗シテ、北部添上、添下、諸郡諸城ヲ
 徇ヘ、多門城ニ居リ、後ニ信貴城ニ移ル、筒井順昭ト地ヲ爭テ、連戦止
 マス、久秀屢勝ツ、順昭尚半國ヲ有ス、元龜三年、二氏皆織田
 信長ニ降ル、天正五年、信長久秀ヲ誅シ、順昭ノ子順慶ヲシ
 テ舊領ニ復セシム、十三年、豊臣秀吉、順慶ノ子定次ヲ伊賀
 ニ徙シ、其弟秀長ヲ本國及和泉紀伊ニ封シ、郡山ニ治ス、嗣
 秀俊天シテ國除シ、増田長威ヲ郡山ニ封ス、二十關原役後、
 其封ヲ失フ、徳川氏ニ至リ、封ヲ受ル者、郡山初水野勝成、高
 取植村小泉貞隆、櫛羅直圓、芝村織田益柳本尚長、柳生宗矩、凡
 テ七藩又奈良奉行ヲ置ク、其季年文久三年七月客士相集リテ天

誅黨ト號シ、尊攘ノ説ヲ張リ、幕府ノ姑息ヲ憤リ、五條宇智
 ノ代官ヲ襲殺シ、進ミ高取城ヲ攻ム、抜ク能ハス、幾ハクモ
 無ソ近國ノ兵來リ撃テ之ヲ平ク、王政革新、奈良府ヲ置キ、
 田原今野本藩ヲ建シ、平野長裕既ニ之皆廢シテ縣トシ、更ニ奈良縣
 ニ併セ、縣廳ヲ奈良ニ置キ、全國ヲ管治ス、尋テ縣ヲ廢シテ
 堺縣和ニ合シ、後又大坂府ノ統轄ニ歸ス、軍管ハ六管鎮臺
 設置以後、本國一圓、第四軍管大坂鎮、臺第八師管ノ管内ニ
 隸ス、十七年一月、軍管疆域ノ改正アリ、更ニ同臺第七師管
 ノ管域内ニ入ル

兵要地誌 大日本之部卷之五 目錄

河内國誌

總論

山論

山脈及諸山

東北脈

東南脈

西南脈

水論

大和河ノ灌域

大和河及其朝流

一丁

二丁

二丁

六丁

九丁

十一丁

大和河ノ水路

十一丁

左朝流

十五丁

寢屋川及其朝流

寢屋川ノ水路

二十丁

左朝流

二十丁

澱河及其朝流

澱河ノ水路

二十一丁

左朝流

二十二丁

交通路

二十三丁

沿革史略

二十四丁

兵要地誌 大日本之部卷之五

陸軍助教田付直男 纂述

河内國誌

總論

河内國ハ畿内ノ中央ニアリ、北緯三十四度二十一分餘ヨリ、五十二分、西經四度三分ヨリ、十九分ノ間ニ亘リ、其疆界北頭角ヲ山城攝津ノ間ニ夾ミ、南ハ紀伊、東ハ大和、西ハ和泉、攝津ニ正界ス、廣袤東西凡四里、南北凡十三里、國中十數郡アリ、交野、茨田二郡ハ北方ニアリ、其東邊ハ山城及大和ニ接シ、西ハ淀河ヲ以テ攝津ニ界ス、交野郡稍廣シ、二郡ノ南ニ、讚良河内及若江ノ三郡相續キ、大小甚懸隔セス、澁川

郡ハ若江ノ西南ニ隣シテ、西南斜ニ攝津ニ接壤シ、志紀郡ハ、中央ヲ占メ最小、高安、大縣、安宿ノ三郡ハ、其東ニ環列シテ、東方皆大和ニ隣リ、丹北、丹南二郡ハ、志紀郡ノ西ニアツテ、八上郡又其西ニ位シ、半ハ和泉ニ斗入ス、丹南、獨大、西南境ヲ和泉ニ接ス、其東ニ連テ、北ハ志紀、南ハ石川二郡ニ正接スルヲ、古市郡ト云フ、石川郡東大和ニ接壤シ、西南錦部郡ト相表裏シ、俱ニ北方ニ位シテ、廣狹相均ク、國中ニ在テノ大郡ナリ、以上總テ十六郡、人口、二十六万三千九百九十九十四年ノ調査ニ據ル

全國ノ地、南北ニ長ク、東西甚狹シ、山脉三方東北、東、南、西南ヲ繞リ、地勢高隆、山徑險隘、獨攝津ニ接スルノ處、開濶平易、河渠縱

横、土壤膏沃、生齒繁多ナリ、氣候極暑九十三度、極寒三十八九度

物産ノ主ナル者 鑛物ハ金剛砂、動物ハ鰻、鱈、鮒、植物ハ米、茶、胡瓜、甜瓜、欵冬、柿、柘榴、桃、楊桃、葡萄、银杏、木樨子、紫草、茜草、蓴菜、蓮、遠志、製造物ハ棉布、漂布、贊布、團扇、笠、馬術、鍋製造、食物ハ酒、糗、索、麵、干瓢、氷豆腐等ナリ

山論

山脉及諸山

國ノ三方東北、東、南、西南ヲ繞圍スル山脉、即國界線ハ、東方大和ヨリ來リ、起伏連續、恰郭壁ヲ繞スカ如シ、今其方向形勢ニ隨フテ、東北、東南及西南ノ三大節ニ分割ス、

東北脉

本脉ハ天手山山城大和河内ヨリ南北ニ二分ス、其西北ニ
赴クモノハ、淀河ノ左岸ニ延キ、脉絡短小、山城國、西南脉ノ
一部ニシテ、本國トノ國境脉ヲナス支脉ナリ、荒坂山、洞峠
及、男山等アリ、山城誌ヲ參照ス其西南ニ赴クモノハ、漸南シテ、
大和河ノ右岸ニ盡ク、脉絡長大、生駒山、高安山等、本脉内ニ
秀出シ、基脚廣大、兩國ニ跨ル、山徑數條、其南北ヲ横過ス、
別記ス、大和誌ヲ參照ス以上ニ山脉ヲ合シテ東北脉ト云フ、
洞峠、本脉ノ稍北端ニアリ、北男山ハ幡ト相近シ、正平七年
三月、南朝ノ諸將、帝ヲ奉シテ男山ニ據ル、足利義詮、諸軍ヲ
督シ、京ヨリ宇治ヲ迂回シテ、木津川ヲ濟リ、其背ニ出テ、洞

洞峠陣地

荒坂山古戦地

峠ニ陣シ、以テ河内ノ糧道ヲ絶ツ、南朝楠正儀等ヲシテ、紀
伊兵三ニ將トシ之ヲ援テ、細川顯氏、土岐頼康足利氏將等ト
大ニ荒坂山ニ戦フ、此山洞峠ノ東南ニ屹ツ、山路峻峻、顯氏
等ノ兵山下ニ在ルモノ、皆馬ヲ下リ徒歩シテ上ル、南兵正
儀ノ降射北兵死傷頗多ク、山上ノ軍北又敗ル、義詮之ヲ聞キ、
終ニ軍ヲ退ク、南軍ノ糧道復通ス、天正十年六月、明智光秀、
男山ヲ經テ、洞峠ニ陣シ、筒井順慶大和ニ招ク、順慶到ラ
ス、乃其將齋藤利三ヲ置キ、自ラ淀城山城ニ到テ、城壘ヲ修ス、尋
テ山崎ノ役山城アリ、荒坂山ノ南、下淡ヲ隔ツル一山ヲ、國見
山ト云ス、其脉天王山ヨリ延キ、東神南備山ト相對シテ、諸
山ニ秀ク、全國河内目下ニアリ、故ニ其名トス、山徑ニ條、其南

河内國志

日本部

河内國志

三

荒坂越

尊延寺越

妙見山

飯森山城址

北ヲ通ス、一ハ西麓ヲ經テ北荒坂山ニ達シ、荒坂一ハ南ニ
 四谷ニ沿テ神南備山ノ東南ニ出ツ、尊延寺越二道皆津田村野
 郡山ノヨリ岐分ス、下山徑ノ條地勢此ヨリ漸西北ニ平開
 シ、南方ハ山巒各地ニ崛起シテ、遠ク生駒及高安等ノ諸山
 ニ連リ、山勢益高峻ヲ極ム、其間普見妙見ノ諸山アリ、東北
 脉ノ西坡中最秀ツ妙見山ノ頂巨石鼎峙、山中清泉多シ、諸
 水ノ水源ヲナス、飯盛山其西南ニ在リ、頂圓シテ高ク草木
 森鬱、相距ル凡一里餘、城址ヲ存ス、建武ノ末、僧正憲北條高時
 相模築而ノ之ニ據リ、北條氏ノ舊業ヲ復セント欲ス、近國
 ノ將士多ク之ニ應ス、楠正成詔ヲ奉ノ來リ攻ム、戰爭連日、
 官軍屢勝シ、然レモ城未陷ラス、正成乃計ヲ設ケ、佯テ陣營

ヲ燒ク、城兵機ニ乗シ、衆ヲ盡シテ出テ戰ス、正成其隙ヲ窺
 ヒ、急ニ城ニ入り、遂ニ之ヲ拔ク、正憲之ニ死ス、正平以降永
 祿ニ至ル、高師直三好長慶等、前後之ニ居ル、元龜三年、遊佐
 信教、畠山昭高ヲ輔ケテ此ニ居ル、天正二年四月、信教篡奪
 既ニノ織田信長ノ滅スル所トナル、此城高キニ位シ、三方
 凹谷ヲ繞ヒ、南北ニ山徑ノ中間ニ屹ク、西北遙ニ淀河ニ至ル
 ノ地ニ望ニ屬ス、十年六月、本能寺ノ變、徳川家康據リ以テ
 光秀ノ兵ヲ防ント議ス、諸將兵ノ寡ヲ以テ肯セス、乃三河
 ニ逃ル、豊臣氏ニ至リ、城終ニ廢ス、其南凡一里半、諸山ニ秀
 出スル二山ヲ鷲尾及六万寺ト云フ、山勢俱ニ峻、山徑ニ條
 其南北ヲ通ス、北ニアルハ暗峠ニ、南ニアルハ十三峠以上大和

兵要地志

日本部

河内國志

四

神立村陣地

千塚村陣地

高安城址

ノ境ニアリ下山ニ達スヘシ、六万寺山ノ西南ニ接ル、花岡
 山アリ、甚高カラス、西ニ開ク、神立村^{河内郡}其麓ニアリ、是ヨ
 リ東スレハ、即十三峠ニ至ルヲ得、凡二十^丁大坂夏ノ役、井伊
 直孝ノ陣地タリ、千塚村西南麓ニアリ、二村相距ル半里許、
 同年役、藤堂高虎此ニ陣ス、地勢山ヲ東ニシ、河ヲ西ニス、大
 坂城^{攝津}ノ正東、凡二里餘ニアリ、千塚ノ東南、國境脈ニ近接
 スル一山ヲ、高安山ト云フ、分脈四出、東信貴山^秋ト相接シ、
 南ハ遠ク大和河ノ右岸ニ連ナリ、高フシテ頂平、近ク國內
 ヲ俯視シ、遠ク大坂灣、水島灘等ヲ望ムヘシ、同名ノ古城址
 ヲ存ス、天智帝八年二月ノ築造ト云フ、讚岐ノ屋島城、對馬
 築造ナリ、當時稱シテ三城、後持統帝此ニ幸シ、文武帝又之
 ト云フ、本城ハ其一ナリ

ヲ修ス、國境ニ在テノ要鎮トス、後大寶元年八月ニ至リ、城
 廢ス、壬申ノ亂^{天武ニ帝皇}西軍^{文帝此ニ據ル}ノ軍、此ニ據ル、
 本脈ヲ過キ、山城及大和ニ通スル、中徑數條アリ、左一列叙
 ス、

第一 洞峠^{喜郡}越トス、本脈ノ稍北端ニアリ、招提寺村^{交野郡}ヨ

リ、八幡驛^{山城縣}ニ通ス、北京都ニ達スルノ縣道線ニ當
 ル、南北朝ノ時、北軍此ニ陣シ、以テ南軍ノ糧道ヲ塞ク、本
 洞峠ノ條ヲ
 參照スヘシ

第二 荒坂越トス、荒坂山ニアリ、長尾村^{交野郡}ヨリ、箕山村^{山城縣}
 喜郡ニ通ス、險隘ナリ、正平七年三月、楠正儀寨ヲ以テ、
 北軍ノ衆ヲ破リ、南軍ノ糧道^{第一}ヲ開ク、

第三 尊延寺越トス、山城ニ天王越ト云フ、荒坂山ノ東南

ニアリ、尊延寺村交野郡ヨリ、天王村山城縣ニ通ス、

第四 傍示越トス、天王山ノ南側ニアリ、御茶屋村交野郡ヨ

リ、傍示村大和添下郡官ニ通ス、險隘ナリ

第五 割石越舟越一名岩トス、傍示越ノ南一里餘ニアリ、妙見

山ノ北、私市村交野郡ヨリ、北田原村大和添下郡ニ通ス、天川河

第六 生駒越トス、生駒山ノ北ニアリ、中垣内村讚良郡ヨリ、

山崎村大和平郡ニ通ス

第七 暗峠越トス、舊名軒智峠又形、生駒山ノ南ニアリ、六

寺山ノ北、豊浦村河内郡ヨリ、小瀬村大和平郡ニ出ス、大和街

道線ノ通スル処ニシテ、縣道ナリ、往時松杉蒨鬱、晝暗シ

故ニ名ク、今ハ繁鬱セス、路甚險隘ナラス、交通稍易シ、神

武帝東征ノ役、前軍此ヨリ將ニ大和ニ入ントス、長髓彦

第八 十三峠トス、大和ニ龍田越ト稱ス、神立村高安郡ヨリ

福貴村大和平郡ニ出ツ、奈良街道線ノ通スル處ニ、縣道

ナリ、高低多シ、南北ニ樵路アリ、北ニアルヲ業平河内通

第九 龜瀨越トス、本脉ノ稍南端ニアリ、青谷村大縣郡ヨリ

龍田村大和平郡ニ通ス、以上山徑中、大和ニ達スル最捷路

トス、木坂夏ノ役、堀直寄、此ヨリ本國ニ入ル